

第2章

救急活動統計

第1節 救急出場件数

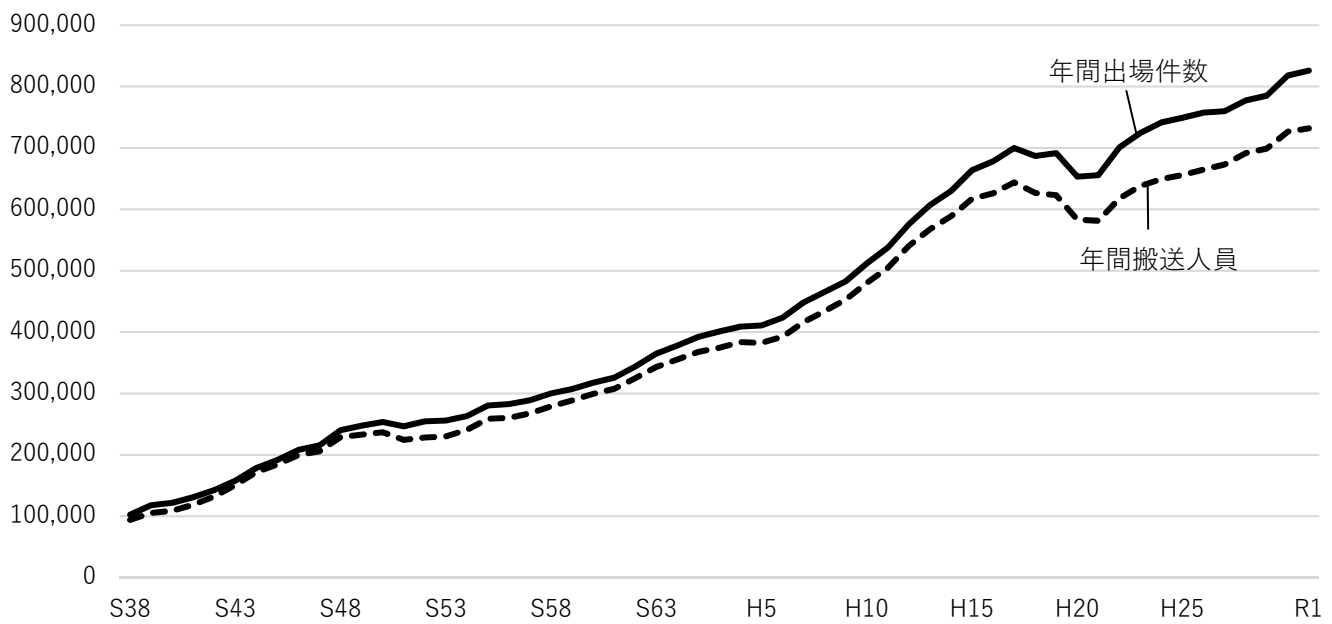
1 救急業務法制化以降の推移

(1) 出場件数・搬送人員・救急隊数の推移

救急出場件数は、救急業務が法制化された昭和38年(1963年)の102,660件から令和元年(2019年)には825,929件となり、56年間で約8.0倍の増加となっています。

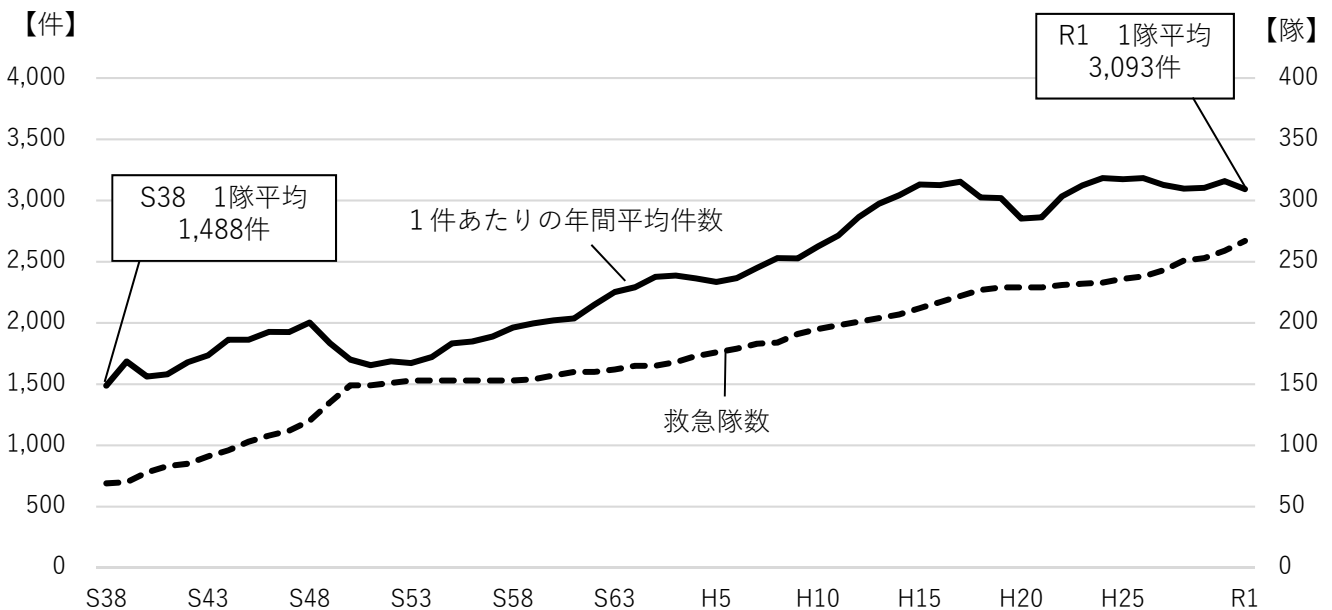
同じく救急隊数の推移は、69隊から267隊と約3.8倍の増加で、1隊あたりの年間平均出場件数は1,488件から3,093件と約2.0倍の増加となっています。

図表 2-1-1 救急業務法制化以降の救急出場件数・搬送人員の推移



S38～S50は搬送人員のデータがないため「救護人員」としています。

図表 2-1-2 救急隊数及び1隊あたり年間平均出場件数の推移



図表 2-1-3 救急出場件数等の推移（年次別）

年次	出場件数	搬送人員	隊数	年次	出場件数	搬送人員	隊数
昭和11年	1,022	837	6	昭和54年	263,141	240,936	153
昭和12年	1,736	1,307	6	昭和55年	280,395	258,860	153
昭和13年	1,937	1,528	6	昭和56年	282,886	260,399	153
昭和14年	2,206	1,922	6	昭和57年	289,090	267,804	153
昭和15年	2,161	1,834	6	昭和58年	300,299	279,163	153
昭和16年	2,208	1,787	6	昭和59年	307,420	288,735	154
昭和17年	1,330	1,298	7	昭和60年	317,375	299,590	157
昭和18年	1,220	1,185	7	昭和61年	325,931	307,560	160
昭和19年	962	881	7	昭和62年	343,951	324,981	160
昭和20年	245	239	3	昭和63年	364,902	343,312	162
昭和21年	1,231	1,199	18	平成元年	378,205	355,654	165
昭和22年	2,897	2,660	19	平成2年	392,200	367,848	165
昭和23年	3,089	2,722	17	平成3年	401,104	374,616	168
昭和24年	3,967	3,608	17	平成4年	408,864	383,550	173
昭和25年	7,846	7,534	19	平成5年	410,828	382,410	176
昭和26年	10,108	9,267	23	平成6年	423,584	392,423	179
昭和27年	10,747	9,684	23	平成7年	448,450	416,173	183
昭和28年	12,475	10,985	25	平成8年	465,548	434,206	184
昭和29年	15,665	13,465	25	平成9年	482,612	453,004	191
昭和30年	19,159	16,075	25	平成10年	511,892	480,139	195
昭和31年	25,320	21,350	25	平成11年	537,416	504,675	198
昭和32年	33,478	28,691	30	平成12年	575,690	540,660	201
昭和33年	44,120	37,882	39	平成13年	606,695	567,451	204
昭和34年	54,968	47,459	49	平成14年	629,883	588,502	207
昭和35年	70,206	62,905	57	平成15年	663,765	616,996	212
昭和36年	80,468	73,088	62	平成16年	678,178	626,231	217
昭和37年	87,432	80,568	66	平成17年	699,971	643,849	222
昭和38年	102,660	94,095	69	平成18年	686,801	626,543	227
昭和39年	117,948	105,439	70	平成19年	691,549	623,012	229
昭和40年	121,865	108,974	78	平成20年	653,260	583,082	229
昭和41年	131,160	118,774	83	平成21年	655,631	581,358	229
昭和42年	142,710	132,368	85	平成22年	700,981	617,819	231
昭和43年	157,832	150,972	91	平成23年	724,436	638,093	232
昭和44年	178,828	171,937	96	平成24年	741,702	649,429	233
昭和45年	191,890	184,420	103	平成25年	749,032	655,925	236
昭和46年	208,155	199,965	108	平成26年	757,554	664,629	238
昭和47年	215,621	205,896	112	平成27年	759,802	673,145	243
昭和48年	240,419	229,059	120	平成28年	777,382	691,423	251
昭和49年	247,559	232,993	135	平成29年	785,184	698,928	253
昭和50年	253,476	236,859	149	平成30年	818,062	726,428	259
昭和51年	246,682	224,291	149	令和元年	825,929	731,900	267
昭和52年	254,709	228,289	151				
昭和53年	255,853	230,109	153	総数	25,683,150	23,457,841	-

昭和11年～昭和50年は搬送人員のデータがないため救護人員としています。

隊数は各年12月31日現在の数を示しています。

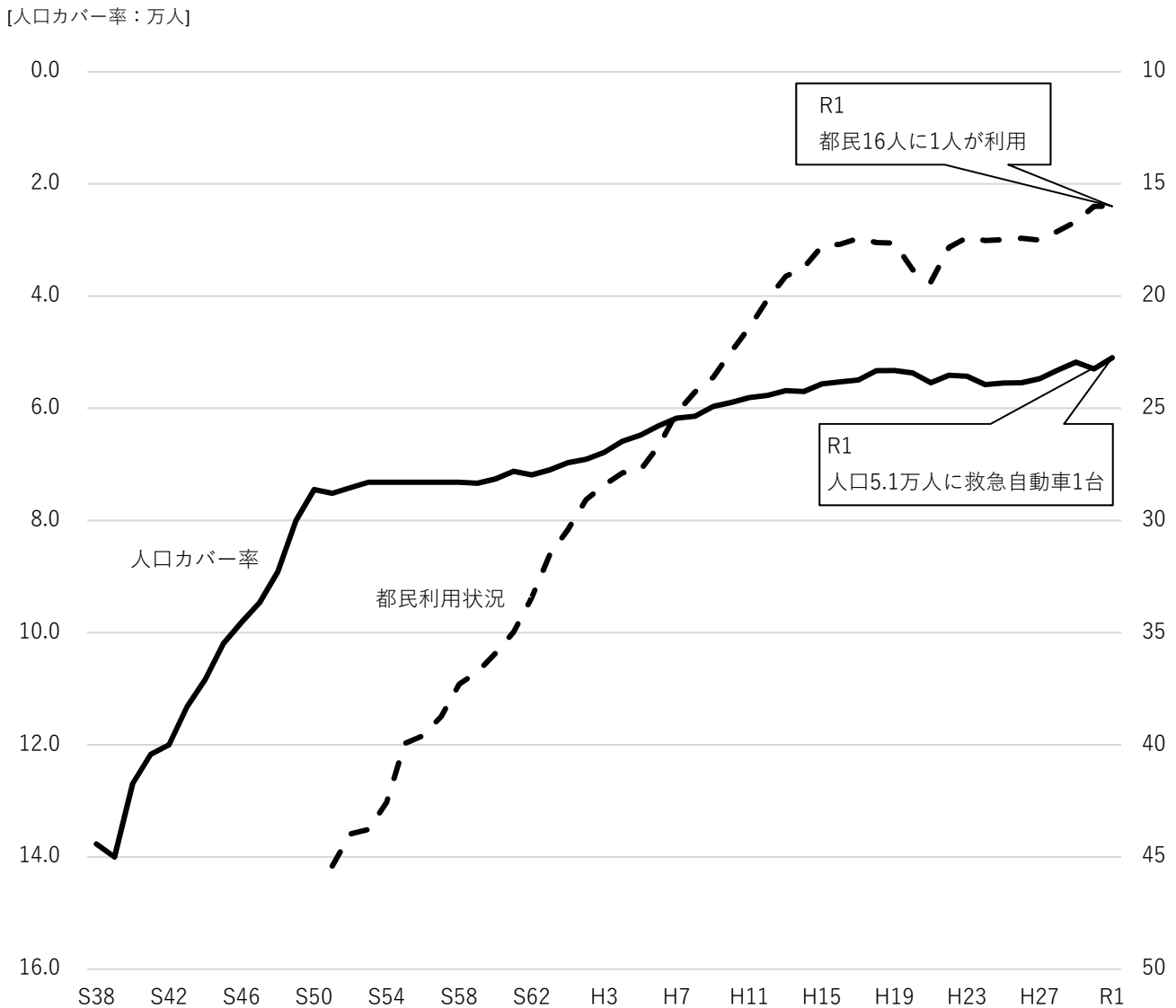
(2) 救急隊1隊あたりの人口カバー率と救急車利用状況の推移

救急隊1隊がカバーする人口割合（人口カバー率）は、昭和52年当時は人口約7.5万人に1隊でしたが、令和元年には約5.1万人に1隊となりました。

一方、同年での比較における都民の救急車の利用状況は、都民45人に1人の利用であったものが、16人に1人の利用となっています。

これは、都民の救急車利用頻度の上昇が救急隊の人口カバー率の上昇を上回っていることを示しています。

図表 2-1-4 救急隊1隊あたりの人口カバー率と都民の救急車利用状況の推移



都民の救急車利用状況のデータについては、昭和51年以降のデータを表示しています。

2 過去5年間の推移

平成27年から令和元年までの、過去5年の東京消防庁の救急出場件数の推移及び平成30年中における全国の出場件数は次のとおりです（平成31年4月1日現在、全国救急隊数5,215隊、救急車台数（非常用含む）6,364台）。

図表 2-1-5 過去5年間の救急出場件数等の推移

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	全国※
出場件数	759,802	777,382	785,184	818,062	825,929	6,605,213
対前年増加数（件）	2,248	17,580	7,802	32,878	7,867	263,066
対前年増加率（％）	0.3	2.3	1%	4.2%	1.0%	4.1
1日平均件数	2,082	2,124	2,151	2,241	2,263	18,096
1隊あたり平均件数	3,127	3,110	3,103	3,159	3,093	-
1隊1日平均件数	8.6	8.5	8.5	8.7	8.5	-
都民（国民）の利用状況 （何人に1人の割合）	18人	17人	17人	16人	16人	21人
出場頻度 （何秒に1回の割合）	42秒	41秒	40秒	39秒	38秒	4.8秒
人口1万人あたりの件数	571	580	581	600	602	520

全国の数値は平成30年中のものであります。

3 日別最多出場件数

令和元年中日別救急出場件数で最も多かったのは8月3日の3,058件でした。過去を含めた日別出場件数は以下のとおりです。

図表 2-1-6 日別出場件数上位10日

順位	年月日	件数
1	平成30年7月23日	3,382
2	平成30年7月22日	3,124
3	平成30年7月21日	3,092
4	令和元年8月3日	3,058
5	平成30年8月3日	3,048
6	平成30年7月18日	3,036
7	令和元年8月1日	3,003
8	平成30年7月20日	2,990
9	平成30年7月19日	2,979
10	令和元年8月2日	2,978

4 救急隊別出場件数の推移

令和元年中、1隊あたりの最多出場件数は、大久保救急隊の4,438件でした。

また、出場件数3,000件を超えた救急隊は、全隊数の68.9%にあたる184隊でした。

図表 2-1-7 救急隊別出場件数上位10隊の推移

順位	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	1	大久保	4,385	大久保	4,304	大久保	4,278	大久保	4,364	大久保
2	戸塚	3,902	深川	3,891	豊島	3,801	芝	4,118	芝	4,116
3	砂町	3,893	高円寺	3,856	大島	3,770	豊島	4,006	池袋	3,906
4	京橋	3,835	杉並	3,809	池袋	3,769	王子	3,941	大島	3,882
5	深川	3,792	日本橋	3,791	芝	3,751	池袋	3,900	練馬	3,881
6	大島	3,770	池袋	3,788	板橋	3,735	麻布	3,886	三田	3,878
7	西新宿第1	3,759	板橋	3,771	蓮根	3,732	志村坂上	3,876	赤羽台	3,877
8	池袋	3,759	豊島	3,757	高島平	3,726	本郷	3,872	江戸川第1	3,854
9	南綾瀬	3,756	常盤台	3,748	日本橋	3,713	日本橋	3,850	八王子第1	3,827
10	立花	3,743	蓮根	3,743	赤羽台	3,712	練馬	3,826	志村坂上	3,819
3,000件以上の隊	172隊		189隊		177隊		191隊		184隊	
全隊数※	243隊		251隊		253隊		259隊		267隊	
割合	70.8%		75.3%		70.0%		73.7%		68.9%	

※各年12月31日現在

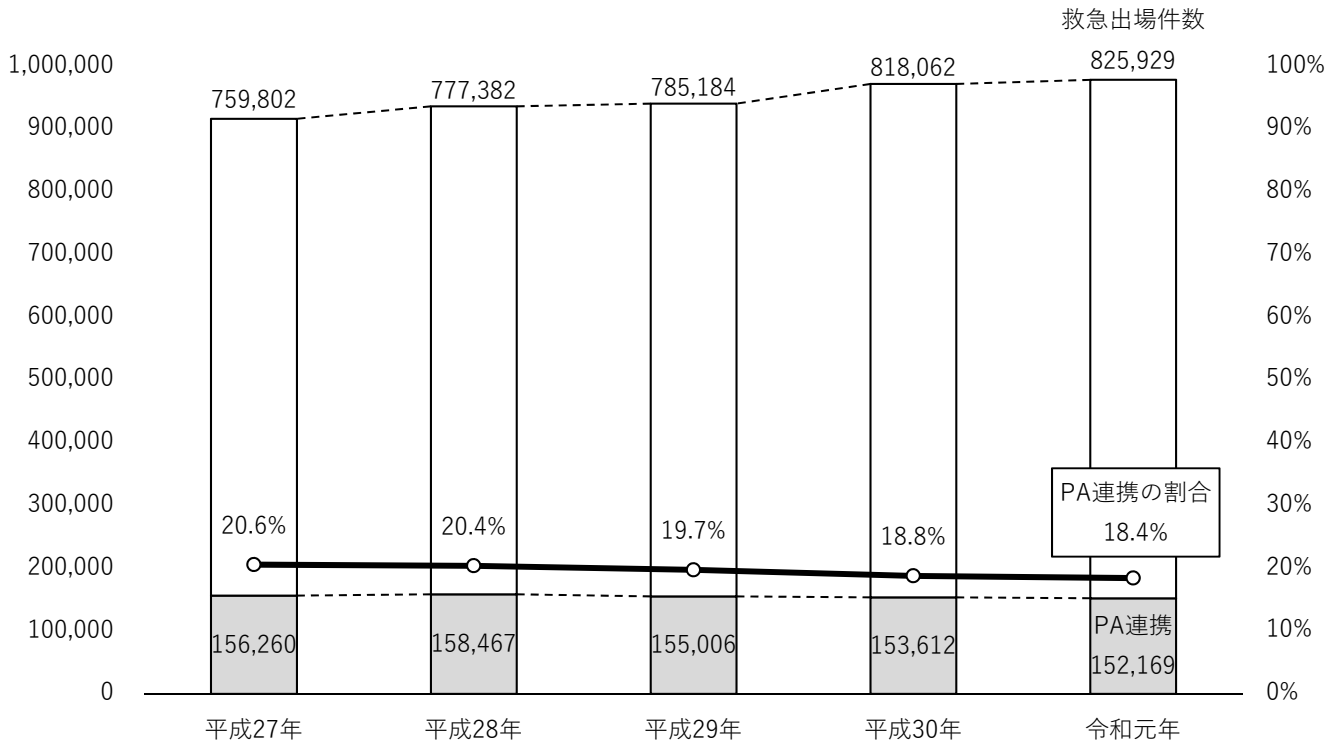
図表 2-1-8 救急隊別出場件数

隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数
本庁計	7,815	玉川	3,374	西が丘	807	深川	3,517	小川	3,105
本部機動第1	3,004	奥沢	3,061	赤羽台	3,877	有明	2,607	花小金井	3,482
本部機動第2	3,183	用賀	3,336	滝野川	3,134	枝川	3,046	東村山	2,835
本部機動第3	599	玉川新町	3,168	三軒家	3,490	豊洲	3,057	秋津	2,817
本部機動第4	626	成城	3,190	田端	3,585	森下	3,156	本町	3,205
航空機動	403	千歳第1	3,141	10方面計	63,799	城東	3,708	国分寺	3,367
1方面計	49,050	千歳第2	2,987	板橋	3,777	東砂	3,194	戸倉	2,956
丸の内	3,531	烏山	2,854	常盤台	3,696	大島	3,882	狛江	2,945
永田町	3,249	渋谷第2	3,606	小茂根	3,442	砂町	3,109	猪方	2,289
神田	3,732	渋谷第1	3,731	志村	3,495	本田第2	3,139	北多摩西部	2,821
三崎町	3,156	恵比寿	3,423	連根	3,540	本田第1	3,349	三ツ木	2,316
京橋	3,572	松濤	3,461	赤塚	3,423	南綾瀬	3,401	東大和	2,853
銀座	3,514	代々木	3,118	志村坂上	3,819	青戸	3,296	清瀬	2,358
日本橋	3,738	富ヶ谷	3,021	高島平第1	3,609	奥戸	2,965	竹丘	643
月島	3,296	原宿	2,814	高島平第2	727	金町	2,950	東久留米	3,056
芝	4,116	4方面計	90,716	練馬	3,881	亀有	3,345	新川	2,536
三田	3,878	四谷	3,600	平和台	3,514	柴又	2,871	西東京	3,319
麻布	3,796	新宿御苑第1	3,741	貫井	3,414	水元	2,969	田無	3,195
赤坂	3,427	新宿御苑第2	3,530	光が丘	3,615	江戸川第2	3,651	西原	3,473
高輪	3,454	牛込	3,525	北町	3,633	江戸川第1	3,854	保谷	574
港南	2,591	新宿第2	3,055	石神井	3,289	小松川	3,336	9方面計	86,515
2方面計	65,001	新宿第1	3,188	関町	3,245	瑞江	2,978	9本部機動	1,197
2本部特殊	1	落合	3,558	大泉	3,159	葛西第2	3,369	八王子第2	3,714
2本部機動	36	戸塚	3,652	大泉学園	3,100	葛西第1	3,576	八王子第1	3,827
品川	3,392	大久保	4,438	石神井公園	3,421	船堀	3,356	元八王子	3,017
大崎	3,247	西新宿第1	3,516	6方面計	77,080	南葛西	2,797	小宮	2,987
五反田	3,605	西新宿第2	3,325	6本部機動	209	小岩	3,007	浅川	3,076
大井	2,995	中野	3,570	上野	3,627	篠崎	2,505	浅川特殊(小型)	54
滝王子	3,042	宮園	3,057	下谷	3,437	南小岩	3,309	北野	3,099
八潮	2,402	東中野	3,400	谷中	2,802	北小岩	2,941	由木	2,898
荏原	3,316	野方第2	3,242	浅草	3,197	8方面計	129,367	みなみ野	2,412
旗の台	3,169	野方第1	3,374	浅草橋	3,240	8本部機動	32	檜原	2,965
大森	3,126	鷺宮	3,086	日本堤	3,350	立川	2,902	青梅	2,666
馬込	3,006	杉並	3,505	今戸	2,917	錦町第1	3,490	日向和田	1,439
市野倉	3,213	永福	3,071	荒川	3,268	錦町第2	3,314	長淵	1,881
山谷	3,184	堀ノ内	3,168	南千住	2,985	国立	3,266	町田第2	3,077
森ヶ崎	2,547	阿佐ヶ谷	3,475	尾久	3,297	砂川	2,811	町田第1	3,238
田園調布	3,123	高円寺	3,665	尾竹橋	3,004	武蔵野	2,904	忠生	2,781
久が原	3,012	高井戸	3,203	千住第2	2,825	武蔵境	2,916	南	2,698
蒲田	3,536	荻窪	3,214	千住第1	3,004	吉祥寺	2,732	鶴川	2,835
羽田	2,925	西荻	2,898	足立第2	3,324	三鷹	3,052	西町田	2,291
空港	980	久我山	2,608	足立第1	3,508	下連雀	3,080	成瀬	3,198
矢口	2,824	下井草	3,052	綾瀬	3,497	大沢	2,833	日野	3,189
下丸子	2,629	5方面計	61,471	淵江	3,576	府中	3,197	豊田	3,149
西蒲田	3,367	小石川	2,986	大谷田	3,305	分梅	3,012	高幡	3,368
西六郷	2,324	大塚	3,440	神明	3,150	是政	2,899	福生	2,610
3方面計	77,998	本郷	3,686	西新井	3,407	栄町	3,037	羽村	2,603
3本部特殊	12	根津	3,328	大師前	3,341	朝日	2,599	瑞穂	2,028
目黒第2	3,385	豊島	3,719	上沼田	3,271	朝日特殊	10	熊川	2,337
目黒第1	3,563	巣鴨	3,567	本木	2,897	昭島	2,712	多摩	3,129
碑文谷	772	目白	3,400	舎人	2,642	昭和	2,757	多摩センター第1	3,287
大岡山	2,910	池袋	3,906	7方面計	116,699	大神	2,823	多摩センター第2	677
世田谷	3,647	池袋イタイム	710	本所	3,589	調布	3,041	秋川	1,783
宮の坂	3,101	長崎	3,471	緑	3,517	つつじヶ丘	3,182	秋留台	2,039
松原第1	3,071	高松	3,609	東駒形	3,212	国領	3,219	檜原	552
松原第2	2,890	王子	3,730	向島	3,733	小金井	3,208	奥多摩	414
三宿	3,525	十条	3,618	墨田	2,790	緑町	2,918		
上北沢	2,837	赤羽	3,408	立花	3,618	小平	3,276		

5 PA連携と救急出場件数

過去5年の推移をみると、救急出場件数に占めるPA連携件数の割合は、ほぼ横ばいです。運用区分別では「救命」が78.1%を占め、次いで「搬送困難」の割合が多くなっています。

図表 2-1-9 PA連携活動の件数及び救急出場件数に占める割合の推移



図表 2-1-10 PA連携活動運用区分別構成比率の推移

年度	救命	その他
令和元年	78.1%	21.9%
平成30年	78.1%	21.9%
平成29年	79.3%	20.7%
平成28年	79.6%	20.4%
平成27年	78.1%	21.9%

[運用区分「救命」以外の内訳]

年度	搬送困難	傷害等	繁華街等	直近地域	遅延
令和元年	16.4%	0.9%	2.6%	1.5%	0.5%
平成30年	16.1%	0.9%	2.6%	1.6%	0.7%
平成29年	14.6%	1.1%	2.3%	2.0%	0.8%
平成28年	14.3%	1.0%	1.9%	2.3%	0.9%
平成27年	15.5%	1.1%	1.9%	2.1%	1.3%

図表 2-1-11 所属別 PA 連携活動件数

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA連携 の割合
丸の内	654	123	4	2	14	1	798	3,531	22.6%
麹町	419	354	3	1	131	2	910	3,249	28.0%
神田	763	309	22	20	57	1	1,172	6,888	17.0%
京橋	738	319	14	21	10	1	1,103	7,086	15.6%
日本橋	654	223	8	-	8	-	893	3,738	23.9%
臨港	481	49	12	-	4	1	547	3,296	16.6%
芝	1,296	227	19	4	7	4	1,557	7,994	19.5%
麻布	731	200	36	355	77	18	1,417	3,796	37.3%
赤坂	579	398	9	5	91	1	1,083	3,427	31.6%
高輪	759	172	12	10	16	3	972	6,045	16.1%
品川	1,249	205	11	2	23	5	1,495	10,244	14.6%
大井	818	128	6	-	17	2	971	8,439	11.5%
荏原	1,094	241	9	1	15	10	1,370	6,485	21.1%
大森	1,758	373	17	41	20	4	2,213	15,076	14.7%
田園調布	1,287	265	5	-	24	4	1,585	6,135	25.8%
蒲田	1,772	331	21	2	82	9	2,217	7,441	29.8%
矢口	1,038	230	10	1	2	5	1,286	11,144	11.5%
目黒	1,809	391	24	-	21	11	2,256	10,630	21.2%
世田谷	2,901	879	33	234	18	11	4,076	19,071	21.4%
玉川	1,548	590	6	-	12	9	2,165	12,939	16.7%
成城	1,858	371	15	-	6	16	2,266	12,172	18.6%
渋谷	2,640	561	54	471	26	3	3,755	23,174	16.2%
四谷	659	169	27	92	99	3	1,049	10,871	9.6%
牛込	922	364	15	1	15	3	1,320	3,525	37.4%
新宿	3,352	495	143	1,593	41	5	5,629	24,732	22.8%
中野	1,271	406	7	9	18	3	1,714	10,027	17.1%
野方	1,293	207	6	-	10	1	1,517	9,702	15.6%
杉並	2,298	439	15	2	12	10	2,776	20,087	13.8%
荻窪	1,703	424	19	65	178	10	2,399	11,772	20.4%
小石川	787	177	5	-	6	-	975	6,426	15.2%
本郷	639	191	8	95	75	-	1,008	7,014	14.4%
豊島	1,564	223	23	2	7	-	1,819	10,686	17.0%
池袋	1,338	227	27	3	10	3	1,608	11,696	13.7%
王子	989	139	5	-	7	1	1,141	7,348	15.5%
赤羽	1,447	254	16	24	35	9	1,785	8,092	22.1%
滝野川	762	172	7	-	9	-	950	10,209	9.3%
板橋	1,752	351	22	-	23	2	2,150	10,915	19.7%
志村	3,122	543	23	-	30	27	3,745	18,613	20.1%
練馬	1,774	297	13	1	10	6	2,101	10,809	19.4%
光が丘	1,185	213	12	-	25	19	1,454	7,248	20.1%
石神井	2,453	384	21	1	30	28	2,917	16,214	18.0%
上野	1,155	331	28	318	42	1	1,875	9,866	19.0%
浅草	435	126	6	-	9	-	576	6,437	8.9%
日本堤	758	333	13	44	60	5	1,213	6,267	19.4%

第2章 救急活動統計

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA連携 の割合
荒川	1,127	299	11	-	13	2	1,452	6,253	23.2%
尾久	640	279	5	-	63	2	989	6,301	15.7%
千住	1,053	258	14	35	192	-	1,552	5,829	26.6%
足立	3,355	503	26	-	35	17	3,936	20,360	19.3%
西新井	2,097	489	16	-	24	21	2,647	15,558	17.0%
本所	1,223	329	30	37	52	1	1,672	10,318	16.2%
向島	1,138	400	15	2	31	7	1,593	10,141	15.7%
深川	2,052	356	22	-	42	23	2,495	15,383	16.2%
城東	2,082	540	44	2	27	31	2,726	13,893	19.6%
本田	2,542	452	30	-	21	-	3,045	16,150	18.9%
金町	1,724	271	11	-	17	12	2,035	12,135	16.8%
江戸川	1,875	342	13	-	17	20	2,267	13,819	16.4%
葛西	1,750	98	12	-	13	22	1,895	13,098	14.5%
小岩	1,726	264	34	162	13	13	2,212	11,762	18.8%
立川	2,597	365	15	-	5	3	2,985	15,783	18.9%
武蔵野	1,166	270	9	3	5	4	1,457	8,552	17.0%
三鷹	1,420	302	9	1	6	3	1,741	8,965	19.4%
府中	2,126	315	15	1	28	6	2,491	14,754	16.9%
昭島	996	100	14	-	5	2	1,117	8,292	13.5%
調布	1,870	296	4	-	11	6	2,187	9,442	23.2%
小金井	886	193	7	-	5	-	1,091	6,126	17.8%
小平	1,501	342	8	-	7	1	1,859	9,863	18.8%
東村山	1,381	378	11	-	20	16	1,806	8,857	20.4%
国分寺	997	159	6	-	7	-	1,169	6,323	18.5%
狛江	641	170	10	-	6	1	828	5,234	15.8%
北多摩西部	1,337	270	12	-	2	1	1,622	7,990	20.3%
清瀬	732	174	6	-	7	23	942	3,001	31.4%
東久留米	1,057	210	6	-	11	4	1,288	5,592	23.0%
西東京	1,539	241	6	6	6	3	1,801	10,561	17.1%
八王子	5,222	1,050	39	196	30	45	6,582	28,049	23.5%
青梅	1,123	163	6	-	10	11	1,313	5,986	21.9%
町田	4,375	715	45	11	120	214	5,480	20,118	27.2%
日野	1,461	475	10	-	8	2	1,956	9,706	20.2%
福生	1,192	126	15	20	5	5	1,363	9,578	14.2%
多摩	1,301	219	12	-	5	8	1,545	7,093	21.8%
秋川	888	158	5	-	7	5	1,063	4,374	24.3%
奥多摩	90	45	-	-	2	2	139	414	33.6%
計	118,786	25,020	1,364	3,896	2,310	793	152,169	816,209	18.6%

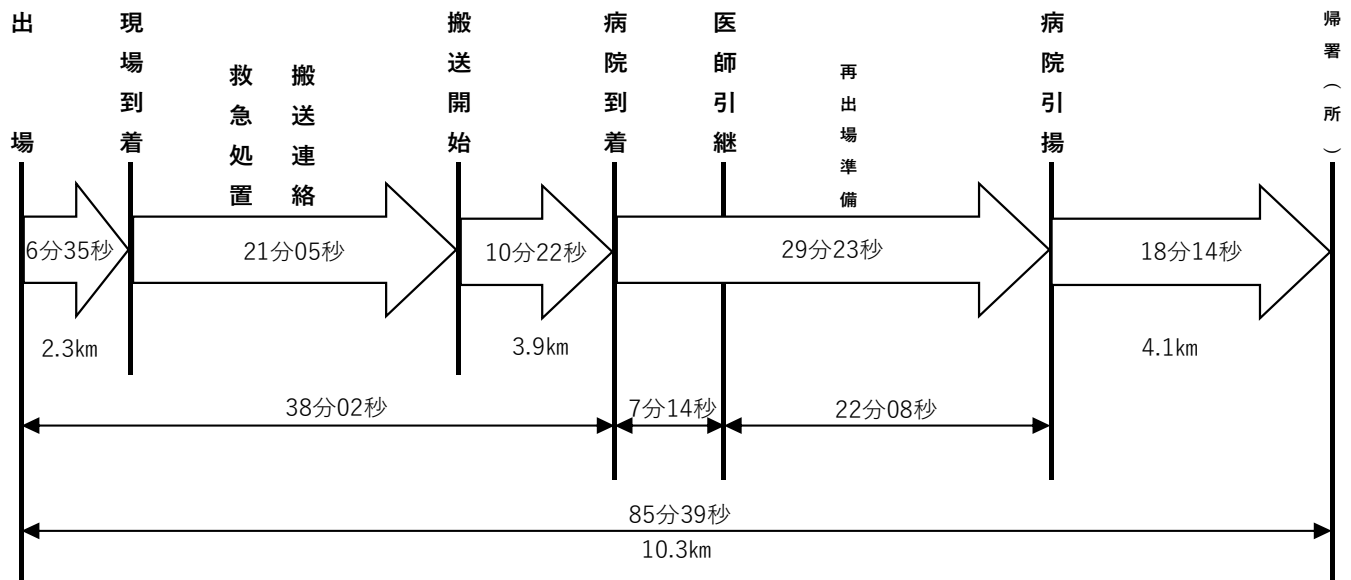
※本表において、PA 連携活動及び救急出場の件数に東京消防庁管外への出場は含まれません。

※PA 連携の割合 = PA 連携活動件数 / 管内救急出場件数

6 活動時間・距離

令和元年中の救急隊が出場してから帰署（所）するまでの救急活動平均所要時間は85分39秒で、平均走行距離は10.3kmです。

図表 2-1-12 救急活動時間と走行距離



それぞれの数値は計算により四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

7 事故種別ごとの出場件数

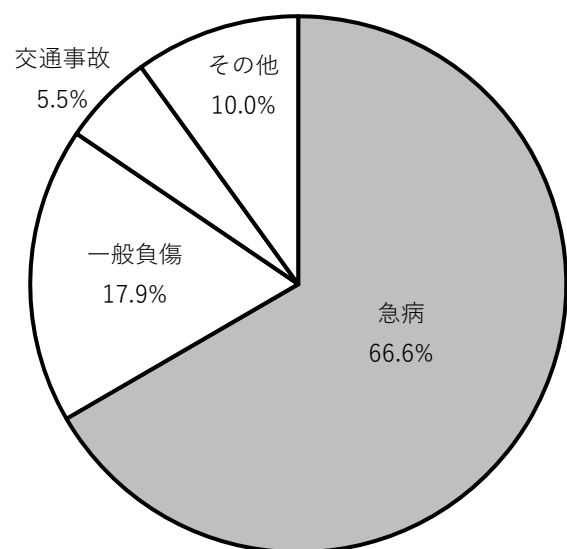
全出場件数のうち、事故種別が急病の事案が最も多く、66.6%を占めています。

図表 2-1-13 事故種別ごとの出場件数

事故種別	件数	割合
合計	825,929	100.0%
急病	550,306	66.6%
一般負傷	147,601	17.9%
交通事故	45,696	5.5%
その他	82,326	10.0%

その他の内訳

事故種別	件数	割合
転院搬送	45,179	5.5%
加害	6,112	0.7%
労働災害事故	5,404	0.7%
自損行為	5,317	0.6%
運動競技事故	5,281	0.6%
火災事故	3,539	0.4%
水難事故	880	0.1%
資器材等輸送	556	0.1%
医師搬送	211	0.0%
自然災害事故	21	0.0%
その他（上記以外）	9,826	1.2%



8 不搬送件数

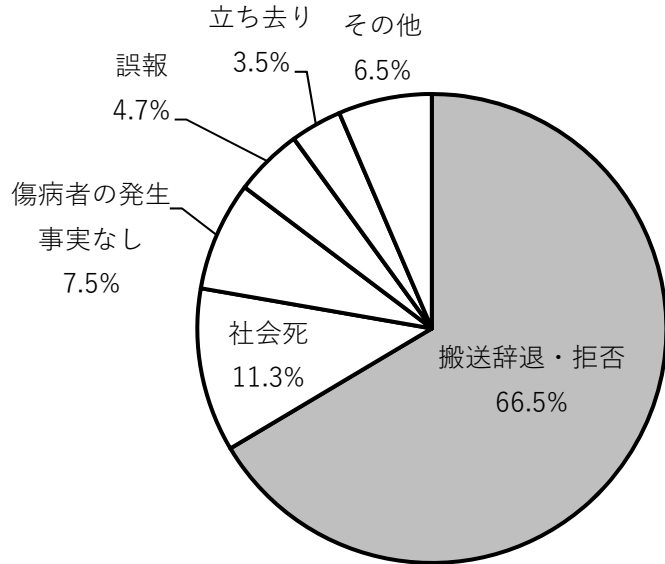
出場件数のうち 11.8%が不搬送であり、その内搬送辞退・拒否が 66.5%を占めています。

図表 2-1-14 不搬送件数の内訳

合計	825,929	100.0%
搬送件数	728,185	88.2%
不搬送件数	97,744	11.8%

不搬送の内訳

搬送辞退・拒否	64,953	66.5%
社会死	11,038	11.3%
傷病者の発生事実なし	7,368	7.5%
誤報	4,610	4.7%
立ち去り	3,467	3.5%
その他	6,308	6.5%

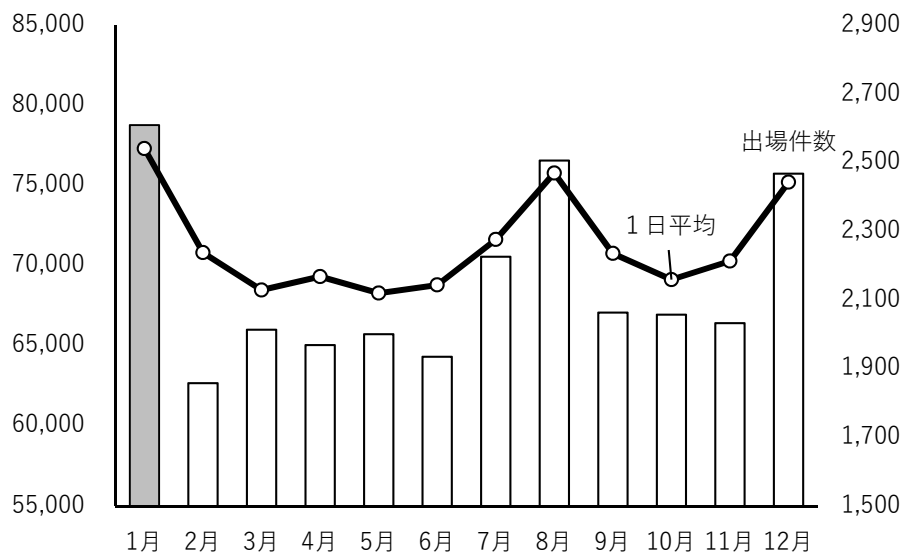


9 月別・曜日別出場件数

月別の1日平均では1月が、曜日別の1日平均では月曜日が高い割合を占めています。

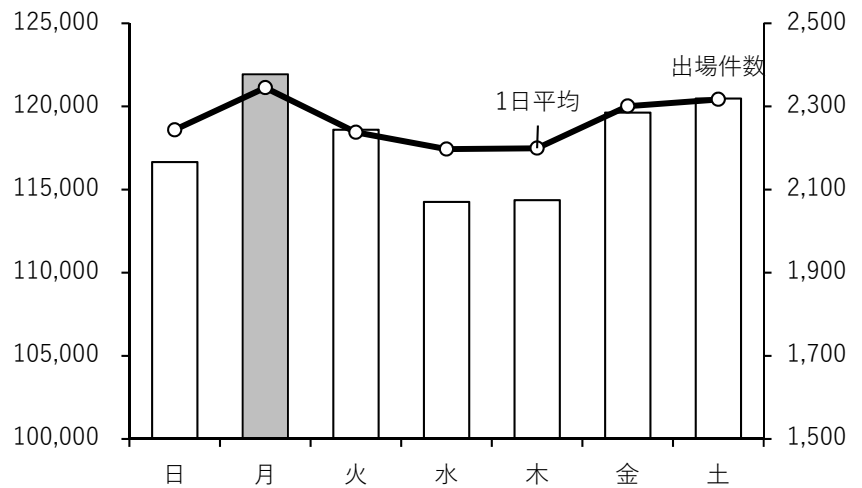
図表 2-1-15 月別出場件数

月	出場件数	1日平均
1月	78,787	2,542
2月	62,671	2,238
3月	66,011	2,129
4月	65,056	2,169
5月	65,732	2,120
6月	64,323	2,144
7月	70,572	2,277
8月	76,577	2,470
9月	67,080	2,236
10月	66,952	2,160
11月	66,417	2,214
12月	75,751	2,444
合計	825,929	2,263



図表 2-1-16 曜日別出場件数

曜日	出場件数	1日平均
日	116,656	2,243
月	121,935	2,345
火	118,601	2,238
水	114,261	2,197
木	114,367	2,199
金	119,632	2,301
土	120,477	2,317
合計	825,929	2,263

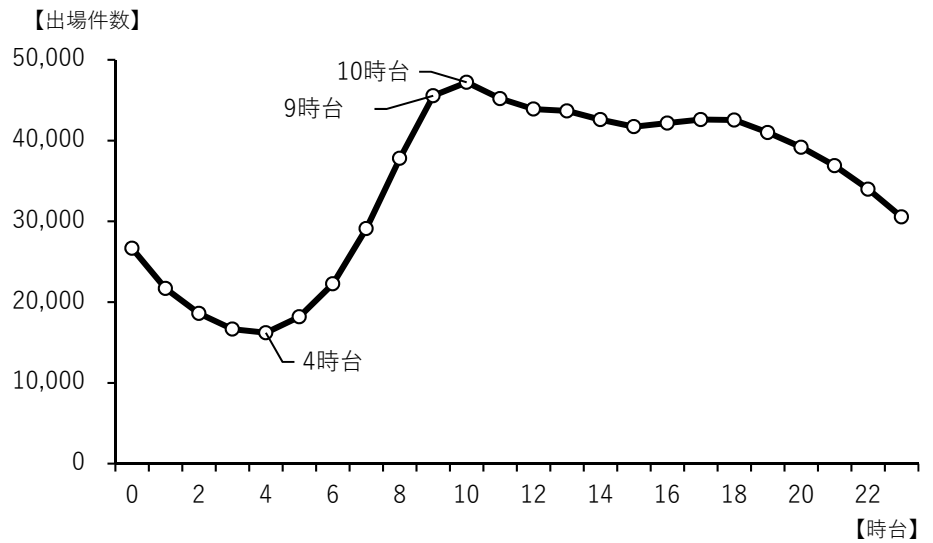


10 時間帯別出場件数

時間帯別では、通勤・通学時間帯である9時から10時台が高い割合を占めています。

図表 2-1-17 時間帯別出場件数

時間帯	出場件数	構成比
0時台	26,659	3.2%
1時台	21,690	2.6%
2時台	18,602	2.3%
3時台	16,652	2.0%
4時台	16,207	2.0%
5時台	18,178	2.2%
6時台	22,264	2.7%
7時台	29,105	3.5%
8時台	37,797	4.6%
9時台	45,559	5.5%
10時台	47,213	5.7%
11時台	45,196	5.5%
12時台	43,902	5.3%
13時台	43,671	5.3%
14時台	42,595	5.2%
15時台	41,725	5.1%
16時台	42,163	5.1%
17時台	42,606	5.2%
18時台	42,548	5.2%
19時台	41,003	5.0%
20時台	39,178	4.7%
21時台	36,891	4.5%
22時台	33,980	4.1%
23時台	30,545	3.7%
合計	825,929	100.0%



第2節 救護人員

1 救護人員

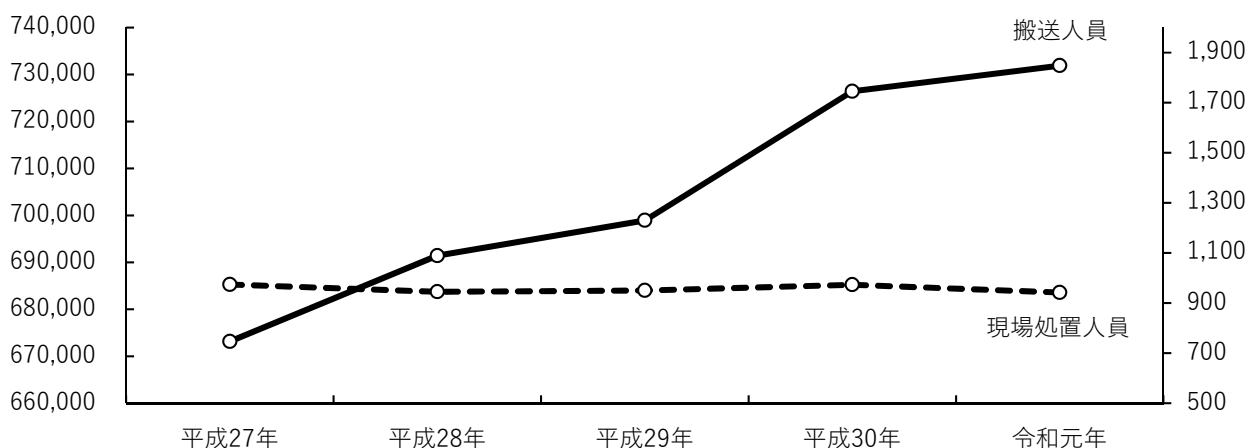
令和元年中の救護人員は732,842人、搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は731,900人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は942人となっています。

図表 2-2-1 救護人員の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
搬送人員	673,145	691,423	698,928	726,428	731,900
現場処置人員	974	945	950	973	942
救護人員	674,119	692,368	699,878	727,401	732,842

【搬送人員】

【現場処置人員】



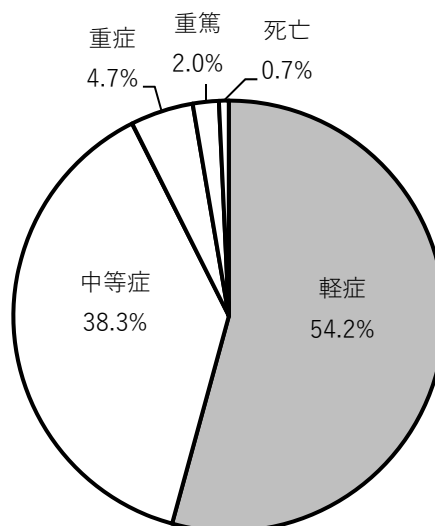
2 搬送人員

(1) 初診時程度

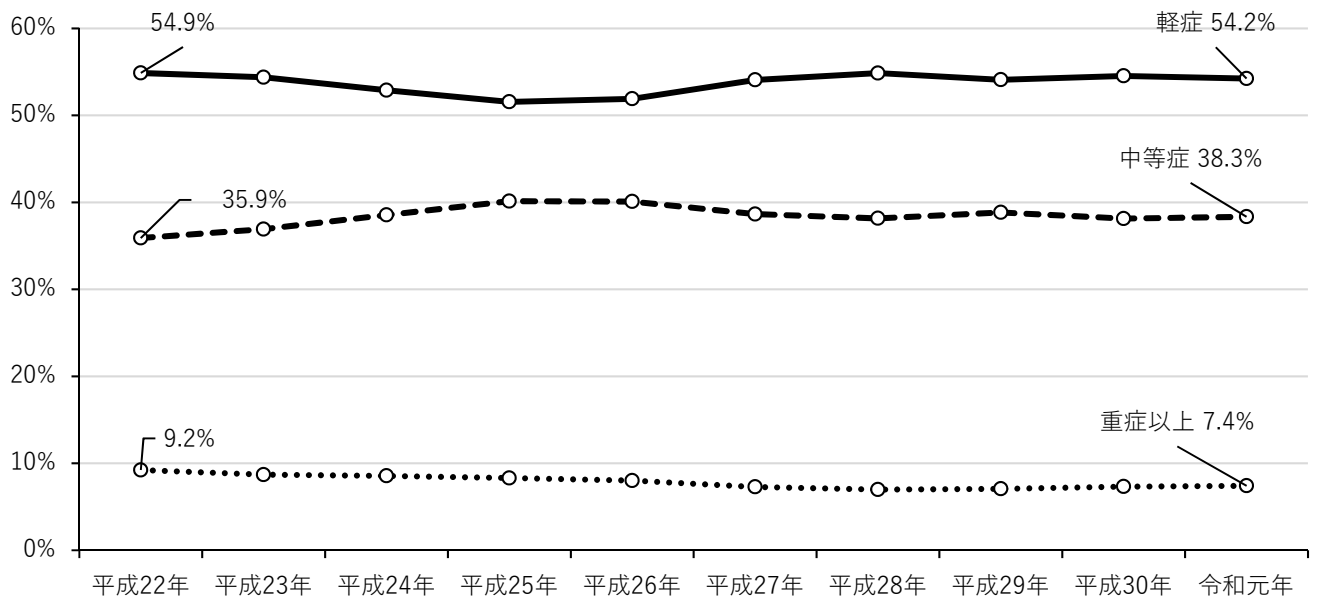
搬送人員のうち軽症が54.2%を占めています。

図表 2-2-2 初診時程度別搬送人員

初診時程度	搬送人員	割合
軽症	396,993	54.2%
中等症	280,658	38.3%
重症	34,548	4.7%
重篤	14,315	2.0%
死亡	5,386	0.7%
合計	731,900	100.0%



図表 2-2-3 過去 10 年間の初診時程度別割合の推移

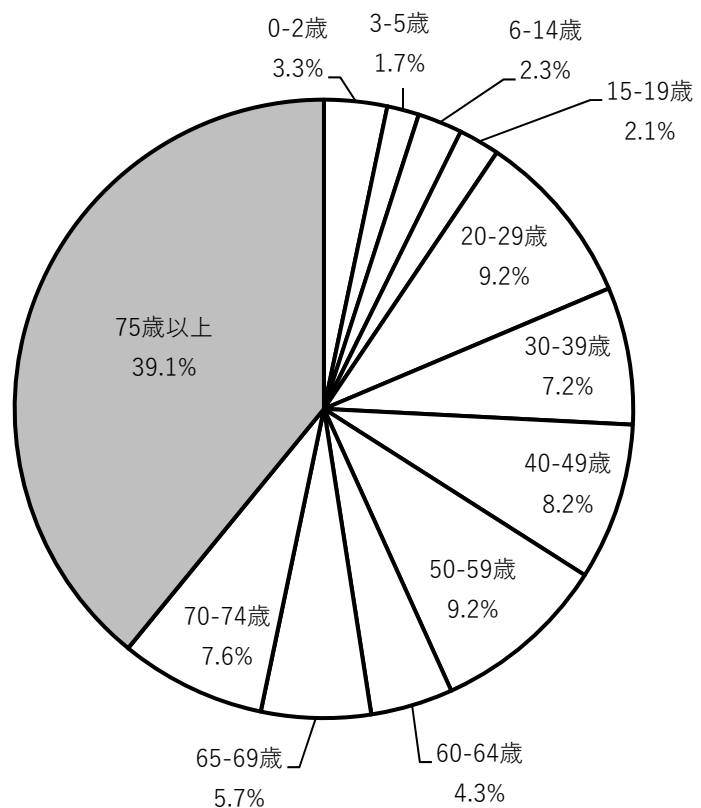


(2) 年齢層

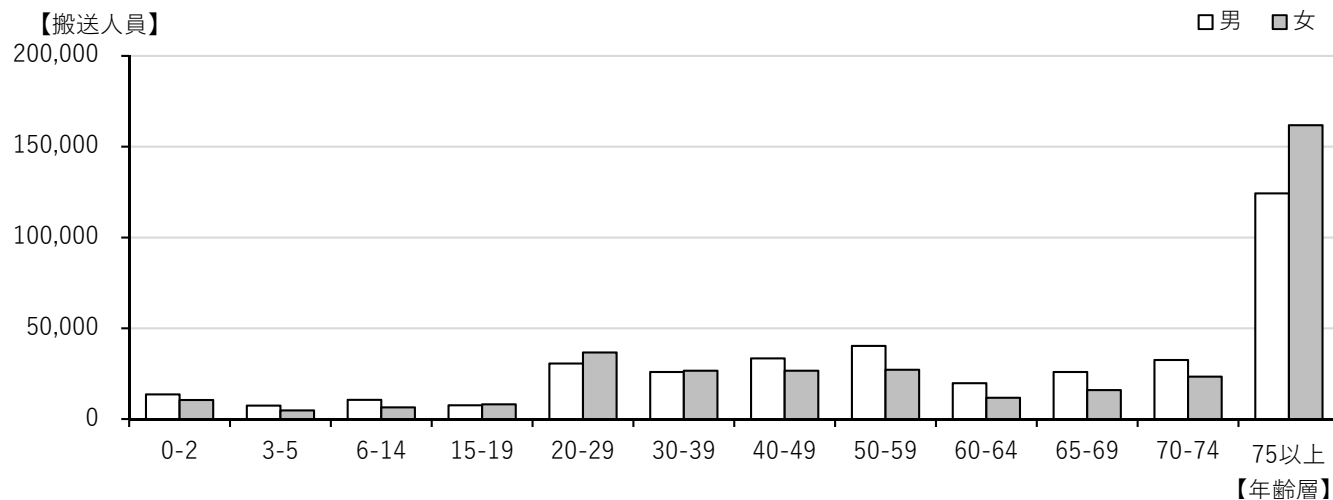
令和元年の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上の割合が最多となっています。

図表 2-2-4 年齢層別・性別搬送人員

年齢層	搬送人員	構成比
0-2歳	24,077	3.3%
3-5歳	12,246	1.7%
6-14歳	17,031	2.3%
15-19歳	15,735	2.1%
20-29歳	67,305	9.2%
30-39歳	52,560	7.2%
40-49歳	60,122	8.2%
50-59歳	67,441	9.2%
60-64歳	31,527	4.3%
65-69歳	41,891	5.7%
70-74歳	55,904	7.6%
75歳以上	286,061	39.1%
高齢者計	383,856	52.4%
合計	731,900	100.0%



年齢	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75以上
男	13,572	7,429	10,602	7,592	30,621	25,905	33,446	40,315	19,795	25,913	32,544	124,274
女	10,505	4,817	6,429	8,143	36,684	26,655	26,676	27,126	11,732	15,978	23,360	161,787
合計	24,077	12,246	17,031	15,735	67,305	52,560	60,122	67,441	31,527	41,891	55,904	286,061



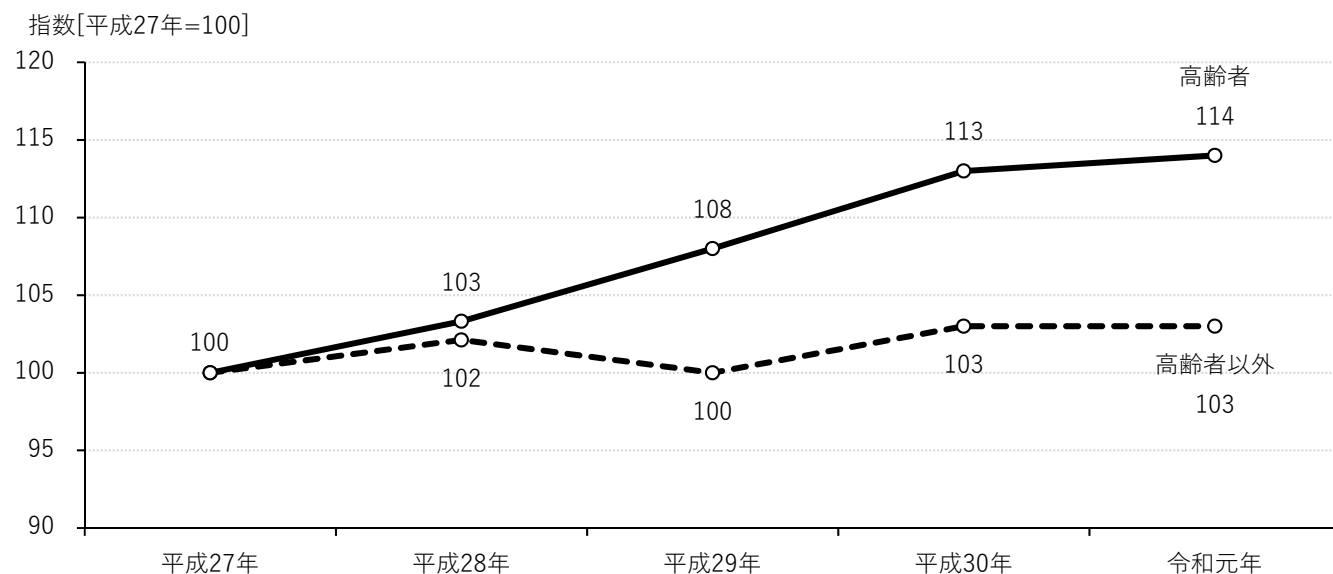
3 高齢者搬送人員

(1) 搬送人員の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は、383,856人で、全搬送人員の52.4%を占めています。また、平成27年を100とした指数で見ると、高齢者搬送人員の増加率が他を上回っています。

図表 2-2-5 高齢者搬送人員の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全搬送人員	673,145	691,423	698,928	726,428	731,900
高齢者	335,564	346,703	361,734	378,314	383,856
高齢者以外	337,581	344,720	337,194	348,114	348,044
高齢者の割合	49.9%	50.1%	51.8%	52.1%	52.4%

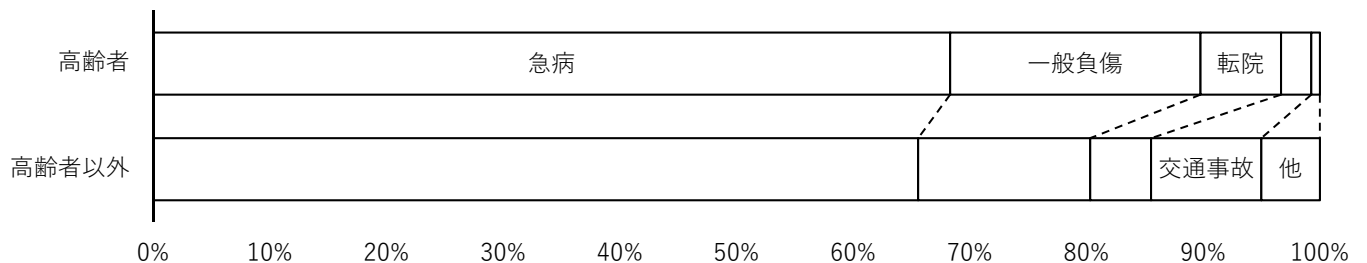


(2) 事故種別

高齢者を事故種別でみると、高齢者以外と比べ急病、一般及び転院搬送の占める割合が高く、交通事故の占める割合が低くなっています。

図表 2-2-6 事故種別高齢者搬送人員

事故種別	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
急病	262,191	68.3%	228,188	65.6%
一般負傷	82,387	21.5%	51,341	14.8%
転院搬送	26,487	6.9%	18,171	5.2%
交通事故	9,976	2.6%	32,868	9.4%
その他	2,815	0.7%	17,476	5.0%
合計	383,856	100.0%	348,044	100.0%



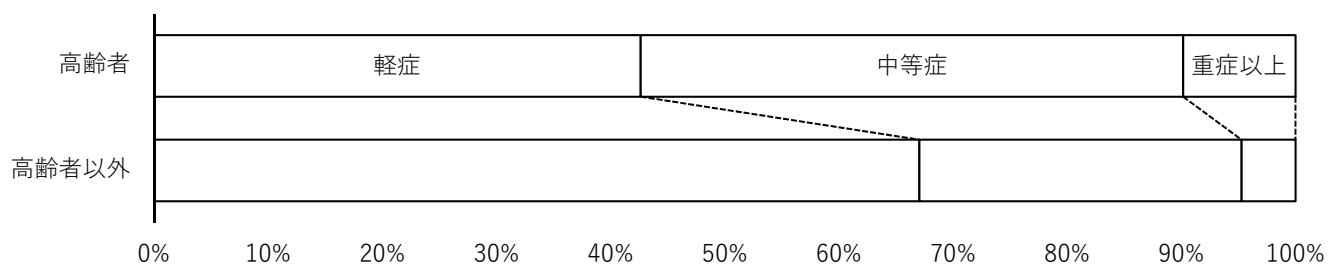
(3) 初診時程度

高齢者を初診時程度別にみると、高齢者以外と比べ中等症以上の割合が高くなっています。

また、主な事故種別における高齢者の搬送割合をみると、急病及び転院搬送に占める中等症以上の割合が高くなっています。

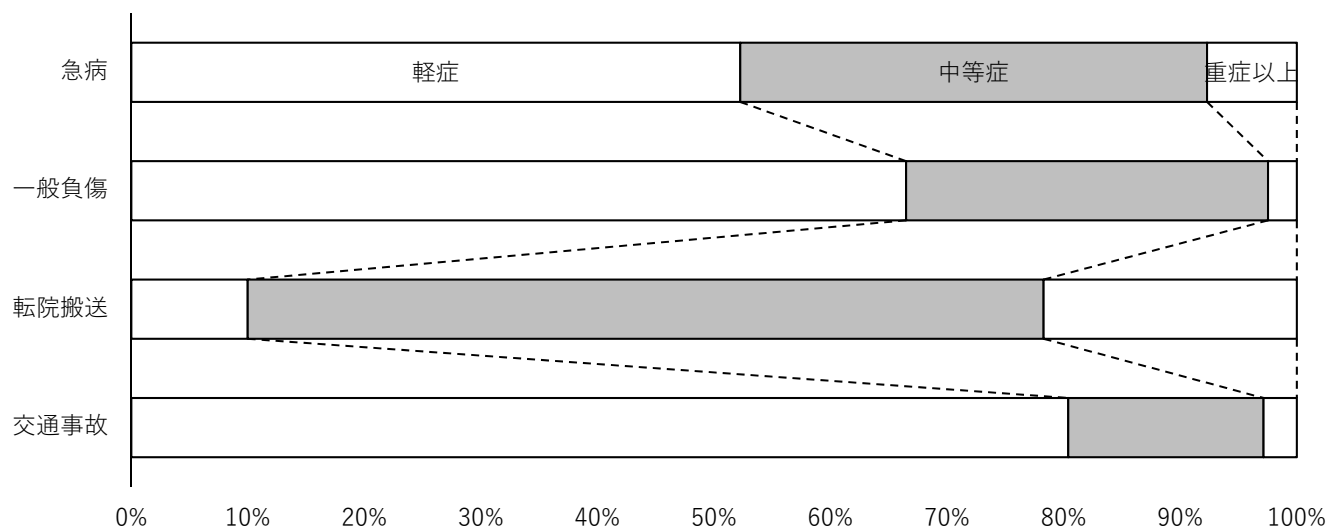
図表 2-2-7 初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	163,653	42.6%	233,340	67.0%
中等症	182,409	47.5%	98,249	28.2%
重症	23,330	6.1%	11,218	3.2%
重篤	9,929	2.6%	4,386	1.3%
死亡	4,535	1.2%	851	0.2%
合計	383,856	100.0%	348,044	100.0%



図表 2-2-8 事故種別・初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	急病		一般負傷		転院搬送		交通事故	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	256,200	52.2%	88,882	66.5%	4,453	10.0%	34,440	80.4%
中等症	196,349	40.0%	41,535	31.1%	30,498	68.3%	7,178	16.8%
重症	23,027	4.7%	1,922	1.4%	7,791	17.4%	884	2.1%
重篤	10,397	2.1%	991	0.7%	1,895	4.2%	307	0.7%
死亡	4,406	0.9%	398	0.3%	21	0.0%	35	0.1%
合計	490,379	100.0%	133,728	100.0%	44,658	100.0%	42,844	100.0%



4 収容医療機関・医療施設

傷病者を収容した医療機関数及び搬送人員を開設主体別にみると、私的医療機関が大部分を占めています。

東京消防庁管内の医療機関に収容した人員は718,900人(98.2%)で、このうち、救急告示医療機関に710,792人(97.1%)を収容しています。

図表 2-2-9 開設主体別収容医療機関数、搬送人員

区分	収容医療機関数		搬送人員						合計	割合
			管内(告示)		管内(非告示)		管轄外			
	実数	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合		
国立	22	3.3%	55,622	7.8%	621	7.7%	1,729	13.3%	57,972	7.9%
公立	32	4.8%	81,232	11.4%	266	3.3%	2,566	19.7%	84,064	11.5%
公的	10	1.5%	41,875	5.9%	172	2.1%	0	0.0%	42,047	5.7%
私立病院	501	74.7%	528,598	74.4%	5,171	63.8%	8,585	66.0%	542,354	74.1%
私立診療所	106	15.8%	3,465	0.5%	1,878	23.2%	120	0.9%	5,463	0.7%
合計	671	100.0%	710,792	100.0%	8,108	100.0%	13,000	100.0%	731,900	100.0%

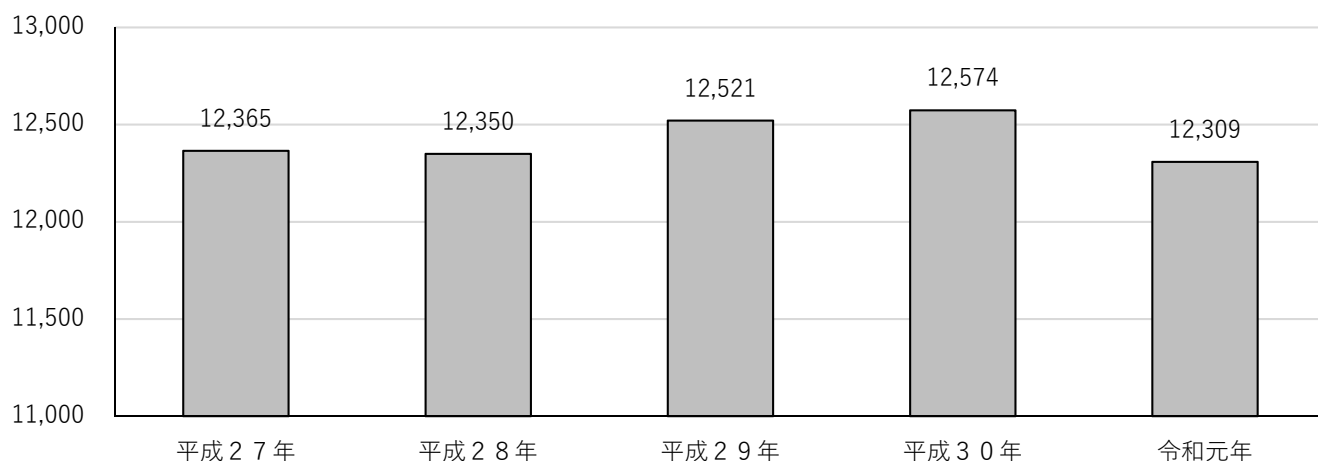
5 心臓機能停止傷病者搬送人員（ウツタイン様式による統計）

(1) 搬送人員の推移

「ウツタイン様式」とは、心臓機能停止傷病者に関する国際的に統一された統計基準の様式であり、平成18年から同様式で統計処理を開始しました。

令和元年中に、発症時点から医療機関に収容するまでの間に心臓機能が停止した傷病者（以下「心停止傷病者」という。）の搬送人員は、12,309人です。

図表 2-2-10 心臓機能停止傷病者搬送人員の推移

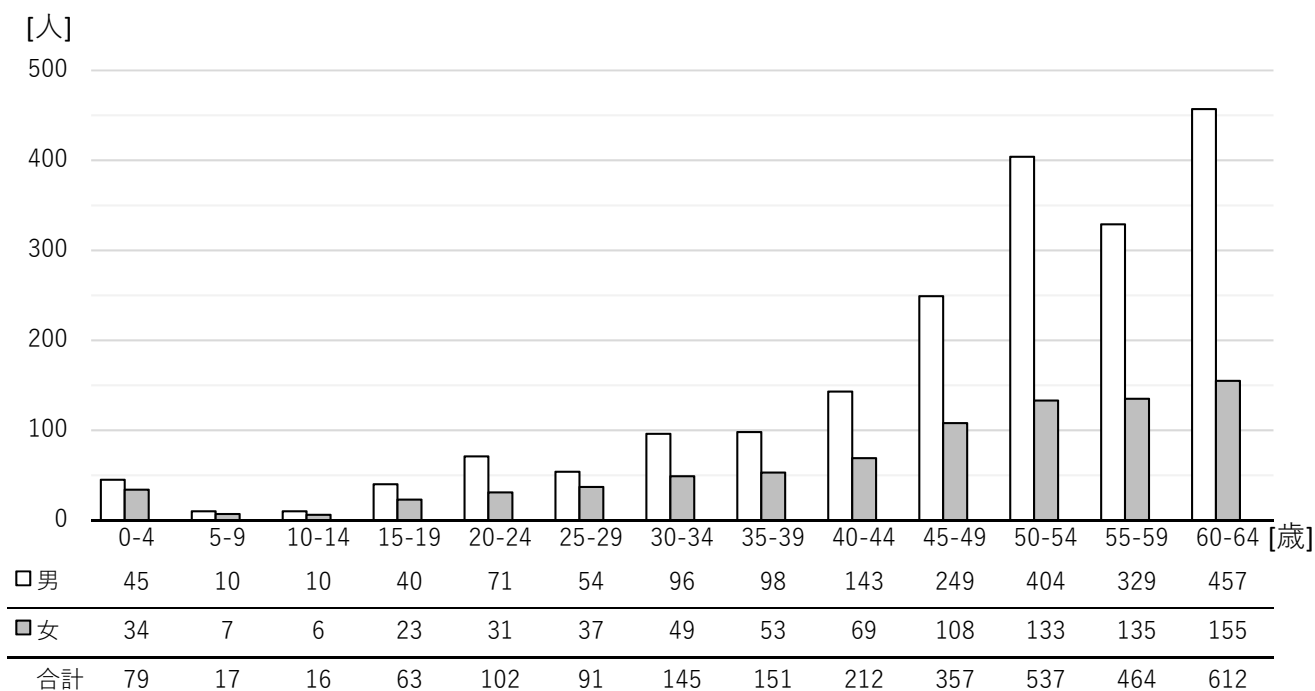


(2) 性別・年齢層別搬送人員（高齢者群・非高齢者群）

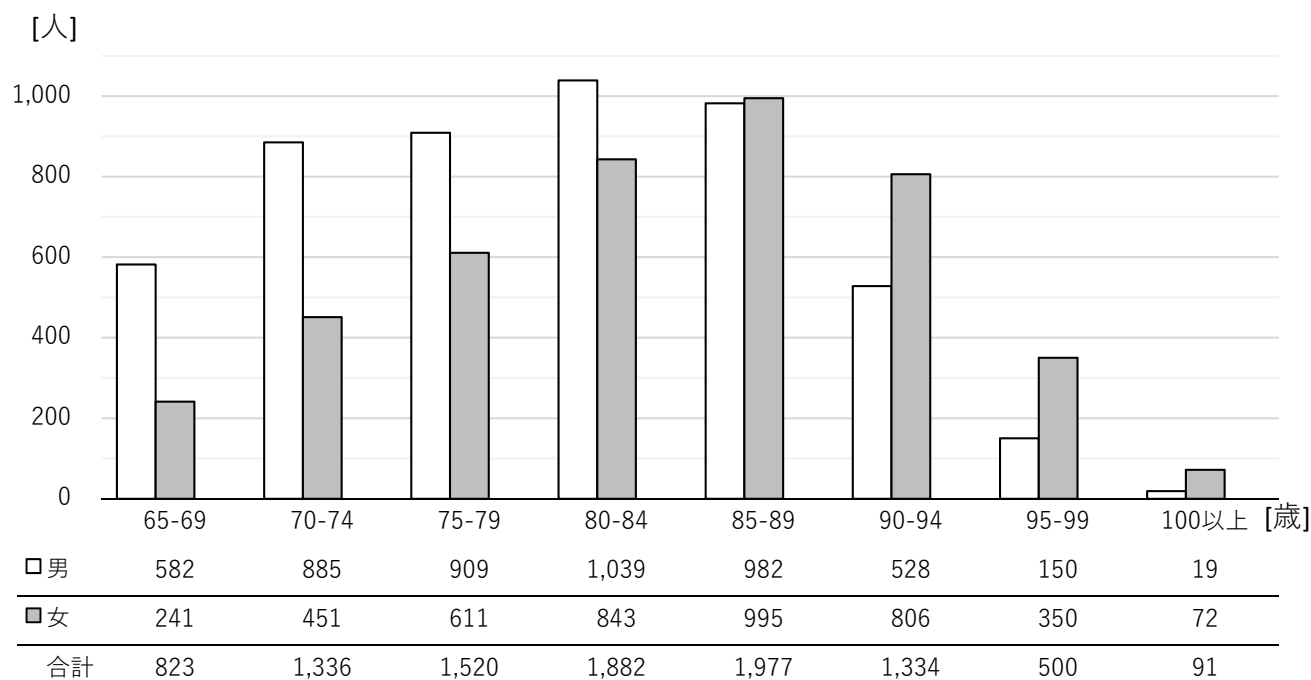
搬送人員の実数は、85歳以上の年齢層では女性が男性を上回りますが、それ以外の年齢層において男性が女性を上回っています。これは、心停止傷病者は基本的には男性の搬送が多い傾向があるものの、女性の平均寿命が男性より長いことによるものと考えられます。

特徴的なのは40歳から74歳までの年齢層で、各年齢層において男性が女性の約2倍以上の搬送人員となっています。

図表 2-2-11 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



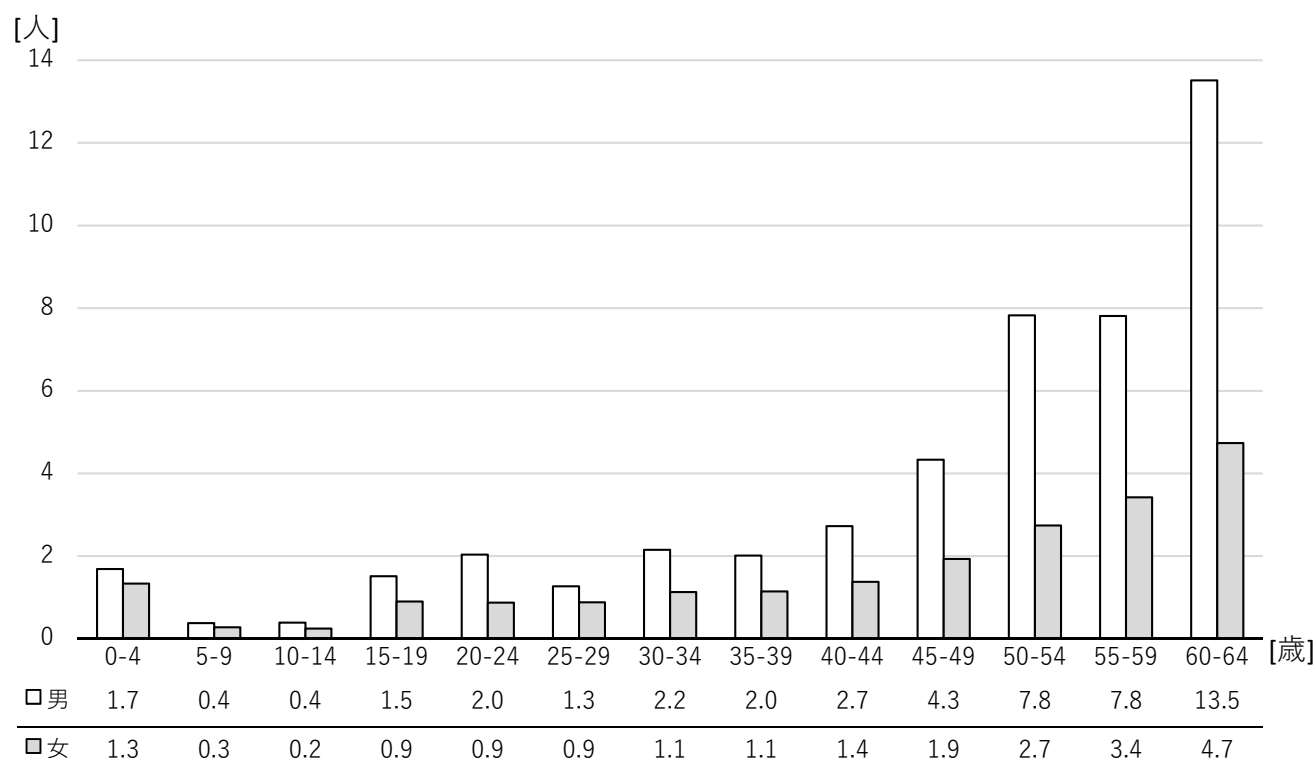
図表 2-2-12 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）



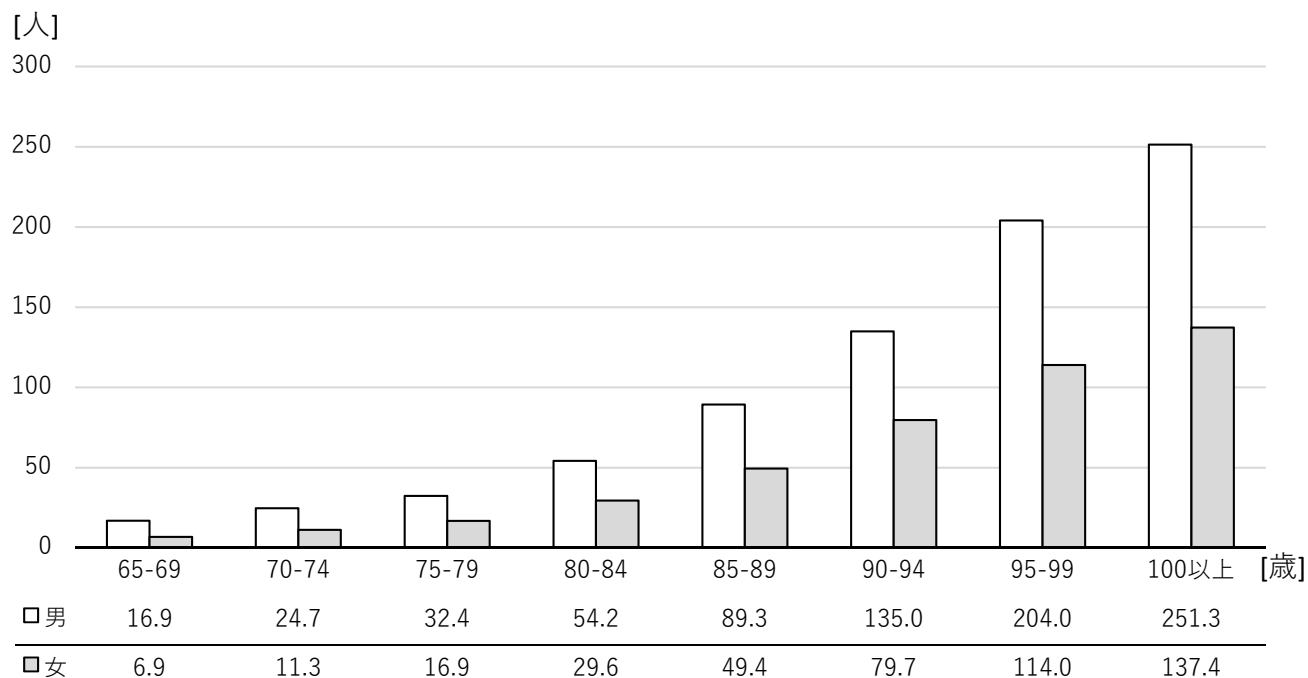
一方、人口に対する搬送人員の発生頻度を比較する目安として、人口（令和2年1月1日現在の東京都住民基本台帳から算出した東京都人口）1万人に対する搬送人員（以下「対人口搬送人員」という。）を各性別・年齢層別に算出した結果は、次のとおりです。

対人口搬送人員は、全ての年齢層で、男性の比率が高い結果となっています。このことから、女性より男性の方が突然の心臓機能の停止をきたし、救急搬送の対象となる頻度が高いと推測されます。

図表 2-2-13 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



図表 2-2-14 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）

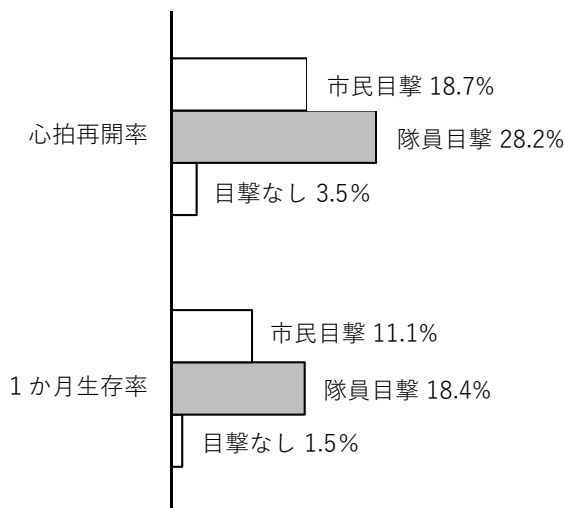
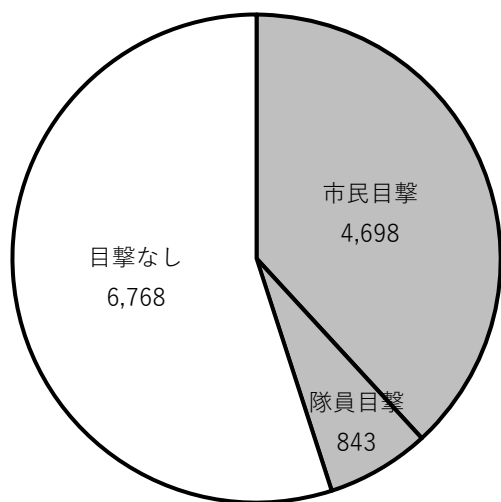


(3) 心停止の目撃

心停止の目撃があった傷病者は、市民目撃及び隊員目撃を併せて全体の45.0%です。目撃があった場合の1か月生存率は、目撃がなかった場合と比較して約8倍となっています。

図表 2-2-15 心停止の目撃有無別搬送人員

目撃情報	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
目撃あり	5,541	45.0%	1,117	20.2%	677	12.2%
市民目撃	4,698	38.2%	879	18.7%	522	11.1%
隊員目撃	843	6.8%	238	28.2%	155	18.4%
目撃なし	6,768	55.0%	234	3.5%	100	1.5%
合計	12,309	100.0%	1,351	11.0%	777	6.3%



「心停止の目撃」とは、傷病者が心停止に陥った時の事故の状況、又は行為等（倒れた、意識を失った、車にはねられた等）を、目撃又は音を聞いた人（以下「目撃者」という。）がいた場合で、かつその時刻を目撃者が確定又は推定できる場合を言います。

「市民目撃」とは、救急現場に居合わせた人（以下「バイスタンダー」という。）が目撃した場合を指します。

「隊員目撃」とは、救急隊員・消防隊員等（以下「救急隊員等」という。）が、現場到着後に傷病者が心停止になったところを確認した場合を指します。

「収容前心拍再開」とは、救急隊が医療機関の医師に引継ぐ前に傷病者が心拍再開したものを指します。継続性は問わず、一時的に再開し、再び心停止状態になったものも含まれます。

「1か月生存」とは、傷病者が医療機関に収容された日から1か月後の日の傷病者の生存の有無を表します。なお、1か月生存の状況が追跡できず不明だった傷病者については、統計処理上、生存していないものに計上しています。

(4) バイスタンダーによる応急手当

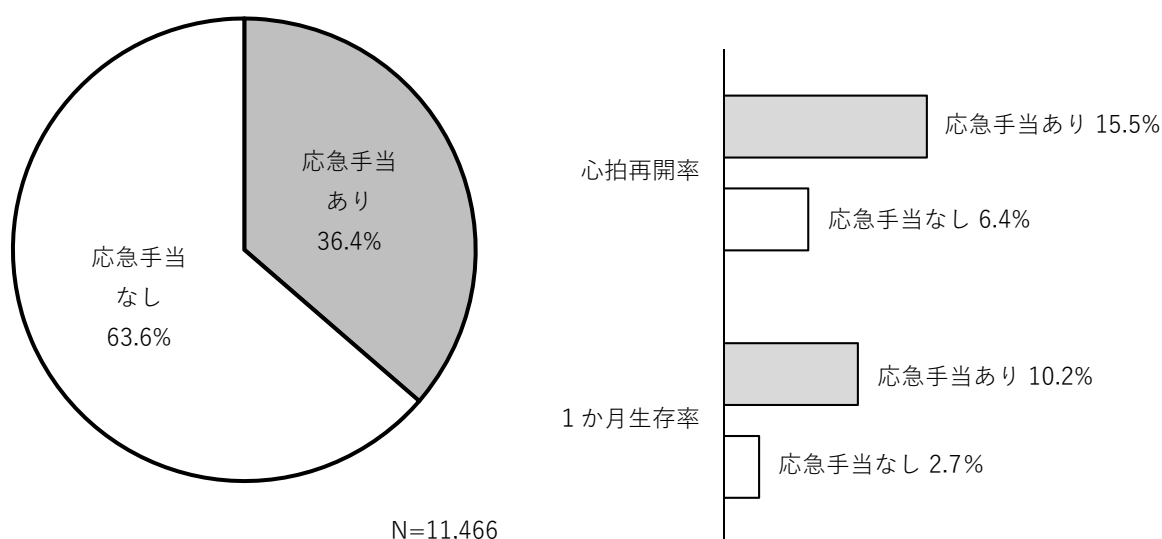
隊員目撃を除いた搬送人員 11,466 人について、バイスタンダー（心停止目撃の有無を問わない。）による応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED 等による除細動処置等に限定）の実施状況は次のとおりです。

バイスタンダーによる応急手当の実施率は、市民目撃があった場合が 44.9%と、市民目撃がなかった場合の 30.4%より 14.5 ポイント高くなっています。

また、市民目撃があった場合は、応急手当実施の有無により、1か月生存率に約 2.6 倍の差が生じています。

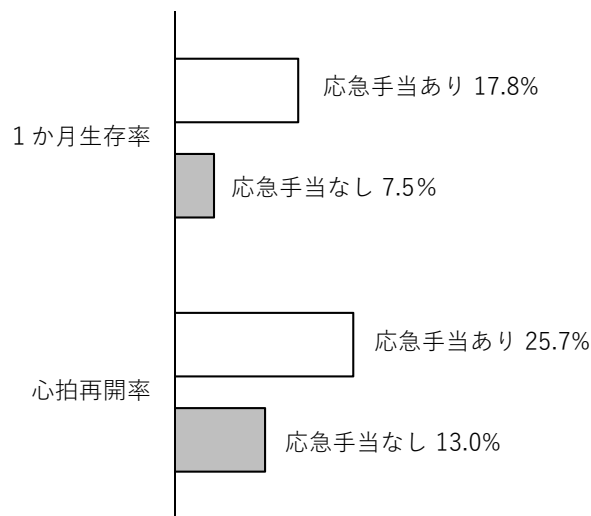
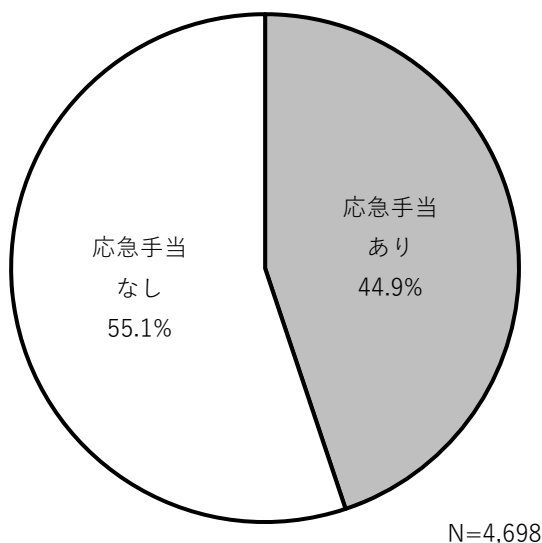
図表 2-2-16 バイスタンダーによる応急手当実施状況（隊員目撃を除く）

応急手当の有無	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	4,168	36.4%	644	15.5%	425	10.2%
応急手当なし	7,298	63.6%	469	6.4%	197	2.7%
合計	11,466	100.0%	1,113	9.7%	622	5.4%



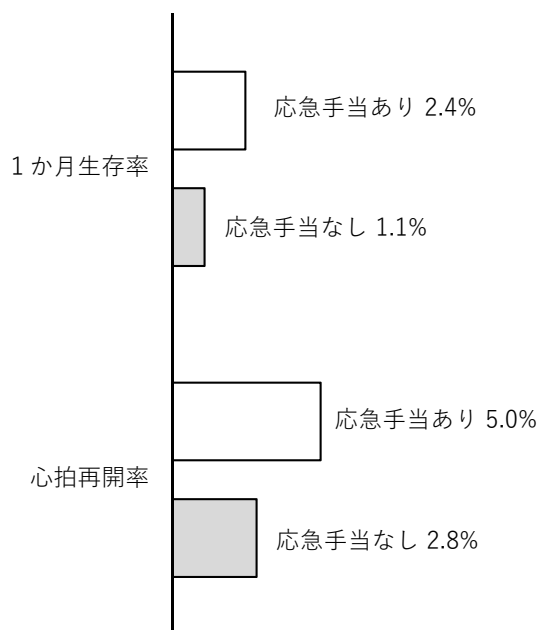
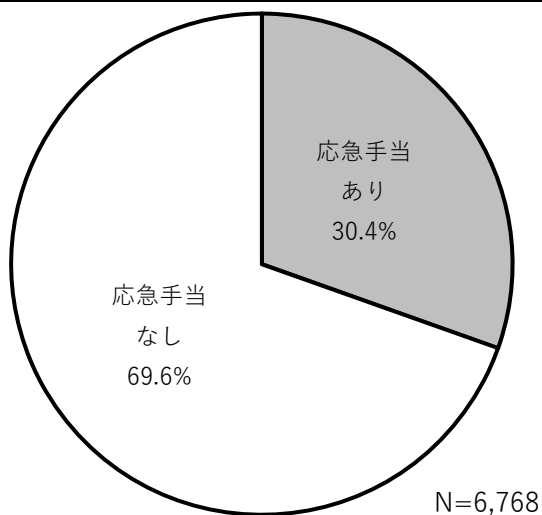
図表 2-2-17 バイスタンダーによる応急手当実施状況（市民目撃あり）

応急手当の有無	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	2,108	44.9%	542	25.7%	375	17.8%
応急手当なし	2,590	55.1%	337	13.0%	147	5.7%
合計	4,698	100.0%	879	18.7%	522	11.1%



図表 2-2-18 バイスタンダーによる応急手当実施状況（目撃なし）

応急手当の有無	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	2,060	30.4%	102	5.0%	50	2.4%
応急手当なし	4,708	69.6%	132	2.8%	50	1.1%
合計	6,768	100.0%	234	3.5%	100	1.5%



(5) バイスタンダーによる応急手当の開始時期

市民目撃があり、かつバイスタンダーにより応急手当が実施された傷病者（以下「目撃あり・手当あり群」と言います。）2,108人について、市民目撃から応急手当の開始までの所要時間の状況は、次のとおりです。

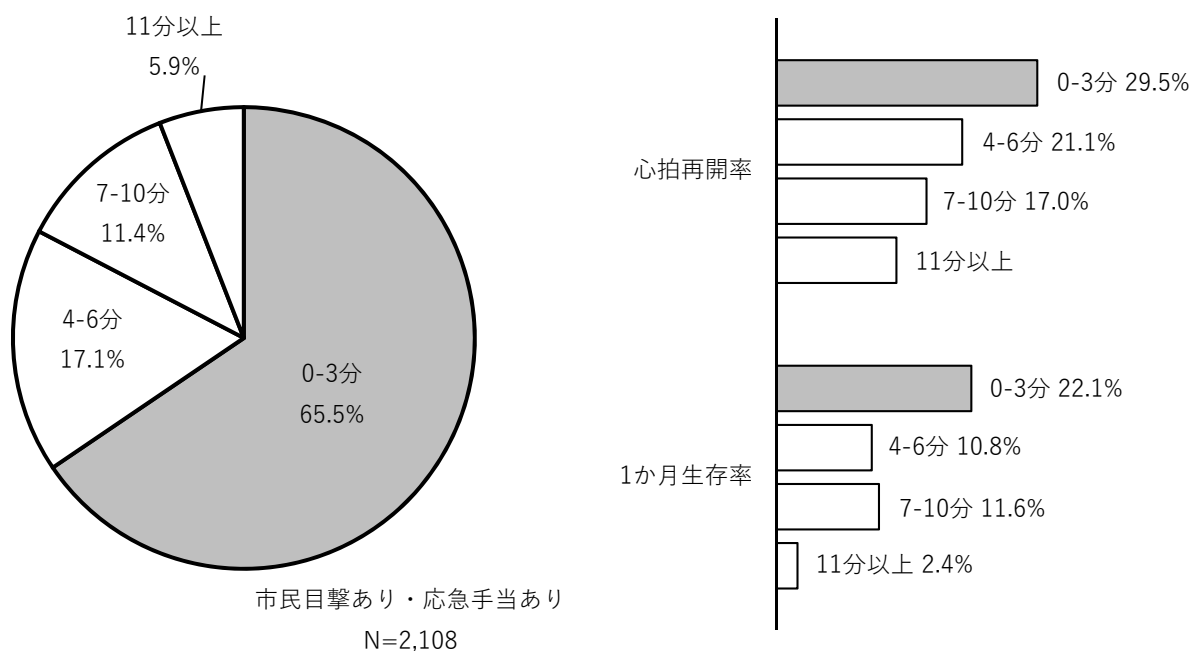
平均所要時間は3分15秒で、市民目撃から応急手当の開始までの時間が短時間であるほど、収容前心拍再開率、1か月生存率が高い結果になっています。

全体の約65%は、3分以内に応急手当が開始されていますが、市民目撃から10分を超えてから応急手当が開始された群は、心拍再開率が13.6%、1か月生存率が2.4%となっていることから、早期の応急手当の開始が重要であることがわかります。

図表 2-2-19 市民目撃から応急手当開始までの所要時間

所要時間	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
0-3分	1,381	65.5%	408	29.5%	305	22.1%
4-6分	361	17.1%	76	21.1%	39	10.8%
7-10分	241	11.4%	41	17.0%	28	11.6%
11分以上	125	5.9%	17	13.6%	3	2.4%
合計	2,108	100.0%	542	25.7%	375	17.8%

平均3分15秒



(6) 救急隊員等の救急処置の開始時期

市民目撃があったものの、バイスタンダーによる有効な応急手当が実施されなかった傷病者（以下「目撃あり・手当なし群」と言う。）2,590人について、市民目撃から救急隊員等による救命処置が開始されるまでの所要時間の状況は、次のとおりです。

目撃あり・手当あり群の約65%が3分以内に応急手当が開始されているのに対して、目撃あり・手当なし群は、救急隊等が傷病者に接触するまでの時間（市民目撃～通報、通報～救急隊等の現場到着及び

現場到着～傷病者の所在場所に至るまでの所要時間)がかかるため、7分以上の群が全体の67.5%を占め、平均所要時間は10分24秒となっています。

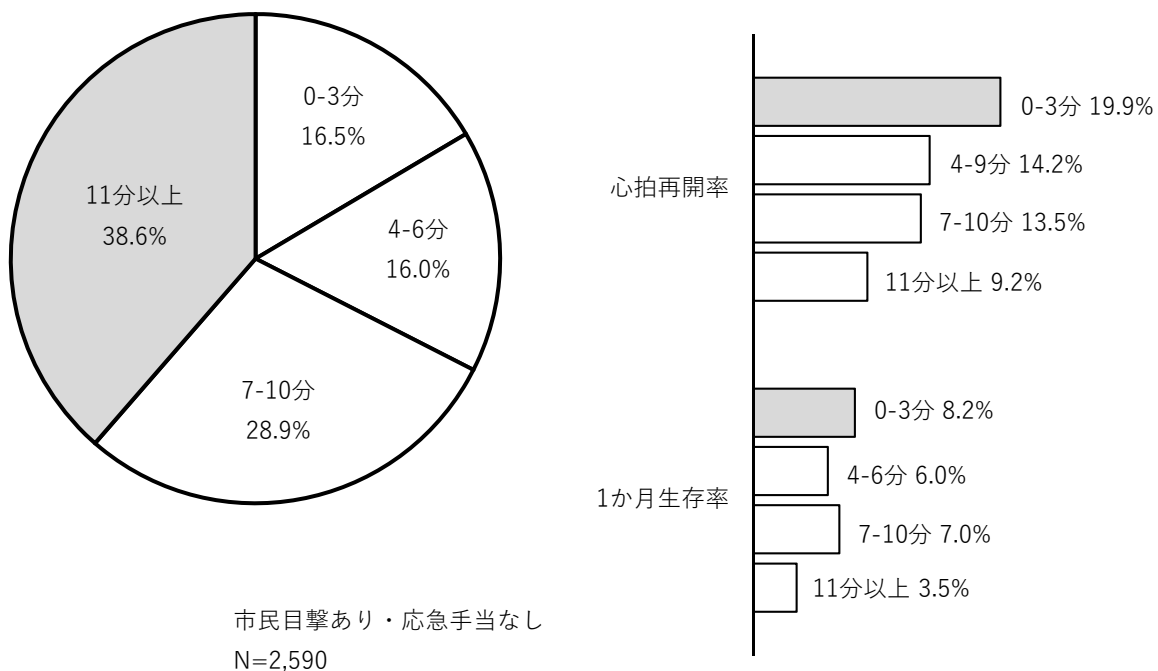
なお市民目撃には、通報後に心停止となった事案が含まれていることから、市民目撃が通報前の事案に限定した場合は、さらに所要時間が延伸する結果になると考えられます。

また、同じ所要時間であっても、目撃あり・手当なし群の方が、目撃あり・手当あり群より、収容前心拍再開、1か生存状況ともに低い結果となっています。これは、バイスタンダーが応急手当を実施しようとしても、物理的に困難な事案（2次の災害や感染危険がある場合、又は傷病者への接触自体が困難である場合等）や、救命が極めて困難な事案が、目撃あり・手当なし群に多く含まれているためと考えられます。

図表 2-2-20 市民目撃から隊員等処置開始までの所要時間

所要時間	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
0-3分	427	16.5%	85	19.9%	35	8.2%
4-6分	415	16.0%	59	14.2%	25	6.0%
7-10分	748	28.9%	101	13.5%	52	7.0%
11分以上	1,000	38.6%	92	9.2%	35	3.5%
合計	2,590	100.0%	337	13.0%	147	5.7%

平均10分24秒



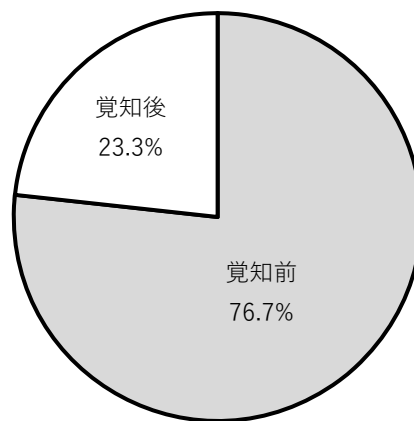
(7) 市民目撃から覚知までの所要時間

市民目撃があった傷病者4,698人のうち、覚知前に目撃された（心停止後に通報された）傷病者と覚知後に目撃された（通報後に心停止となった）傷病者の状況は、次のとおりです。

覚知（時刻）とは、東京消防庁総合指令室が通報を確認した時刻を指し、通報の時刻とは近似した時刻となりますが、必ずしも一致するとは限りません。

図表 2-2-21 市民目撃の時期

市民目撃の時期	搬送人員	割合
覚知前	3,605	76.7%
覚知後	1,093	23.3%
合計	4,698	100.0%



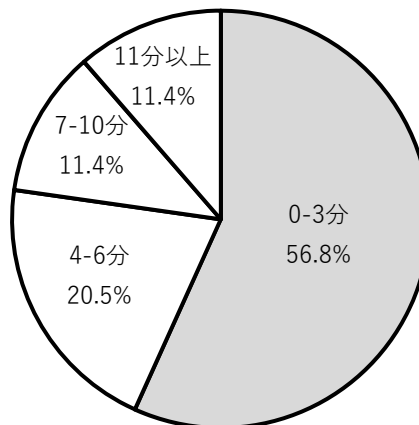
N=4,698

覚知前に心停止となった傷病者 3,605 人について、市民目撃から覚知までの平均所要時間は 5 分 15 秒で、全体の約 57%は市民目撃から 3 分以内に覚知されていますが、約 43%は 4 分以降、うち半数以上は 7 分以降となっています。

図表 2-2-22 市民目撃から覚知までの所要時間

所要時間	搬送人員	割合
0-3分	2,046	56.8%
4-6分	739	20.5%
7-10分	410	11.4%
11分以上	410	11.4%
合計	3,605	100.0%

平均 5 分 15 秒



N=3,605

(8) 除細動処置の効果 (バイスタンダーによる AED 使用の効果)

心停止傷病者のうち、心室細動等の心電図波形を呈する傷病者に対しては、除細動処置の救命効果が高いとされています。除細動処置は、AED (自動体外式除細動器) を使用することにより非医療従事者にも行うことが認められており、効果的に使用されることにより、救命効果の向上が期待されます。

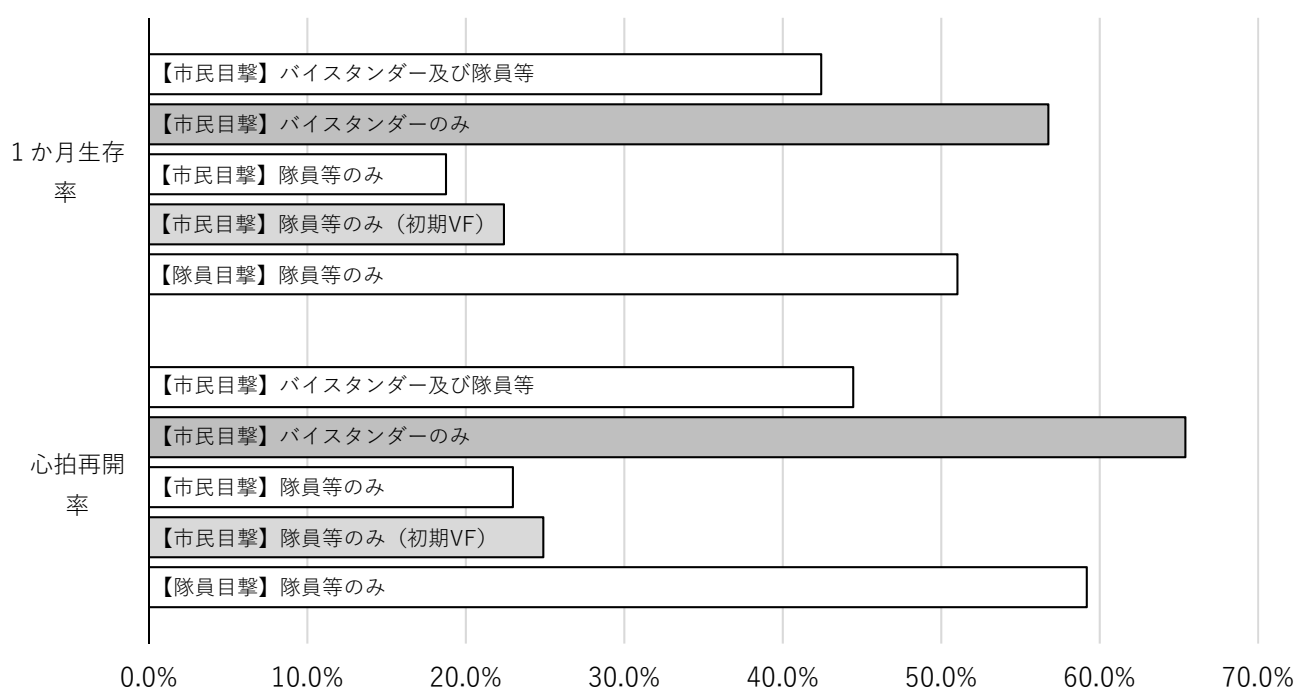
市民目撃があり、かつバイスタンダーのみが除細動処置を実施した場合は、収容前心拍再開率が 65.4%、1 か月生存率が 56.8%と、高い比率になっています。

一方、市民目撃があったもののバイスタンダーによる除細動がなく、救急隊員等が最初の除細動施行者となった場合 (初期心電図が心室細動等であった場合に限定) は、収容前心拍再開率が 24.9%、1 か月生存率が 22.4%と、バイスタンダーによる除細動施行事案と比較して低い比率となっています。

これは、心停止目撃から除細動処置が施行されるまでの平均所要時間をみると、バイスタンダーによる除細動の場合は 4 分 50 秒であるのに対し、救急隊員等による除細動の場合は 10 分 27 秒と、約 2.2 倍の時間を要していることに関連があると考えられます。

図表 2-2-23 バイスタンダー及び救急隊員等による除細動処置の施行状況

	搬送人員	目撃－除細動 平均時間	心拍再開 数	心拍再開 率	1か月生存 数	1か月生存 率
全除細動事案	1,471	－	452	30.7%	386	26.2%
実施者＝バイスタンダー及び隊員等	131	－	50	38.2%	48	36.6%
うち市民目撃	99	6分13秒	44	44.4%	42	42.4%
実施者＝バイスタンダーのみ	206	－	127	61.7%	110	53.4%
うち市民目撃	185	4分50秒	121	65.4%	105	56.8%
実施者＝隊員等のみ	1,134	－	275	24.3%	228	20.1%
うち隊員目撃	147	1分48秒	87	59.2%	75	51.0%
うち市民目撃	688	13分43秒	158	23.0%	129	18.8%
うち初期心電図＝心室細動等	442	10分27秒	110	24.9%	99	22.4%



「心室細動等」とは、心停止傷病者の心電図測定時の波形が、「心室細動（VF）」又は「心室頻拍（VT）」という致命的不整脈であった場合を指します。これらの波形は、心臓が痙攣し有効な血液量の拍出が得られていない状態を示しており、除細動処置が唯一の救命処置とされ、かつ当該処置が奏効すれば救命の可能性が高いとされています。

医学的に、心室細動等は心停止後の時間の経過とともに心室細動等以外の波形（「無脈性電気的活動（PEA）」「心静止（Asystole）」）に変化し、除細動処置の適応ではなくなると言われています。初期心電図が心室細動等であれば、波形の変化をきたす前に救急隊が傷病者に接触できたことを示す一つの指標となります。

(9) 発生場所別の心停止目撃・応急手当・除細動処置の実施状況

発生場所別の心停止目撃、応急手当及び除細動の実施状況は、次のとおりです。

芸術・文化施設、運動施設、空港等は、搬送人員は少ないものの、心停止目撃率、応急手当実施率及び除細動施行率が高く、心拍再開率、1か月生存率ともに高い結果となっています。

これらの場所は、頻繁に人の往来があり、心停止が目撃され、バイスタンダーによる応急手当が早期に行われる可能性が高く、かつ AED の設置整備が推進され早期に除細動処置が施行される環境にあるため、心拍再開率等が高率であると推測されます。

一方、搬送人員の7割以上を占める住宅等は、これらの率が低くなっています。

図表 2-2-24 発生場所別心停止目撃・応急手当・除細動実施状況

発生場所区分		搬送人員		目撃あり※1		応急手当あり※2		除細動あり※3		心拍再開		1か月生存	
		実数	平均年齢	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
(合計)		12,309	73.8	5,541	45.0%	4,168	33.9%	1,471	12.0%	1,351	11.0%	777	6.3%
居住・介護・宿泊施設	住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	8,394	74.6	3,285	39.1%	2,088	24.9%	694	8.3%	663	7.9%	294	3.5%
	認知症高齢者グループホーム	219	81.8	111	50.7%	112	51.1%	11	5.0%	19	8.7%	10	4.6%
	特別養護老人ホーム	555	88.1	264	47.6%	380	68.5%	23	4.1%	44	7.9%	21	3.8%
	その他老人施設	768	87.1	357	46.5%	482	62.8%	41	5.3%	65	8.5%	19	2.5%
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	78	59.0	37	47.4%	30	38.5%	16	20.5%	7	9.0%	8	10.3%
	介護老人保健施設	12	90.0	5	41.7%	9	75.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
	有料老人ホーム	20	87.0	7	35.0%	15	75.0%	0	0.0%	4	20.0%	1	5.0%
	サービス付高齢者向け住宅	2	77.0	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自助施設・グループホーム等（認知症以外）	6	67.8	5	83.3%	4	66.7%	1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%	
会社・工場等	会社・オフィス	120	57.5	83	69.2%	59	49.2%	48	40.0%	44	36.7%	35	29.2%
	工場・製造所・作業場	69	62.6	38	55.1%	26	37.7%	22	31.9%	16	23.2%	5	7.2%
	その他仕事場業態の場所	7	60.6	3	42.9%	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
販売・サービス業施設	283	64.1	207	73.1%	119	42.0%	88	31.1%	75	26.5%	56	19.8%	
娯楽・遊戯施設	57	59.3	44	77.2%	24	42.1%	22	38.6%	16	28.1%	12	21.1%	
健康・保養・美容施設	91	74.2	44	48.4%	55	60.4%	7	7.7%	9	9.9%	2	2.2%	
医療等施設	病院	95	63.8	76	80.0%	69	72.6%	22	23.2%	35	36.8%	21	22.1%
	診療所・クリニック・医院	97	70.4	84	86.6%	78	80.4%	36	37.1%	37	38.1%	25	25.8%
	助産所・鍼灸院・接骨院等	7	56.6	5	71.4%	2	28.6%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
育児児童施設・学校	31	46.6	26	83.9%	19	61.3%	16	51.6%	16	51.6%	15	48.4%	
芸術・文化施設	28	69.1	22	78.6%	16	57.1%	8	28.6%	13	46.4%	8	28.6%	
運動施設	62	61.9	53	85.5%	54	87.1%	41	66.1%	32	51.6%	31	50.0%	
公園・遊園地等	84	59.5	34	40.5%	31	36.9%	14	16.7%	11	13.1%	11	13.1%	
宗教施設・斎場等	30	67.9	20	66.7%	12	40.0%	7	23.3%	5	16.7%	2	6.7%	
官公庁・行政施設	39	65.4	22	56.4%	23	59.0%	11	28.2%	14	35.9%	9	23.1%	
道路・車両・交通施設	線路・軌道敷	28	44.1	21	75.0%	6	21.4%	5	17.9%	5	17.9%	5	17.9%
	駅	196	57.9	150	76.5%	137	69.9%	86	43.9%	69	35.2%	65	33.2%
	空港	13	65.7	10	76.9%	11	84.6%	5	38.5%	3	23.1%	2	15.4%
	港	1	75.0	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
	駐車場・駐輪施設	66	61.7	32	48.5%	20	30.3%	14	21.2%	6	9.1%	3	4.5%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	725	62.7	452	62.3%	249	34.3%	200	27.6%	131	18.1%	108	14.9%	
高速道路・自動車専用道路	10	43.5	3	30.0%	3	30.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	
自然環境・土地	農地（田・畑）	8	70.4	3	37.5%	3	37.5%	3	37.5%	3	37.5%	3	37.5%
	山林	7	69.1	3	42.9%	3	42.9%	3	42.9%	2	28.6%	2	28.6%
	河川・水路	57	58.1	9	15.8%	6	10.5%	6	10.5%	2	3.5%	0	0.0%
	海	2	26.5	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他自然環境・土地	2	35.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
建築・工事現場	34	55.6	22	64.7%	16	47.1%	15	44.1%	3	8.8%	2	5.9%	
その他	6	62.8	2	33.3%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※1 市民目撃及び隊員目撃

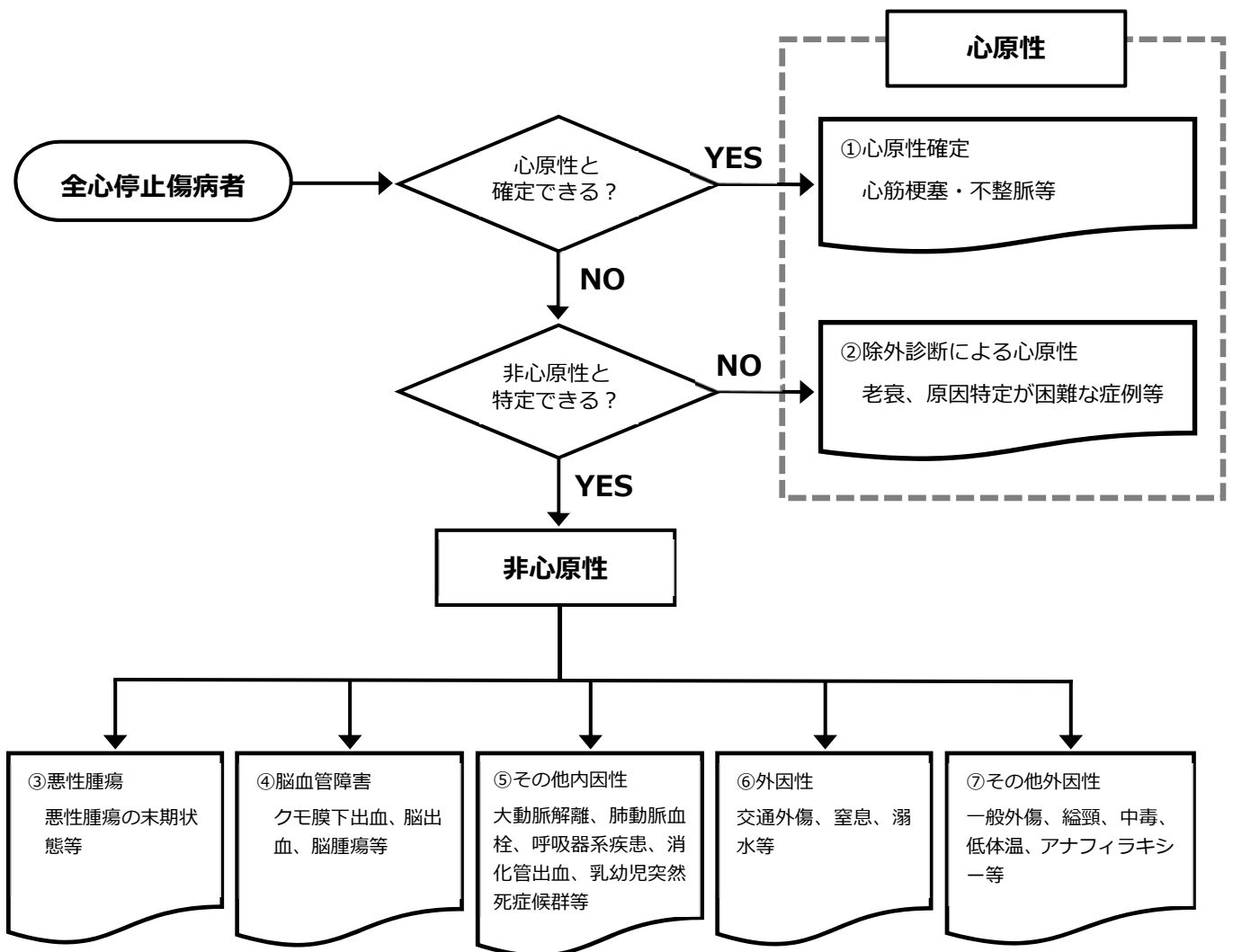
※2 胸骨圧迫・人工呼吸・除細動

※3 バイスタンダーを含む

(10) 心停止の推定原因

ウツタイン様式では、心停止をきたした原因を次に示すフローに基づき分類しています。これは、病態分類として大きく「心原性」と「非心原性」に分類し、それをさらに詳細分類したものです。

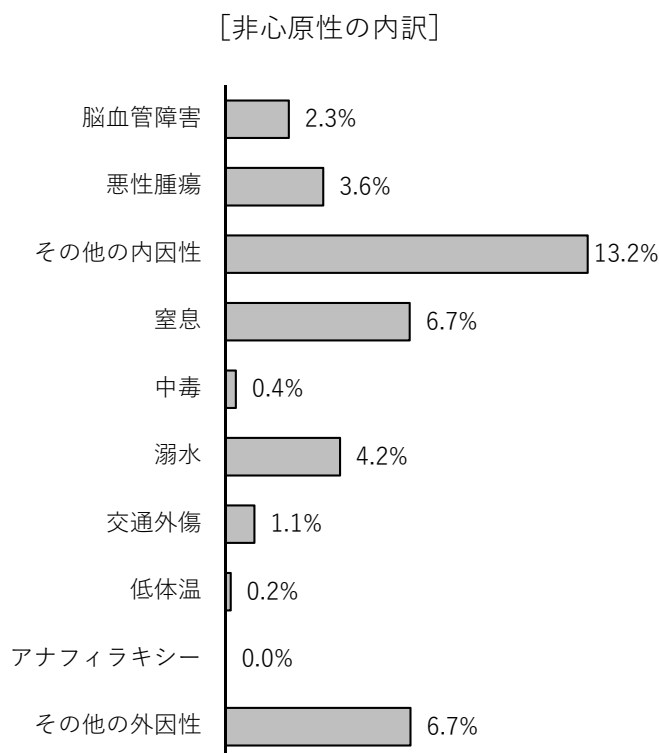
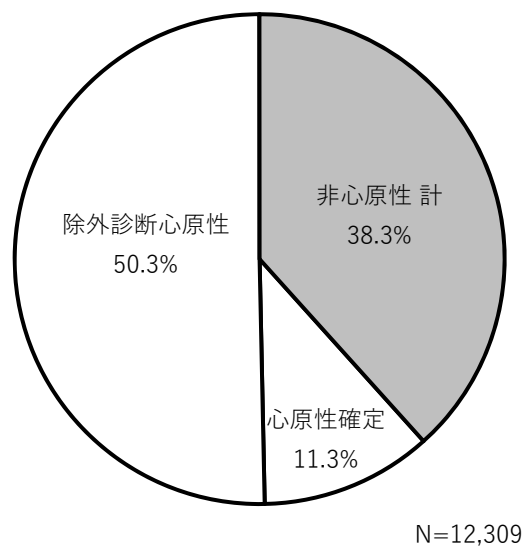
図表 2-2-25 ウツタイン様式による心停止の推定原因の分類フロー



心停止の推定原因別の搬送人員、収容前心拍再開、及び1か月生存等の状況は、次のとおりです。

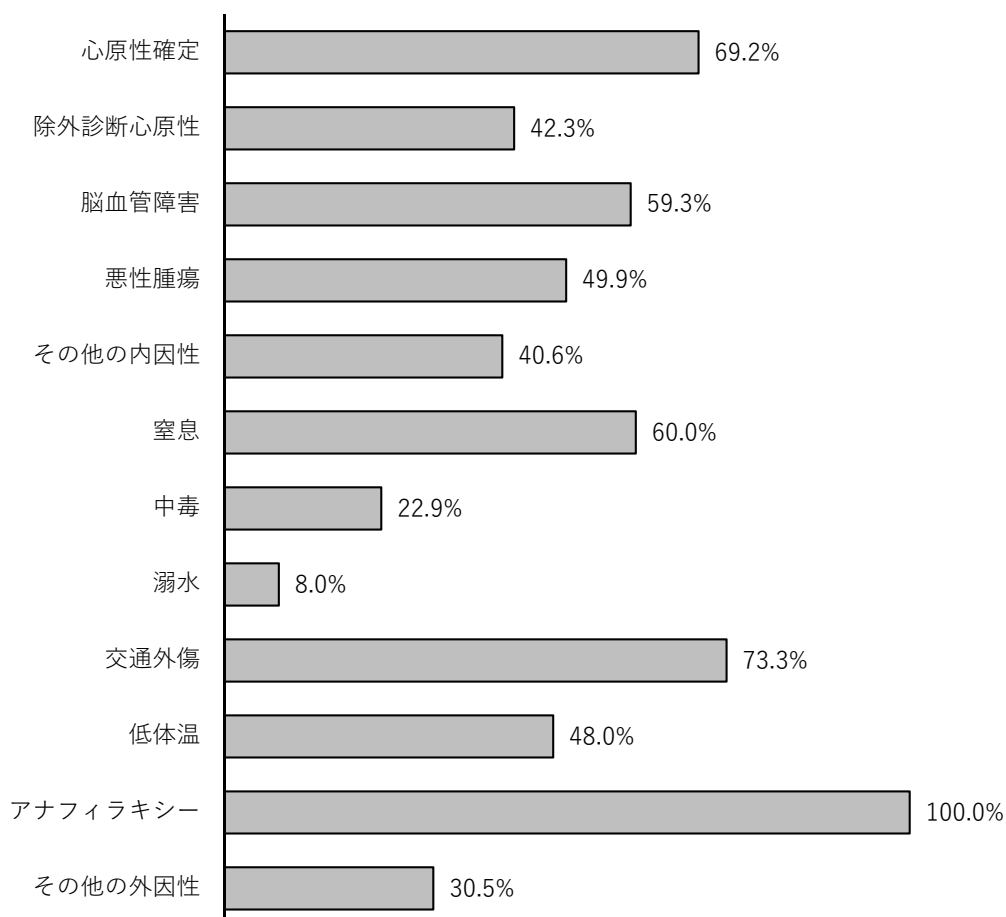
図表 2-2-26 心停止推定原因別の搬送人員

心停止の推定原因		搬送人員	割合
心原性	心原性確定	1,396	11.3%
	除外診断心原性	6,193	50.3%
	(心原性計)	7,589	61.7%
非心原性	脳血管障害	285	2.3%
	悪性腫瘍	439	3.6%
	その他の内因性	1,622	13.2%
	窒息	826	6.7%
	中毒	48	0.4%
	溺水	514	4.2%
	交通外傷	131	1.1%
	低体温	25	0.2%
	アナフィラキシー	1	0.0%
	その他の外因性	829	6.7%
	(非心原性計)	4,720	38.3%
合計	12,309	100.0%	



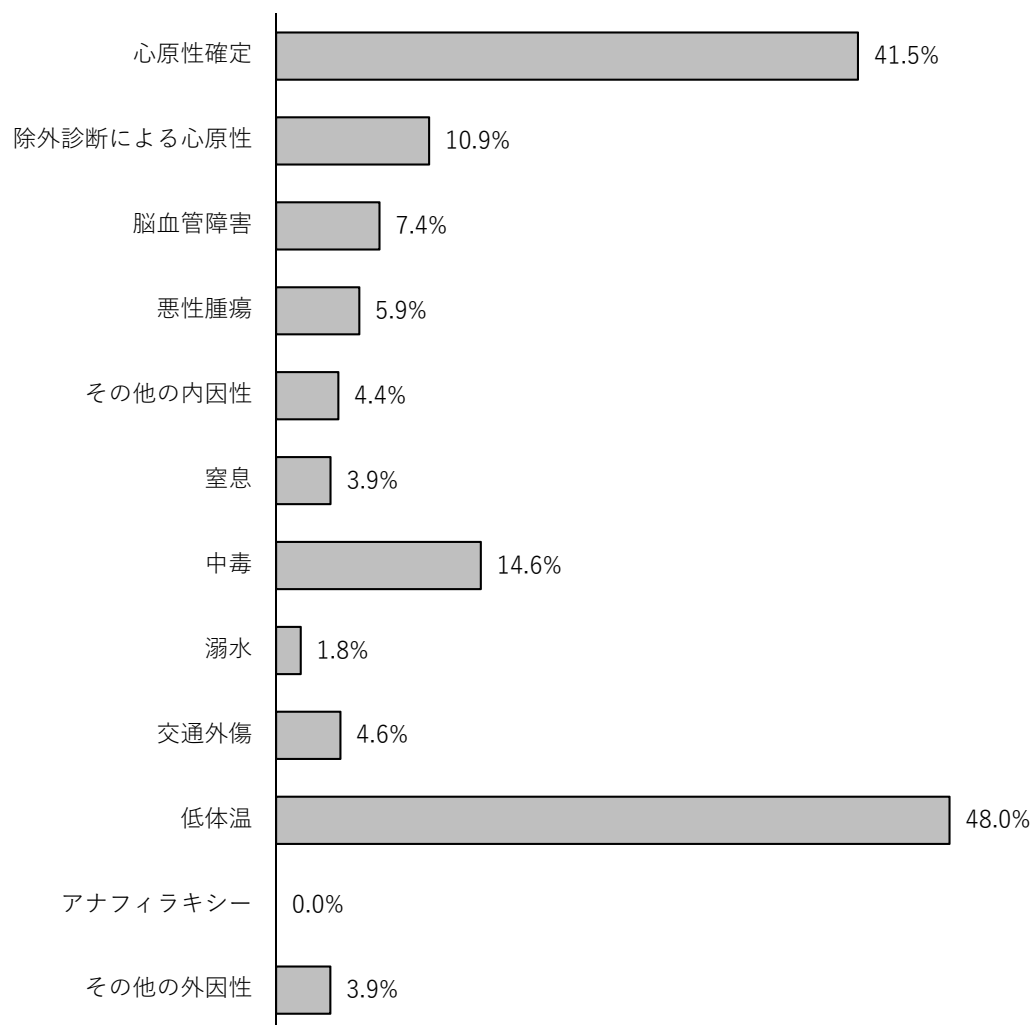
図表 2-2-27 心停止推定原因別の心停止目撃状況

心停止の推定原因		搬送人員 (A)	心停止 目撃数 (B)	割合 (B/A)	市民目撃	割合	隊員目撃	割合
					(C)	(C/A)	(D)	(D/A)
心原性	心原性確定	1,396	966	69.2%	772	55.3%	194	13.9%
	除外診断心原性	6,193	2,619	42.3%	2,258	36.5%	361	5.8%
	(心原性計)	7,589	3,585	47.2%	3,030	39.9%	555	7.3%
非心原性	脳血管障害	285	169	59.3%	139	48.8%	30	10.5%
	悪性腫瘍	439	219	49.9%	186	42.4%	33	7.5%
	その他の内因性	1,622	658	40.6%	534	32.9%	124	7.6%
	窒息	826	496	60.0%	459	55.6%	37	4.5%
	中毒	48	11	22.9%	6	12.5%	5	10.4%
	溺水	514	41	8.0%	36	7.0%	5	1.0%
	交通外傷	131	96	73.3%	83	63.4%	13	9.9%
	低体温	25	12	48.0%	3	12.0%	9	36.0%
	アナフィラキシー	1	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%
	その他の外因性	829	253	30.5%	221	26.7%	32	3.9%
(非心原性計)		4,720	1,956	41.4%	1,668	35.3%	288	6.1%
合計		12,309	5,541	45.0%	4,698	38.2%	843	6.8%



図表 2-2-28 心停止推定原因別の除細動施行状況

心停止の推定原因		搬送人員	除細動 施行者数	除細動 施行率
心原性	心原性確定	1,396	579	41.5%
	除外診断心原性	6,193	675	10.9%
	(心原性計)	7,589	1,254	16.5%
非心原性	脳血管障害	285	21	7.4%
	悪性腫瘍	439	26	5.9%
	その他の内因性	1,622	72	4.4%
	窒息	826	32	3.9%
	中毒	48	7	14.6%
	溺水	514	9	1.8%
	交通外傷	131	6	4.6%
	低体温	25	12	48.0%
	アナフィラキシー	1	0	0.0%
	その他の外因性	829	32	3.9%
	(非心原性計)	4,720	217	4.6%
合計		12,309	1,471	12.0%



図表 2-2-29 心停止推定原因別の心拍再開状況

(1) 心停止推定原因別の心拍再開状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員(A)	心拍再開数(B)	割合 (B/A)	搬送人員(C)	心拍再開数(D)	割合 (D/C)	搬送人員(E)	心拍再開数(F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,396	415	29.7%	966	378	39.1%	430	37	8.6%
	除外診断心原性	6,193	481	7.8%	2,619	394	15.0%	3,574	87	2.4%
	(心原性計)	7,589	896	11.8%	3,585	772	21.5%	4,004	124	3.1%
非心原性	脳血管障害	285	91	31.9%	169	70	41.4%	116	21	18.1%
	悪性腫瘍	439	24	5.5%	219	19	8.7%	220	5	2.3%
	その他の内因性	1,622	122	7.5%	658	95	14.4%	964	27	2.8%
	窒息	826	143	17.3%	496	122	24.6%	330	21	6.4%
	中毒	48	6	12.5%	11	5	45.5%	37	1	2.7%
	溺水	514	15	2.9%	41	7	17.1%	473	8	1.7%
	交通外傷	131	9	6.9%	96	6	6.3%	35	3	8.6%
	低体温	25	3	12.0%	12	2	16.7%	13	1	7.7%
	アナフィラキシー	1	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%
	その他の外因性	829	41	4.9%	253	18	7.1%	576	23	4.0%
(非心原性計)	4,720	455	9.6%	1,956	345	17.6%	2,764	110	4.0%	
合計	12,309	1,351	11.0%	5,541	1,117	20.2%	6,768	234	3.5%	

（※隊員目撃及び市民目撃）

(2) 心停止推定原因別の心拍再開状況（応急手当有無別）

心停止の推定原因		市民目撃（応急手当あり）			市民目撃（応急手当なし）			目撃なし（応急手当あり）			目撃なし（応急手当なし）		
		搬送人員(A)	心拍再開数(B)	割合 (B/A)	搬送人員(C)	心拍再開数(D)	割合 (D/C)	搬送人員(E)	心拍再開数(F)	割合 (F/E)	搬送人員(G)	心拍再開数(H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	427	213	49.9%	345	70	20.3%	152	20	13.2%	278	17	6.1%
	除外診断心原性	998	173	17.3%	1,260	142	11.3%	1,196	40	3.3%	2,378	47	2.0%
	(心原性計)	1,425	386	27.1%	1,605	212	13.2%	1,348	60	4.5%	2,656	64	2.4%
非心原性	脳血管障害	68	34	50.0%	71	22	31.0%	29	8	27.6%	87	13	14.9%
	悪性腫瘍	42	4	9.5%	144	11	7.6%	67	2	3.0%	153	3	2.0%
	その他の内因性	242	43	17.8%	292	30	10.3%	280	9	3.2%	684	18	2.6%
	窒息	240	62	25.8%	219	51	23.3%	117	9	7.7%	213	12	5.6%
	中毒	5	2	40.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	36	1	2.8%
	溺水	17	2	11.8%	19	3	15.8%	110	4	3.6%	363	4	1.1%
	交通外傷	20	2	10.0%	63	1	1.6%	3	0	0.0%	32	3	9.4%
	低体温	1	0	0.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%	12	1	8.3%
	アナフィラキシー	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	その他の外因性	47	6	12.8%	174	6	3.4%	104	10	9.6%	472	13	2.8%
(非心原性計)	683	156	22.8%	985	125	12.7%	712	42	5.9%	2,052	68	3.3%	
合計	2,108	542	25.7%	2,590	337	13.0%	2,060	102	5.0%	4,708	132	2.8%	

図表 2-2-30 心停止推定原因別の1か月生存状況

(1) 心停止推定原因別の1か月生存状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員(A)	1か月生存数(B)	割合(B/A)	搬送人員(C)	1か月生存数(D)	割合(D/C)	搬送人員(E)	1か月生存数(F)	割合(F/E)
心原性	心原性確定	1,396	355	25.4%	966	323	33.4%	430	32	7.4%
	除外診断心原性	6,193	234	3.8%	2,619	205	7.8%	3,574	29	0.8%
	(心原性計)	7,589	589	7.8%	3,585	528	14.7%	4,004	61	1.5%
非心原性	脳血管障害	285	23	8.1%	169	17	10.1%	116	6	5.2%
	悪性腫瘍	439	8	1.8%	219	8	3.7%	220	0	0.0%
	その他の内因性	1,622	57	3.5%	658	42	6.4%	964	15	1.6%
	窒息	826	66	8.0%	496	59	11.9%	330	7	2.1%
	中毒	48	4	8.3%	11	4	36.4%	37	0	0.0%
	溺水	514	3	0.6%	41	1	2.4%	473	2	0.4%
	交通外傷	131	4	3.1%	96	3	3.1%	35	1	2.9%
	低体温	25	6	24.0%	12	5	41.7%	13	1	7.7%
	アナフィラキシー	1	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%
	その他の外因性	829	16	1.9%	253	9	3.6%	576	7	1.2%
(非心原性計)	4,720	188	4.0%	1,956	149	7.6%	2,764	39	1.4%	
合計	12,309	777	6.3%	5,541	677	12.2%	6,768	100	1.5%	

(※隊員目撃及び市民目撃)

(2) 心停止推定原因別の1か月生存状況（応急手当有無別）

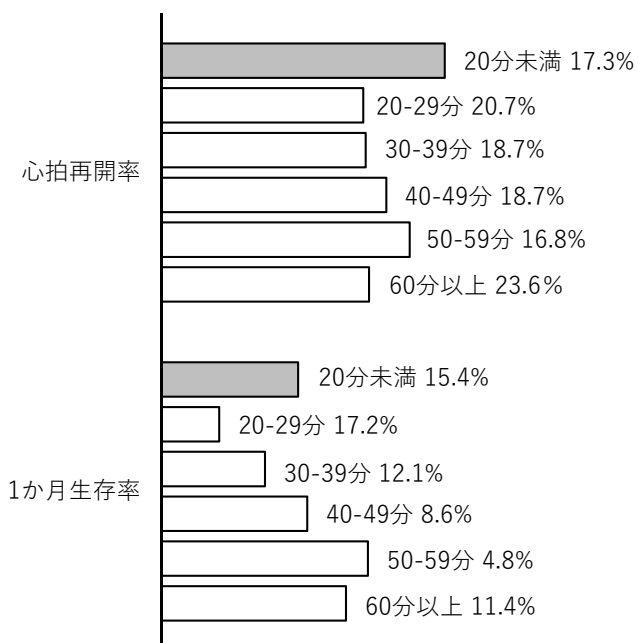
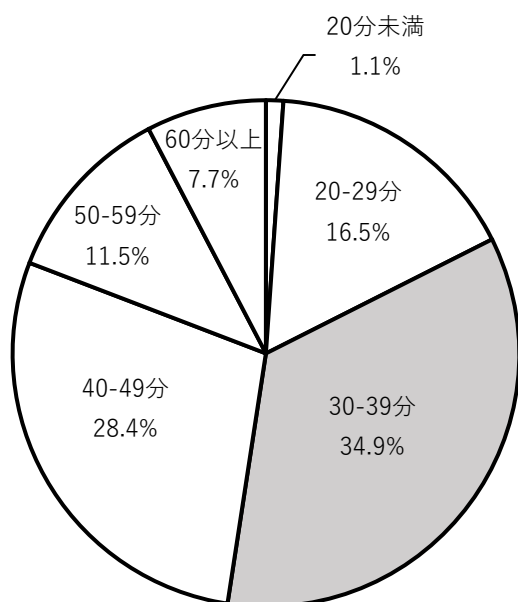
心停止の推定原因		市民目撃（応急手当あり）			市民目撃（応急手当なし）			目撃なし（応急手当あり）			目撃なし（応急手当なし）		
		搬送人員(A)	1か月生存数(B)	割合(B/A)	搬送人員(C)	1か月生存数(D)	割合(D/C)	搬送人員(E)	1か月生存数(F)	割合(F/E)	搬送人員(G)	1か月生存数(H)	割合(H/G)
心原性	心原性確定	427	197	46.1%	345	43	12.5%	152	18	11.8%	278	14	5.0%
	除外診断心原性	998	111	11.1%	1,260	52	4.1%	1,196	14	1.2%	2,378	15	0.6%
	(心原性計)	1,425	308	21.6%	1,605	95	5.9%	1,348	32	2.4%	2,656	29	1.1%
非心原性	脳血管障害	68	7	10.3%	71	4	5.6%	29	2	6.9%	87	4	4.6%
	悪性腫瘍	42	1	2.4%	144	6	4.2%	67	0	0.0%	153	0	0.0%
	その他の内因性	242	20	8.3%	292	13	4.5%	280	8	2.9%	684	7	1.0%
	窒息	240	28	11.7%	219	26	11.9%	117	3	2.6%	213	4	1.9%
	中毒	5	2	40.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	36	0	0.0%
	溺水	17	1	5.9%	19	0	0.0%	110	1	0.9%	363	1	0.3%
	交通外傷	20	1	5.0%	63	0	0.0%	3	0	0.0%	32	1	3.1%
	低体温	1	1	100.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%	12	1	8.3%
	アナフィラキシー	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	その他の外因性	47	5	10.6%	174	2	1.1%	104	4	3.8%	472	3	0.6%
(非心原性計)	683	67	9.8%	985	52	5.3%	712	18	2.5%	2,052	21	1.0%	
合計	2,108	375	17.8%	2,590	147	5.7%	2,060	50	2.4%	4,708	50	1.1%	

(1) 市民目撃から医療機関収容所要時間区分別心拍再開・1か月生存

市民目撃があった傷病者4,698人のうち、市民目撃から医療機関に収容されるまでの所要時間等の状況は次のとおりです。

図表 2-2-31 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別搬送人員内訳

所要時間	搬送人員		収容前		1か月生存数	
	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
20分未満	52	1.1%	9	17.3%	8	15.4%
20-29分	773	16.5%	160	20.7%	133	17.2%
30-39分	1,638	34.9%	307	18.7%	199	12.1%
40-49分	1,334	28.4%	227	17.0%	115	8.6%
50-59分	541	11.5%	91	16.8%	26	4.8%
60分以上	360	7.7%	85	23.6%	41	11.4%
合計	4,698	100.0%	879	18.7%	522	11.1%



[搬送人員]
N=4,670

(12) 収容前心拍再開有無別1か月生存

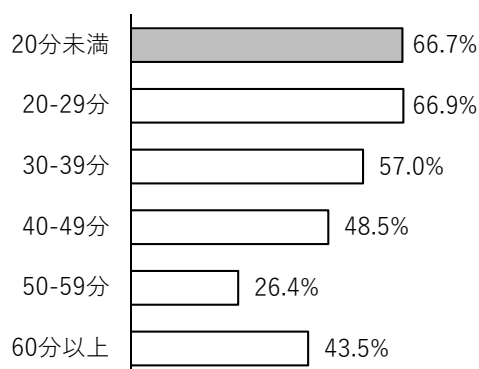
市民目撃があった傷病者 4,698 のうち、収容前心拍再開があった群の 879 人及び収容前心拍再開がなかった群の 3,819 人の 1 か月生存状況等は、次のとおりです。

収容前に心拍再開があった群は、収容前に心拍再開がなかった群と比較して、1 か月生存率に顕著な差が見られます。

図表 2-2-32 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別 1 か月生存状況（収容前心拍再開あり群）

所要時間	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
20分未満	9	1.0%	6	66.7%
20-29分	160	18.2%	107	66.9%
30-39分	307	34.9%	175	57.0%
40-49分	227	25.8%	110	48.5%
50-59分	91	10.4%	24	26.4%
60分以上	85	9.7%	37	43.5%
合計	879	100.0%	459	52.2%

[1 か月生存率]

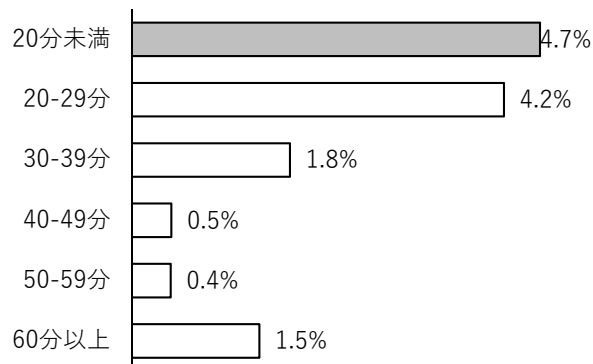


平均 41 分 59 秒

表 2-2-33 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別 1 か月生存状況（収容前心拍再開なし群）

所要時間	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
20分未満	43	1.1%	2	4.7%
20-29分	613	16.1%	26	4.2%
30-39分	1,331	34.9%	24	1.8%
40-49分	1,107	29.0%	5	0.5%
50-59分	450	11.8%	2	0.4%
60分以上	275	7.2%	4	1.5%
合計	3,819	100.0%	63	1.6%

[1 か月生存率]



平均 40 分 57 秒

(13) 市民目撃から心拍再開所要時間別1か月生存

市民目撃があり、収容前に心拍再開があった傷病者 879 人のうち、市民目撃から心拍再開までの所要時間と心拍再開時期別の1か月生存状況は、次のとおりです。

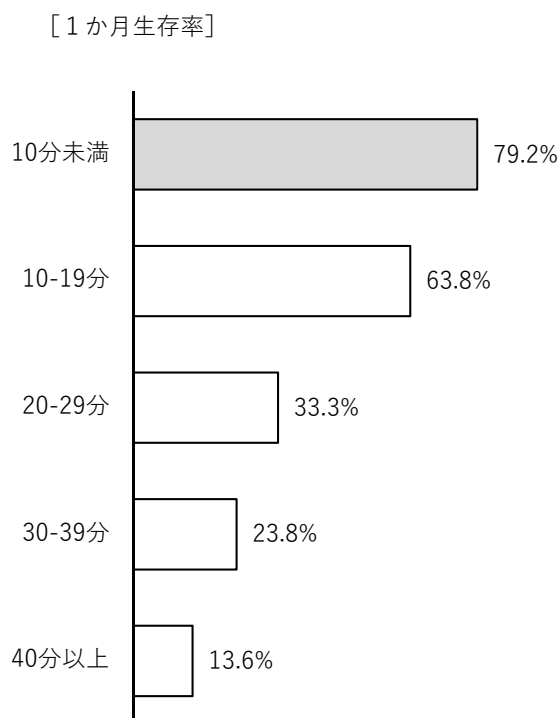
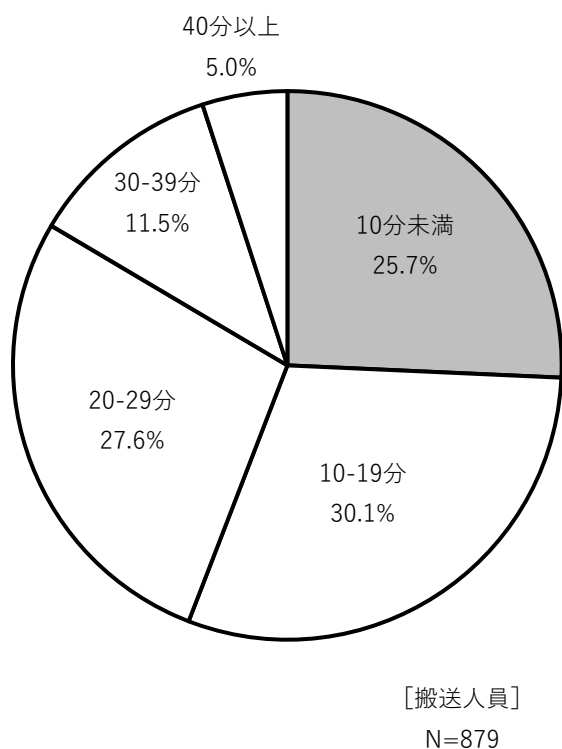
市民目撃から心拍再開所要時間の平均は 18 分 35 秒で、20 分未満に心拍再開した傷病者群の1か月生存率は 70.9%と、20 分以降に心拍再開した傷病者群の 28.6%より、42.3 ポイント高くなっています。

また、隊員等が到着する前にバイスタンダー等の応急手当により心拍再開した群は、全体の 21.6%ですが、1か月生存率 88.4%と、隊員等が到着後に心拍再開した群の 42.2%と比較して、46.2 ポイント高くなっています。

図表 2-2-34 1か月生存者の市民目撃から初回心拍再開までの所要時間別搬送人員内訳

所要時間	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
10分未満	226	25.7%	179	79.2%
10-19分	265	30.1%	169	63.8%
20分未満計	491	55.9%	348	70.9%
20-29分	243	27.6%	81	33.3%
30-39分	101	11.5%	24	23.8%
40分以上	44	5.0%	6	13.6%
20分以上計	388	44.1%	111	28.6%
合計	879	100.0%	459	52.2%

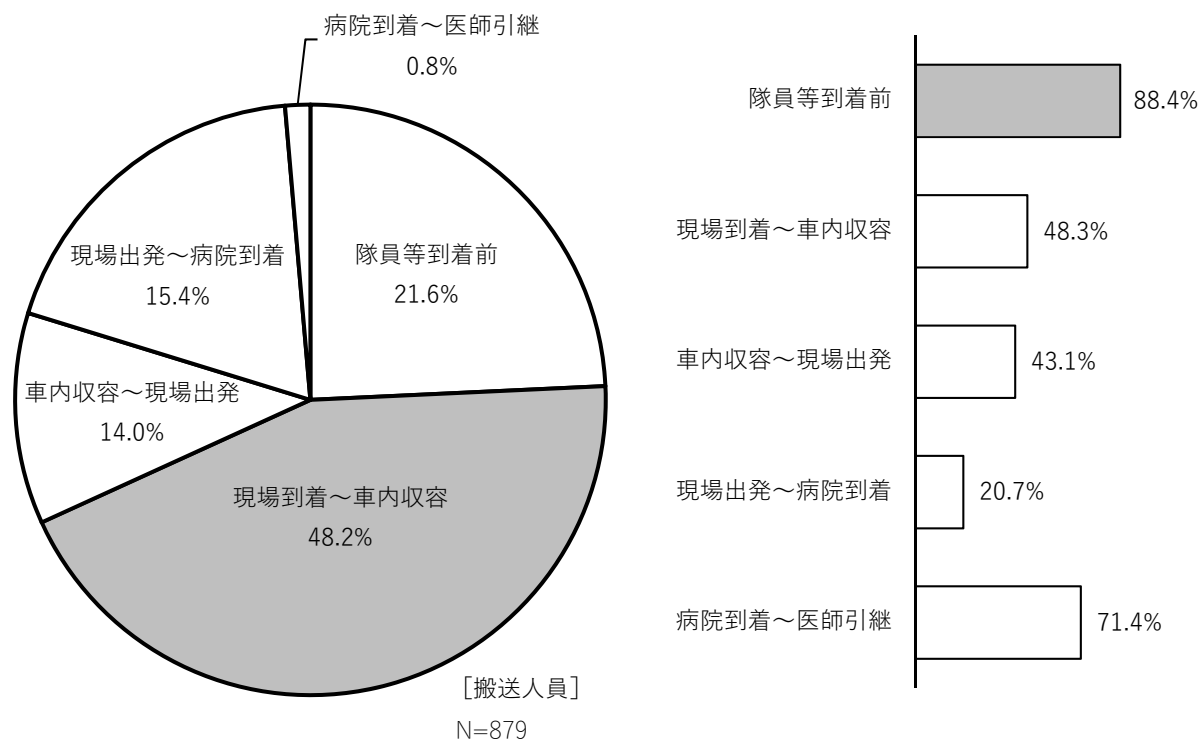
平均 18 分 35 秒



図表 2-2-35 初回心拍再開時期内訳

再開時期	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
隊員等到着前	190	21.6%	168	88.4%
現場到着～車内収容	424	48.2%	205	48.3%
車内収容～現場出発	123	14.0%	53	43.1%
現場出発～病院到着	135	15.4%	28	20.7%
病院到着～医師引継	7	0.8%	5	71.4%
隊員等到着後計	689	78.4%	291	42.2%
合計	879	100.0%	459	52.2%

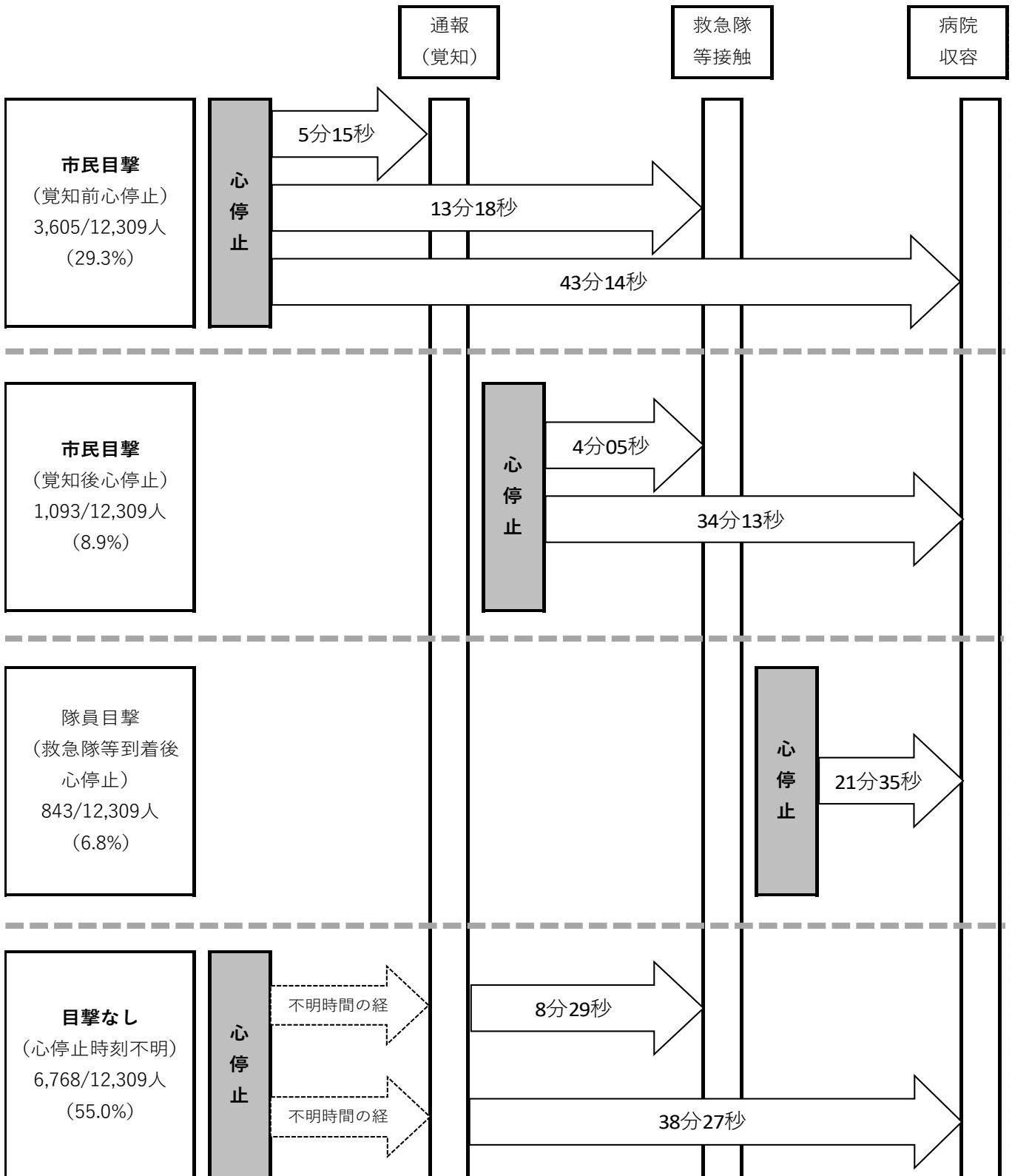
[1か月生存率]



(14) 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間

心停止傷病者が心停止となってから医療機関に収容されるまでの平均所要時間を、心停止目撃の時期別に区分して集計した結果は、次のとおりです。

図表 2-2-36 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間



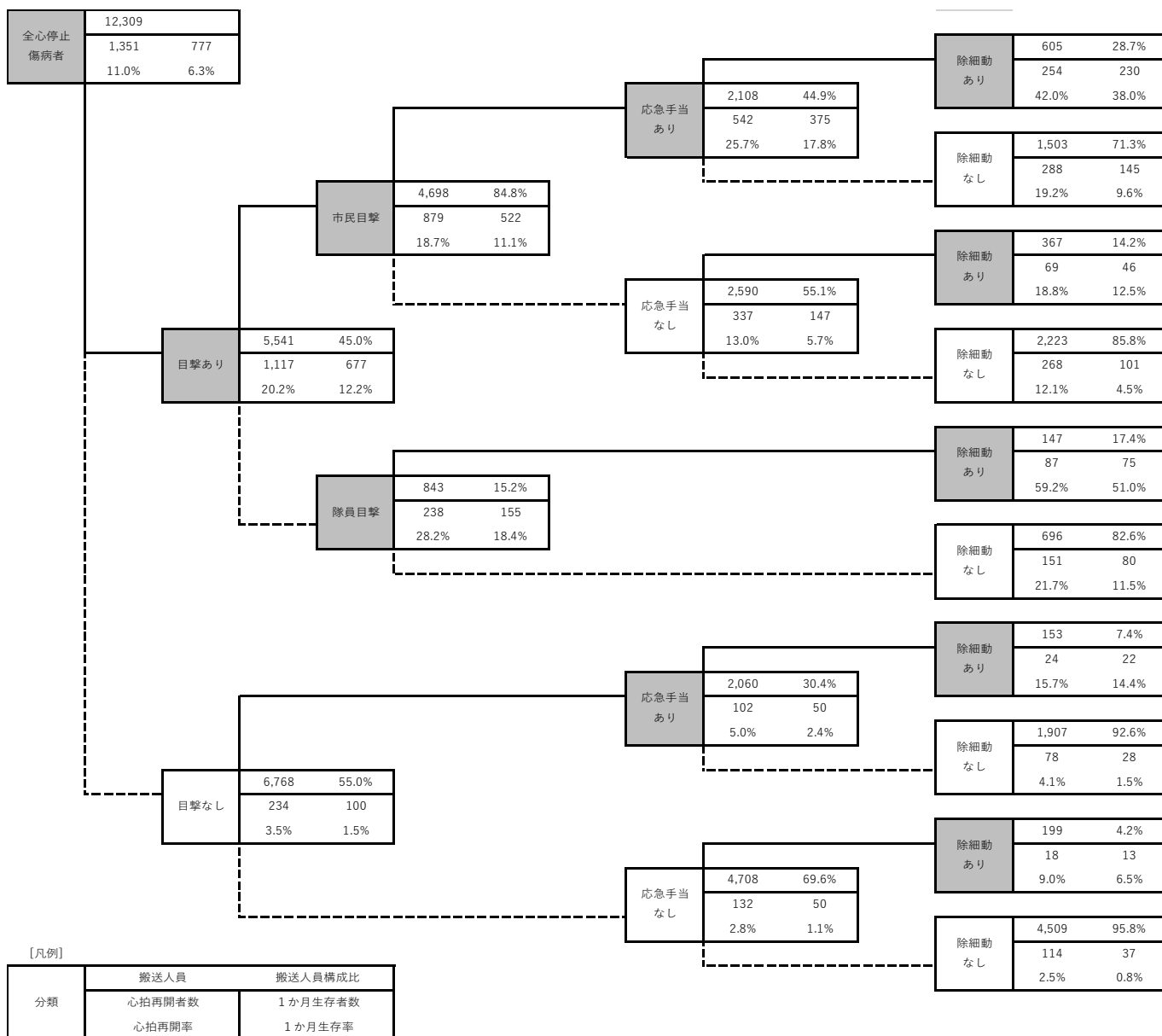
(15) 救命効果のテンプレート

前(3)から(14)の分析結果の概略を表したテンプレート（統計系統図）は次のとおりです。

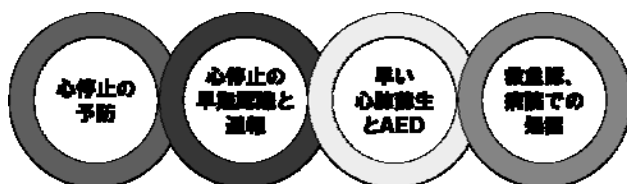
テンプレートを部分的に見みると、心停止目撃、応急手当、除細動があった群の方がなかった群より心拍再開、1か月生存状況が良い結果となっていますが、なかった群の方があった群より搬送人員の実数が大幅に多いため、全体の心拍再開、1か月生存状況は良い結果とはなっていません。

あった群の搬送人員がなかった群の搬送人員を上回り、かつ「救命の連鎖」が途切れることなく行われ、救命効果が向上されることが今後望まれます。

図表 2-2-37 救命効果のテンプレート



図表 2-2-38 救命の連鎖 (Chain of Survival)



大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表すもの。

第3節 救急処置

1 救急隊員による救急処置

全搬送人員 731,900 人で処置内容及び処置実施人数は以下のとおりです。

図表 2-3-1 救急処置内容

処置内容	処置実施人員	搬送人員に対する割合
心肺蘇生	11,701	1.6%
人工呼吸	13,175	1.8%
気道確保	29,592	4.0%
ラリングアルマスク※	15	0.0%
食道閉鎖式エアウェイ※	3,019	0.4%
気管内チューブ※	209	0.0%
静脈路確保（心肺機能停止前）※	1,011	0.1%
静脈路確保（心肺機能停止後）※	1,722	0.2%
薬剤投与（アドレナリン）※	1,353	0.2%
薬剤投与（ブドウ糖）※	610	0.1%
除細動	1,265	0.2%
血糖測定	1,927	0.3%
保温処置	438,153	59.9%
心電図測定	262,981	35.9%
酸素吸入	100,057	13.7%
固定（部分・全身）	57,353	7.8%
被覆・創傷処置	38,967	5.3%
止血処置	21,229	2.9%
医療処置継続	1,267	0.2%
冷却	4,784	0.7%

※は特定行為を示します。

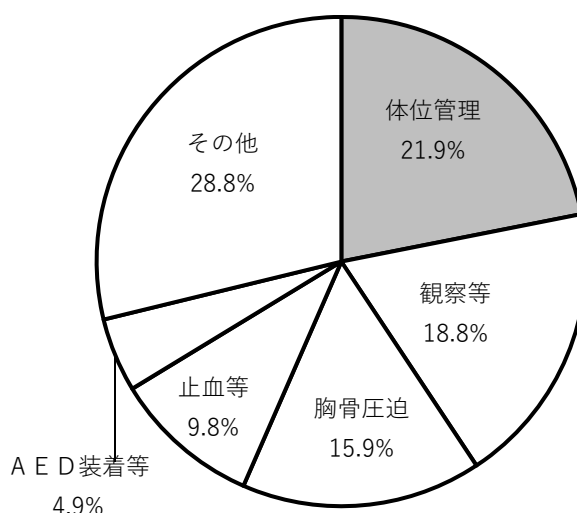
2 都民等による応急手当

(1) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、26,787件の応急手当が実施されています。

図表 2-3-2 応急手当内容

応急手当内容	実施件数	割合
体位管理	5,864	21.9%
観察・バイタルサイン測定等	5,034	18.8%
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,250	15.9%
止血・創傷処置	2,613	9.8%
AED装着、心電図測定	1,308	4.9%
保温・冷却	1,293	4.8%
病院医・往診医その他医療処置	1,274	4.8%
移動（危険回避）	1,073	4.0%
在宅療法・既往における処置対応	592	2.2%
人工呼吸	509	1.9%
異物除去	340	1.3%
除細動	292	1.1%
気道確保	227	0.8%
固定処置	178	0.7%
その他	1,940	7.2%
合計	26,787	100.0%

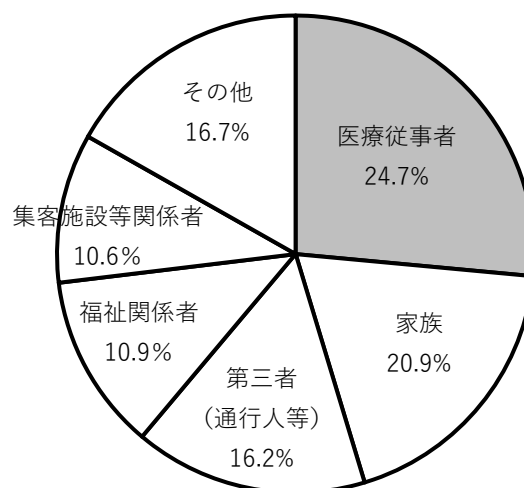


(2) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者が最も多くなっています。

図表 2-3-3 応急手当実施者

実施者別	実施件数	割合
医療従事者	5,547	24.7%
家族	4,697	20.9%
第三者（通行人等）	3,652	16.2%
福祉関係者	2,453	10.9%
集客施設等関係者	2,391	10.6%
職場・学校関係者	1,500	6.7%
友人・近隣者	1,046	4.7%
警察官	517	2.3%
消防職員・消防団員	198	0.9%
その他公的機関	56	0.2%
その他	437	1.9%
合計	22,494	100.0%



(3) 事故種別ごとの応急手当内容・実施者

都民等による応急手当の内容と実施者を事故種別ごとにみると、次のとおりとなっています。

図表 2-3-4 事故種別ごとの応急手当内容、応急手当実施者

処置実施者	合計	交通事故	火災事故	運動競技	自然災害	水難事故	労働災害	一般負傷	自損行為	加害	急病
体位管理	5,864	316	-	62	-	3	56	1,576	16	15	3,820
観察・バイタルサイン測定等	5,034	117	2	54	-	1	22	590	12	5	4,231
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,250	35	-	17	-	103	9	348	118	-	3,620
止血・創傷処置	2,613	289	2	48	-	-	84	1,999	29	8	154
A E D装着、心電図測定	1,308	13	-	8	-	11	6	100	13	-	1,157
保温・冷却	1,293	55	6	134	-	1	28	506	-	3	560
病院医・往診医その他医療処置	1,274	10	1	18	-	3	4	104	7	-	1,127
移動（危険回避）	1,073	153	1	8	-	59	8	345	33	2	464
在宅療法・既往における処置対応	592	-	1	-	-	-	-	52	-	-	539
人工呼吸	509	2	-	5	-	21	2	45	17	-	417
異物除去	340	-	-	-	-	-	-	273	-	-	67
除細動	292	2	-	4	-	-	1	6	2	-	277
気道確保	227	9	-	4	-	5	1	22	2	1	183
固定処置	178	8	-	75	-	-	7	83	-	1	4
その他	1,940	172	1	15	-	9	11	564	16	6	1,146
合計	26,787	1,181	14	452	-	216	239	6,613	265	41	17,766

処置実施者	合計	交通事故	火災事故	運動競技	自然災害	水難事故	労働災害	一般負傷	自損行為	加害	急病
医療従事者	5,547	121	3	75	-	5	20	761	16	6	4,540
家族	4,697	47	4	21	-	74	6	1,170	116	5	3,254
第三者（通行人等）	3,652	559	1	5	-	30	10	1,654	21	9	1,363
福祉関係者	2,453	6	-	-	-	3	-	462	4	-	1,978
集客施設等関係者	2,391	32	-	53	-	37	13	791	13	3	1,449
職場・学校関係者	1,500	22	2	119	-	1	139	327	15	3	872
友人・近隣者	1,046	33	1	49	-	10	4	312	17	1	619
警察官	517	100	-	2	-	3	4	126	18	8	256
消防職員・消防団員	198	40	1	2	-	-	4	59	-	-	92
その他公的機関	56	6	-	1	-	-	1	14	-	-	34
その他	437	75	-	36	-	5	4	113	2	3	199
合計	22,494	1,041	12	363	-	168	205	5,789	222	38	14,656

応急手当実施件数は転院搬送に係るものを除きます。

1人の傷病者に対して複数の処置が実施された場合は、処置者1名につき3つの処置まで計上しています。

1人の傷病者に対して複数名が処置を実施した場合は、4名まで処置実施者として計上しています。

第4節 事故種別ごとの活動統計

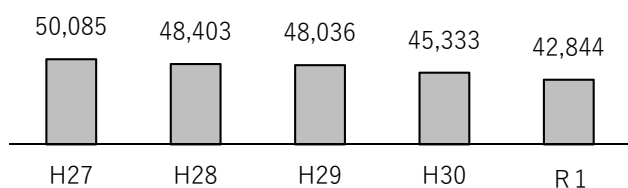
1 事故種別ごとの搬送人員推移

労働災害事故、一般負傷、自損行為、急病、転院搬送は増加傾向にあり、交通事故、火災事故、運動競技事故、自然災害事故、水難事故、加害は減少傾向にあります。

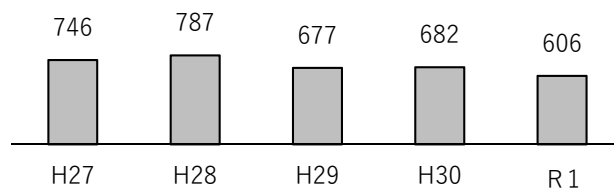
図表 2-4-1 事故種別ごとの搬送人員推移

事故種別	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
交通事故	50,085	48,403	48,036	45,333	42,844
火災事故	746	787	677	682	606
運動競技事故	5,339	5,390	5,317	5,409	5,256
自然災害事故	11	10	12	20	14
水難事故	517	523	490	487	455
労働災害事故	4,727	4,692	4,874	5,222	5,314
一般負傷	118,021	121,305	125,520	133,410	133,728
自損行為	3,752	3,710	3,621	3,608	3,833
加害	5,749	5,694	5,473	5,272	4,813
急病	441,043	457,692	460,710	484,162	490,379
転院搬送	43,155	43,217	44,198	42,823	44,658

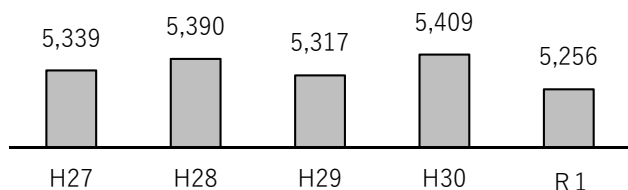
交通事故



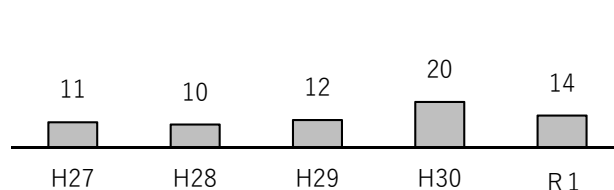
火災事故



運動競技事故



自然災害事故



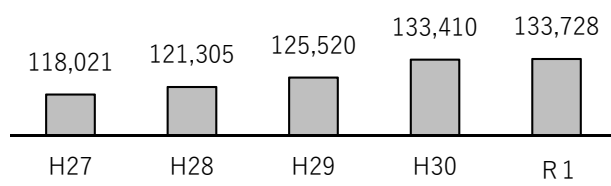
水難事故



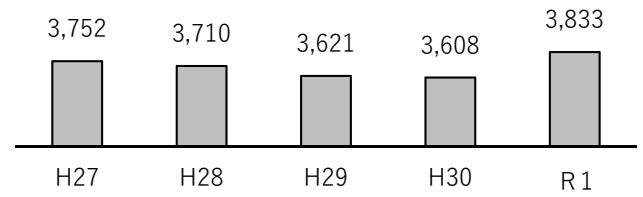
労働災害事故



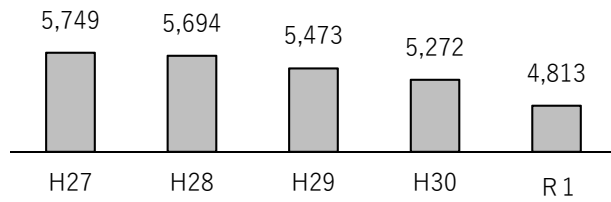
一般負傷



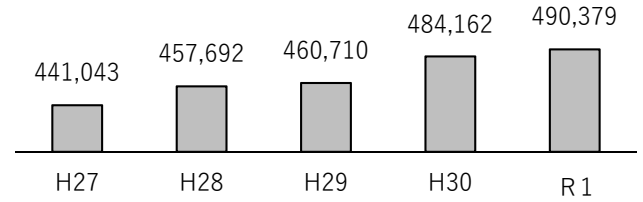
自損行為



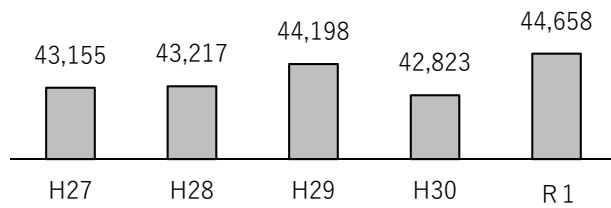
加害



急病



転院搬送

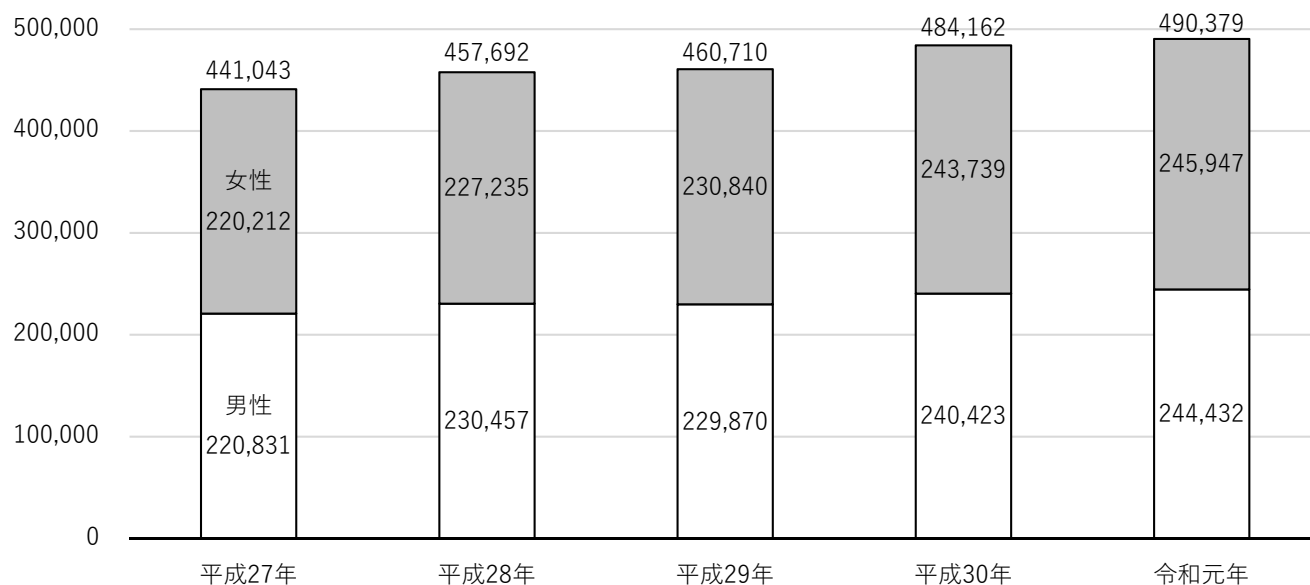


2 急病

(1) 搬送人員推移

急病の搬送人員は490,379人で、前年に比べ6,217人（1.3%）増加しています。

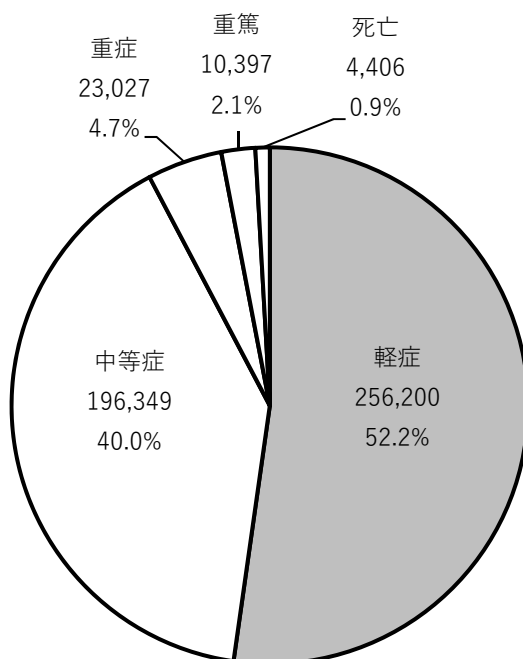
図表 2-4-2 急病の搬送人員推移



(2) 初診時程度

急病の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が52.2%を占めています。

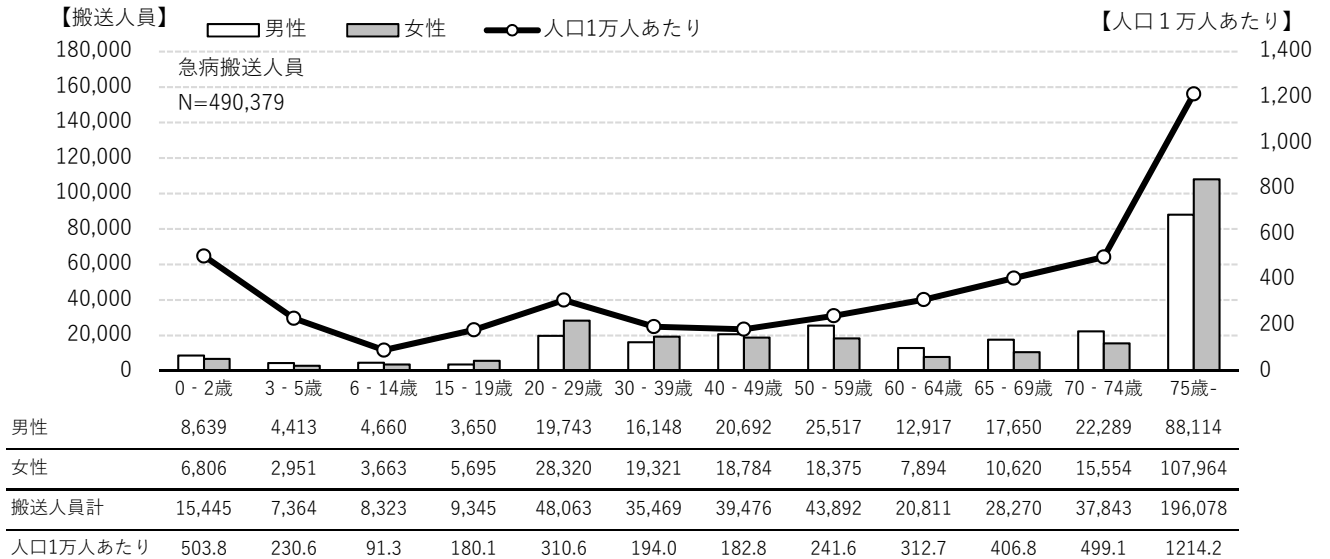
図表 2-4-3 急病の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

急病の搬送人員を年齢層別で見ると、高齢者層（65歳以上）が半数以上で、特に75歳以上が全体の約4割を占めています。

図表 2-4-4 急病の年齢層別搬送人員



(4) 病態別搬送人員

急病の搬送人員を病態別で見ると、「痛み」が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-5 急病の病態別搬送人員

病態	年齢層												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
痛み	頭痛・頭重感	8	72	463	533	2,352	2,115	1,995	1,914	604	670	742	3,148	14,616
	胸痛	3	21	152	214	958	1,000	1,707	2,331	1,018	1,141	1,357	5,756	15,658
	腹痛	177	532	1,459	2,278	11,547	8,422	7,608	6,417	2,304	2,687	3,062	11,750	58,243
	腰背部痛	4	4	18	118	1,131	1,856	2,559	2,459	975	1,155	1,316	7,025	18,620
	筋骨格系の痛み	16	46	72	75	489	709	1,054	1,399	692	949	1,179	6,558	13,238
	感覚器系の痛み	12	73	59	31	165	117	124	133	49	78	88	315	1,244
	その他痛み	28	64	97	103	459	365	403	466	196	278	336	1,581	4,376
意識障害	意識消失・失神（一過性）	234	116	416	690	2,023	1,330	1,740	2,321	1,142	1,601	2,182	10,925	24,720
	意識障害・混濁（遷延性）	146	177	206	339	2,044	936	1,238	1,692	852	1,275	1,880	11,515	22,300
	異常行動・言動・興奮	12	23	85	17	77	59	119	121	63	100	118	450	1,244
	無算動・昏迷・自発性欠如	9	8	15	32	117	83	74	87	33	59	62	374	953
発熱	3,667	1,782	1,422	741	3,554	2,073	1,587	1,398	797	1,474	2,497	23,956	44,948	
痙攣・麻痺・感覚異常	痙攣	7,984	2,921	1,736	773	1,636	1,127	1,119	975	394	378	420	1,426	20,889
	不随意運動・振戦・ふるえ	93	60	66	73	221	184	259	297	159	168	254	1,157	2,991
	運動麻痺	2	5	6	8	60	122	501	1,009	640	870	1,080	4,773	9,076
	知覚麻痺	-	-	3	12	108	183	222	307	123	162	182	492	1,794
	言語・構語障害	-	1	2	4	24	60	203	423	275	443	632	2,603	4,670
	視野障害（視野狭窄等）	-	4	7	5	34	36	67	74	48	55	65	183	578
	聴覚障害（耳閉、耳鳴、難聴）	-	-	1	1	8	11	25	17	1	8	17	51	140
	その他麻痺等	1	3	7	16	102	143	206	215	99	110	131	474	1,507
めまい	dizziness（一般的めまい）	-	-	27	144	940	910	1,351	1,613	980	1,275	1,726	5,814	14,780
	vertigo（回転するめまい）	-	1	24	88	815	1,205	1,871	2,227	1,109	1,350	1,742	4,796	15,228
動悸等	動悸・不整脈感	2	1	43	66	681	853	1,189	1,396	534	679	1,000	3,371	9,815
	胸部違和感・胸内苦悶	1	4	12	30	162	255	457	661	284	473	573	3,434	6,346
呼吸器症状	鼻出血	34	69	62	28	93	95	190	375	225	312	440	1,201	3,124
	呼吸困難	170	130	110	54	245	243	511	742	490	866	1,216	8,112	12,889
	呼吸困難（過換気）	4	1	183	663	2,397	1,294	881	582	111	62	71	193	6,442
	息切れ、息苦しさ	173	151	215	178	798	844	1,167	1,526	834	1,260	1,815	12,518	21,479
	喀血・血痰	1	7	-	3	17	15	24	60	34	52	92	303	608
	咳・嘔声・喀痰異常	369	246	125	24	143	134	161	187	80	97	168	1,458	3,192
	その他呼吸器症状	68	27	22	21	56	37	67	44	24	44	74	1,172	1,656

病態	年齢層												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
消化器症状	嘔吐・嘔気	1,074	442	623	754	6,087	3,142	2,431	2,140	967	1,211	1,661	8,017	28,549
	下痢	44	12	25	36	278	240	199	240	102	133	196	863	2,368
	吐血	9	9	14	9	84	133	275	399	219	273	319	1,689	3,432
	下血・血便	54	7	9	21	97	155	265	493	261	387	512	3,013	5,274
	腹部膨満感・違和感	10	3	4	4	28	39	85	151	66	105	128	694	1,317
	便秘・排便困難	30	9	7	3	17	37	57	121	116	147	271	1,430	2,245
	その他消化器症状	22	6	6	4	30	38	49	60	32	53	70	388	758
泌尿器・生殖器症状	血尿	4	2	2	3	48	36	67	57	38	51	106	700	1,114
	乏尿・尿閉	3	3	-	2	17	31	77	182	168	209	359	1,338	2,389
	性器出血	1	-	-	17	141	280	168	57	7	14	16	91	792
	月経異常・月経困難	-	-	1	9	24	12	13	8	-	1	-	-	68
	その他泌尿器・生殖器症状	11	4	12	12	36	34	46	43	28	28	51	194	499
産科症状・新生児	100	-	-	19	170	314	69	1	1	-	-	-	674	
皮膚症状	黄疸	-	-	-	-	-	3	3	7	5	2	5	57	82
	発疹・湿疹	281	97	110	78	236	199	163	106	48	48	56	255	1,677
	皮下出血（紫斑等）	-	1	-	-	2	-	6	2	4	2	2	36	55
	壊疽・壊死	-	-	-	-	-	1	9	10	9	11	16	42	98
	掻痒感	16	20	23	18	72	47	50	40	17	20	22	79	424
	その他皮膚症状	32	16	13	8	30	36	53	69	32	40	48	264	641
全身症状	虚脱・脱力感・歩行困難	92	37	131	495	3,492	1,874	2,187	3,166	1,962	3,163	4,263	22,113	42,975
	脱水・栄養失調・全身衰弱	11	1	8	15	78	57	134	227	150	274	418	2,945	4,318
	不安感・孤独感	4	-	6	18	118	155	206	165	56	43	54	198	1,023
	悪心・悪寒	11	17	35	81	483	260	292	362	132	226	294	1,431	3,624
	不定愁訴	9	3	3	8	41	78	90	108	39	46	47	300	772
	その他全身症状	145	38	42	61	401	301	399	490	227	349	470	2,489	5,412
その他	264	88	134	308	2,597	1,151	1,404	1,720	956	1,303	1,942	10,568	22,435	

(5) 疾患別搬送人員

急病の搬送人員を初診時傷病名別でみると、症状・徴候・診断名不明確が57.1%を占めています。

図表 2-4-6 急病の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	280,199	57.1%
消化器系疾患	40,127	8.2%
呼吸器系疾患	36,736	7.5%
心・循環器疾患	26,462	5.4%
脳血管障害	22,387	4.6%
精神系疾患	17,908	3.7%
感覚器・神経系疾患	13,792	2.8%
筋・骨格系疾患	12,890	2.6%
腎泌尿器・生殖器疾患	11,383	2.3%
新生物	4,879	1.0%
その他	23,616	4.8%
合計	490,379	100.0%

(6) 発生場所

急病の搬送人員を発生場所別で見ると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）が約69.8%を占めています。

図表 2-4-7 急病の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	342,438	69.8%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	33,076	6.7%
特養以外の高齢者施設、グループホーム等	22,021	4.5%
駅	18,684	3.8%
一般飲食店	13,899	2.8%
会社・オフィス	10,292	2.1%
特別養護老人ホーム	8,294	1.7%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	4,336	0.9%
デパート・スーパー・量販店	4,257	0.9%
その他	33,082	6.7%
合計	490,379	100.0%

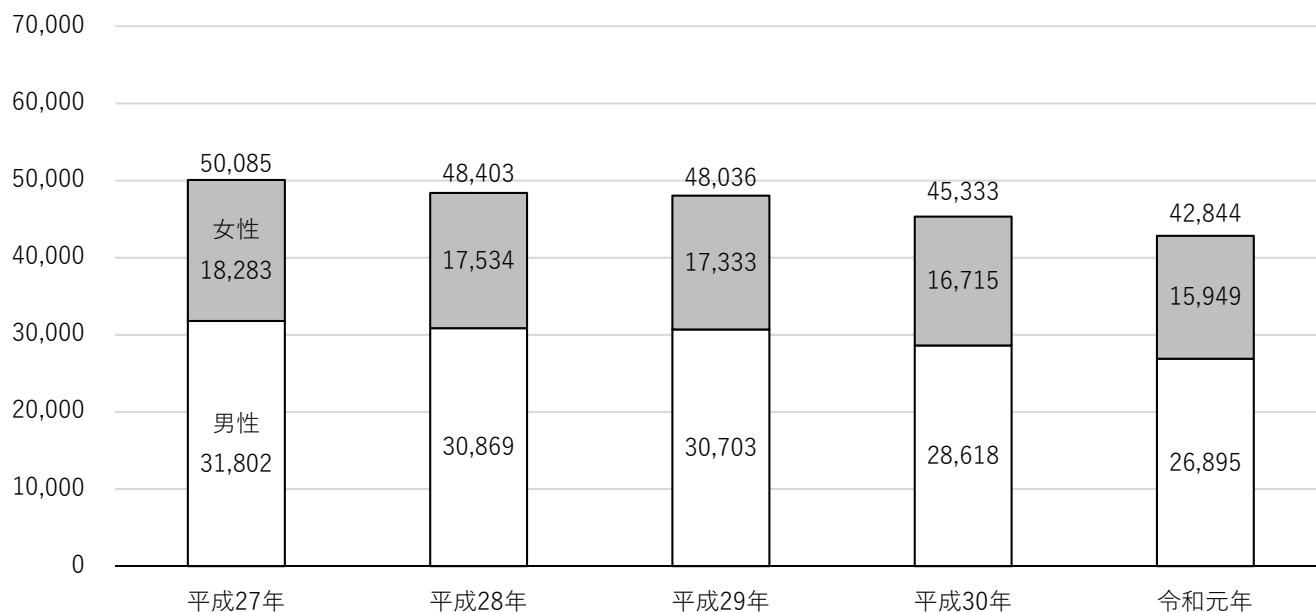
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

3 交通事故

(1) 搬送人員推移

交通事故（交通機関相互の衝突、接触又は単一事故、歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故）の搬送人員は42,844人で、前年に比べ2,489人（5.5%）減少しています。

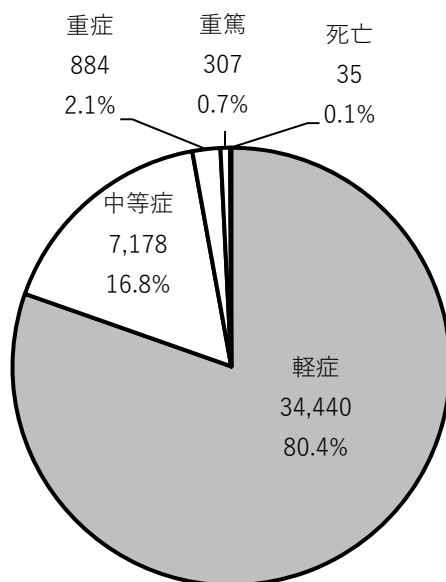
図表 2-4-8 交通事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

交通事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が80.4%を占めています。

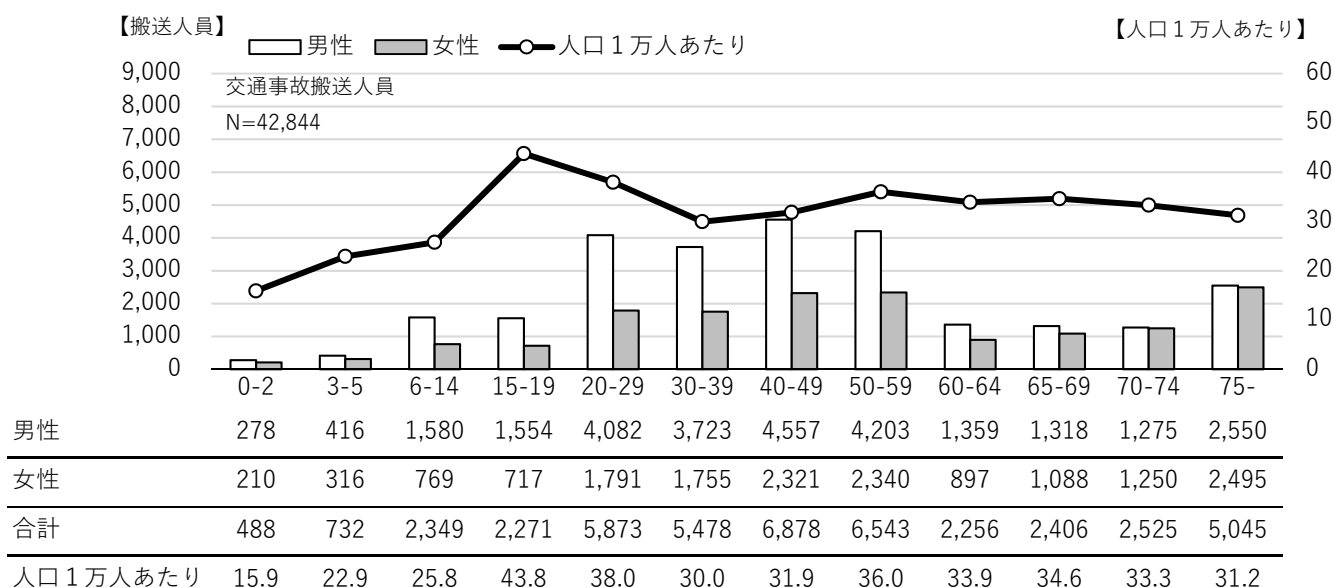
図表 2-4-9 交通事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

交通事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20歳代から50歳代が多く、人口に対する比率は、15歳～19歳が高くなっています。

図表 2-4-10 交通事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

交通事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、自転車により受傷したものが高い割合を占めています。

図表 2-4-11 交通事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層（歳）												合計
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-	
自転車乗車で受傷	281	440	1,461	1,281	1,949	2,018	2,558	2,506	997	1,224	1,461	3,031	19,207
自動車乗車で受傷	143	127	281	273	1,628	1,602	1,925	1,897	599	571	498	717	10,261
自動二輪乗車で受傷	4	11	28	579	1,675	1,257	1,643	1,287	352	263	196	245	7,540
歩行者で受傷	54	148	570	132	590	575	713	818	294	337	352	1,001	5,584
その他	6	6	9	6	31	26	39	35	14	11	18	51	252

「歩行者で受傷」は歩行者が自動車、二輪車、自転車等と衝突・接触し受傷したものを、交通機関乗車中の受傷は、運転中及び同乗中を含む。

(5) 外傷形態

交通事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が67.3%を占めています。

図表 2-4-12 交通事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	28,848	67.3%
脱臼・捻挫	3,230	7.5%
骨折	3,162	7.4%
開放創・離断	1,064	2.5%
脊椎・髄損傷	522	1.2%
症状・徴候・診断名不明確	277	0.6%
内部・臓器損傷	151	0.4%
筋・骨格系疾患	52	0.1%
脳血管障害	37	0.1%
その他	5,501	12.8%
合計	42,844	100.0%

(6) 発生場所

交通事故の搬送人員を発生場所で見ると、一般道路（公道・私道・施設内道路）が91.5%を占めています。

図表 2-4-13 交通事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	39,220	91.5%
高速道路・自動車専用道路	1,254	2.9%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	854	2.0%
駐車場・駐輪施設	233	0.5%
警察署・交番	142	0.3%
駅	126	0.3%
線路・軌道敷	121	0.3%
その他	894	2.1%
合計	42,844	100.0%

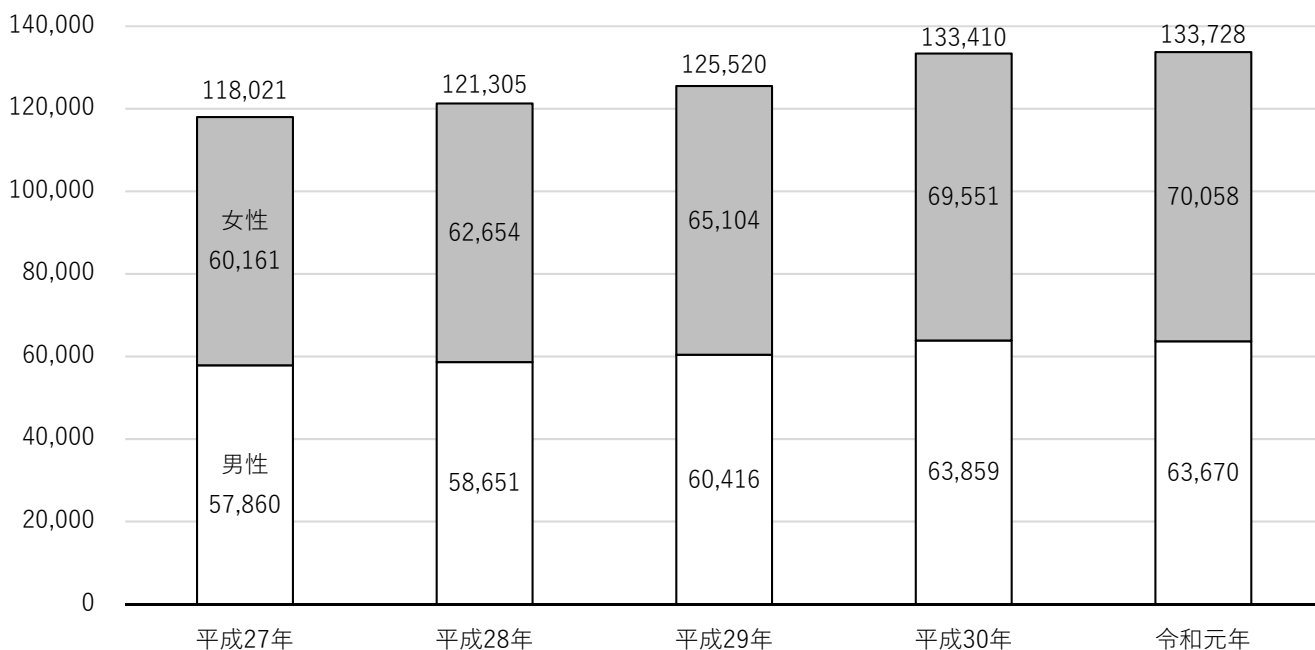
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

4 一般負傷

(1) 搬送人員推移

一般負傷（転倒や転落、誤って手を切ったなどの不慮の事故）の搬送人員は133,728人で、前年に比べ318人（0.2%）増加しています。

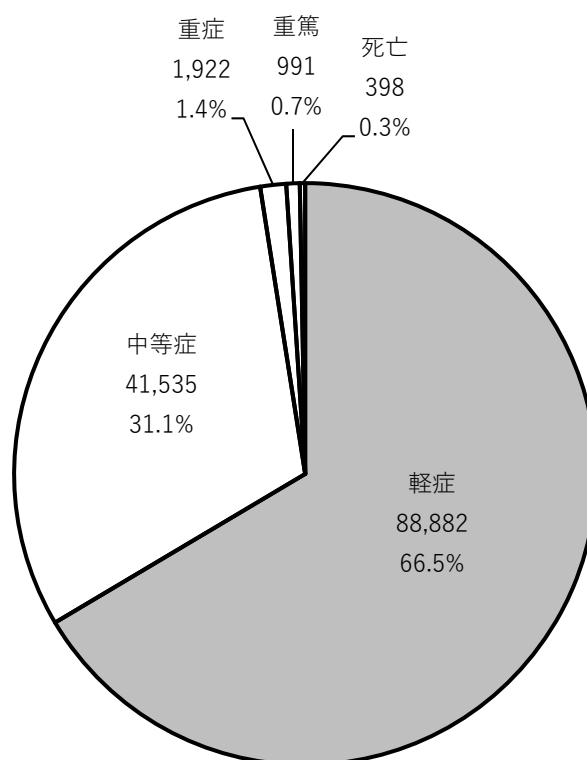
図表 2-4-14 一般負傷の搬送人員推移



(2) 初診時程度

一般負傷の搬送人員を初診時程度でみると、軽症が66.5%を占めています。

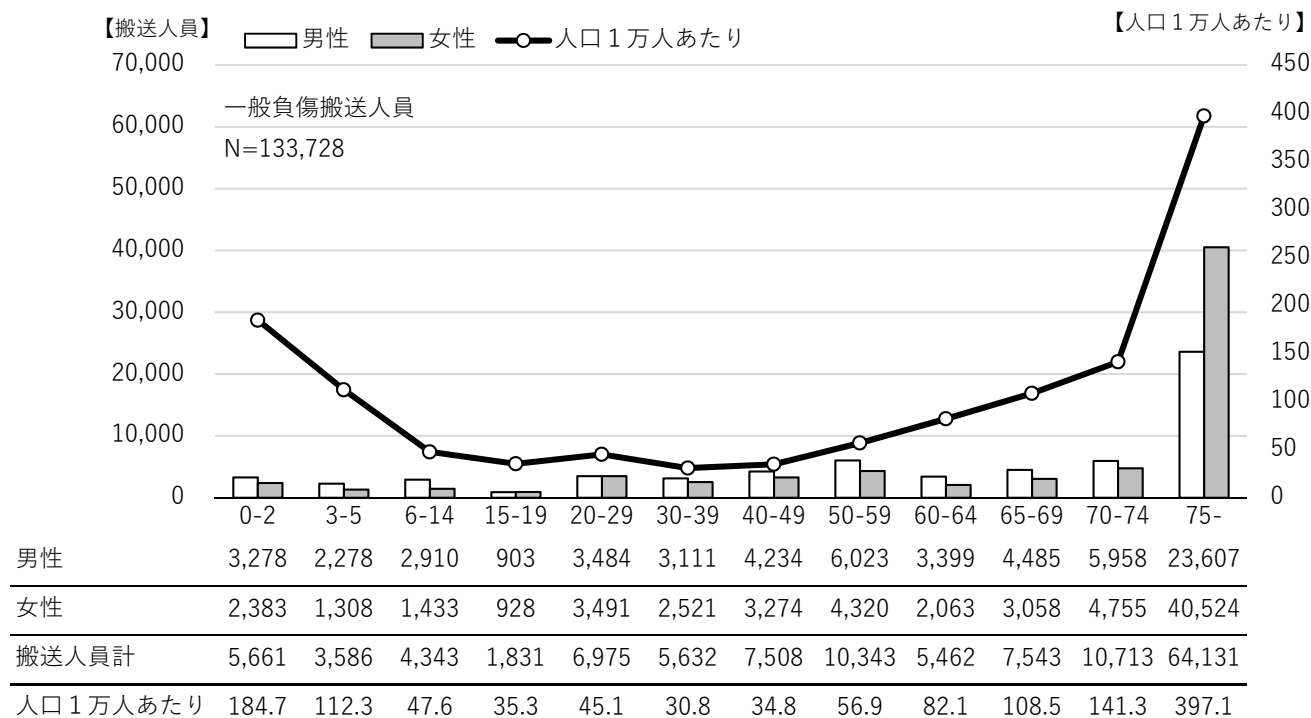
図表 2-4-15 一般負傷の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

一般負傷の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が約半分の割合を占めています。

図表 2-4-16 一般負傷の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

一般負傷の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、転倒による受傷が高い割合を占めています。

図表 2-4-17 一般負傷の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	53	39	93	86	383	318	298	399	159	239	351	1,982	4,400
	転倒	1,399	1,285	1,417	393	2,053	1,810	3,417	5,783	3,433	5,076	7,417	48,180	81,663
	転落・滑落	1,340	672	598	134	616	566	826	1,241	639	776	935	4,302	12,645
	墜落・飛び降り	76	59	96	24	80	68	72	68	32	22	37	65	699
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	220	144	140	27	110	88	107	113	55	40	60	195	1,299
	轢かれ・踏まれ	8	4	10	1	17	12	13	6	5	3	1	8	88
	衝突・ぶつかり	426	463	682	158	381	345	361	398	166	169	222	810	4,581
	殴打・蹴られ	6	12	37	16	53	42	26	15	6	7	3	11	234
	ひきずられ・引っ張られ	91	42	13	2	15	11	14	18	6	12	11	69	304
	噛まれ・引っ掻き	33	15	37	13	57	61	70	111	50	55	56	154	712
	埋没・圧迫・押され	11	9	12	4	11	12	14	16	3	5	9	31	137
	飛来物・落下物	29	18	48	23	50	46	50	44	15	7	20	50	400
その他行動・作用	85	52	80	61	259	216	187	191	76	103	126	511	1,947	
不明	164	90	59	63	361	338	433	492	250	331	463	3,408	6,452	
危険物接触作用・ 環境暴露	刃物・鋭利物	77	61	141	114	441	324	261	246	85	107	126	195	2,178
	鈍器物	11	3	11	4	8	4	11	7	4	2	6	9	80
	爆発・破裂物	-	-	2	1	1	1	1	1	-	-	-	-	7
	高熱固体・燃焼物	33	9	3	-	4	6	7	4	2	3	4	14	89
	高熱液体・燃焼物	283	57	86	17	78	93	60	62	23	29	35	126	949
	高熱気体・燃焼物	6	1	2	-	6	7	5	4	1	3	3	12	50
	有毒固体・燃焼物	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	4
	有毒液体・燃焼物	2	1	3	2	4	1	-	2	3	2	-	4	24
	有毒気体・燃焼物	1	-	5	1	10	2	6	7	2	2	2	8	46
	電流・感電	2	4	2	-	2	-	-	-	1	-	-	-	11
	その他危険物	-	-	3	-	4	4	1	3	1	2	-	1	19

事故発症時動作	年齢層 (歳)											合計		
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-	
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	2	2	-	5	3	4	4	6	1	1	6	34
	窒息・誤飲(気道)	253	54	14	8	18	21	31	53	33	58	112	844	1,499
	溺水・入水	14	3	1	-	1	2	3	6	3	9	11	154	207
	異物(食道・消化器)	486	127	67	11	53	54	78	61	31	50	61	367	1,446
	異物(感覚器官)	33	54	15	6	33	16	24	25	4	5	6	21	242
	異物(性器・泌尿器)	1	1	1	-	4	2	3	4	1	2	2	11	32
	その他窒息・異物	37	17	6	5	8	9	6	7	5	1	8	33	142
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	10	1	14	104	407	268	239	152	34	30	23	82	1,364
	麻薬・覚醒剤	-	-	-	4	8	6	5	2	1	-	-	-	26
	その他医薬品	24	9	16	84	213	124	114	89	19	18	25	72	807
	消毒剤・洗浄剤	8	-	5	1	10	15	17	15	1	2	11	21	106
	有機溶剤	-	-	-	-	4	-	1	2	1	-	1	1	10
	殺虫剤・農薬・除草剤	8	2	3	1	5	3	10	8	1	2	2	19	64
	重金属・腐食剤	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	34	14	20	11	45	30	21	35	4	5	6	21	246
	自然毒・食中毒	73	43	66	25	76	47	45	46	16	9	17	27	490
	その他薬物・中毒	48	28	42	52	301	114	94	77	25	29	19	37	866
自然環境作用	高温環境	14	13	261	252	450	314	395	371	188	278	447	1,894	4,877
	低温環境	-	-	-	-	2	5	8	13	12	10	14	118	182
	気圧変化(潜水・高山)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	2
	風水害	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2
	その他自然環境	-	1	2	3	6	7	6	4	2	2	3	13	49
その他	262	177	228	120	322	215	160	138	57	37	57	243	2,016	

(5) 外傷形態

一般負傷の搬送人員を初診時傷病名別でみると、打撲・血腫・挫傷が49.5%を占めています。

図表 2-4-18 一般負傷の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	66,249	49.5%
骨折	22,249	16.6%
開放創・離断	8,433	6.3%
症状・徴候・診断名不明確	4,197	3.1%
脱臼・捻挫	3,957	3.0%
窒息・異物誤飲	2,753	2.1%
中毒	2,659	2.0%
熱傷Ⅱ度以下	1,169	0.9%
筋・骨格系疾患	578	0.4%
その他	21,484	16.1%
合計	133,728	100.0%

(6) 発生場所

一般負傷の搬送人員を発生場所別でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）が49.3%を占めています。

図表 2-4-19 一般負傷の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	65,874	49.3%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	30,457	22.8%
駅	8,067	6.0%
特養以外の高齢者施設・グループホーム等	5,323	4.0%
一般飲食店	4,041	3.0%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	2,085	1.6%
デパート・スーパー・量販店	2,028	1.5%
小・中・高等・大学等	1,722	1.3%
特別養護老人ホーム	1,472	1.1%
その他	12,659	9.5%
合計	133,728	100.0%

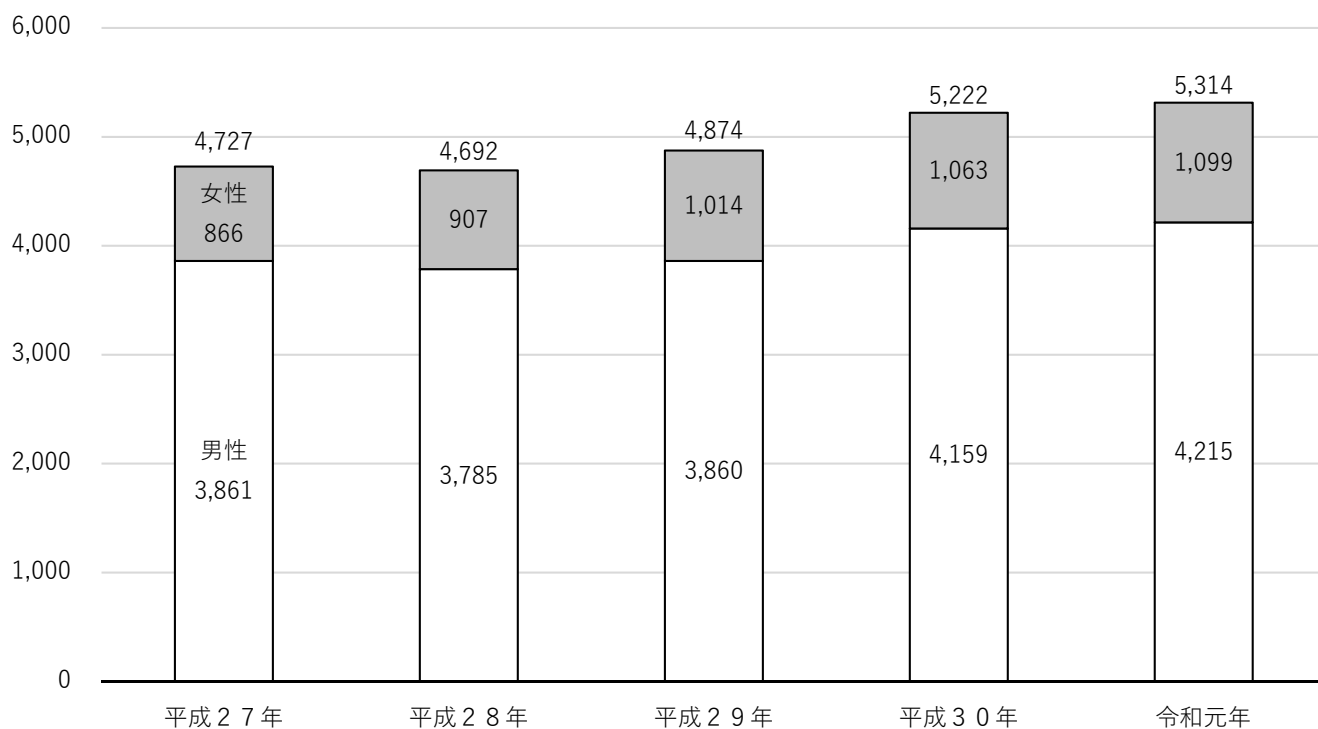
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

5 労働災害事故

(1) 搬送人員推移

労働災害事故（工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中に発生した事故）の搬送人員は5,314人で、前年に比べ92人(1.8%)増加しています。

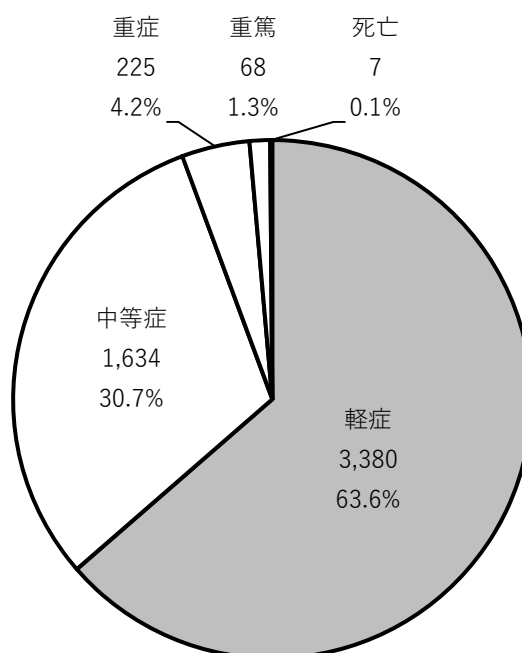
図表 2-4-20 労働災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

労働災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が63.6%を占めています。

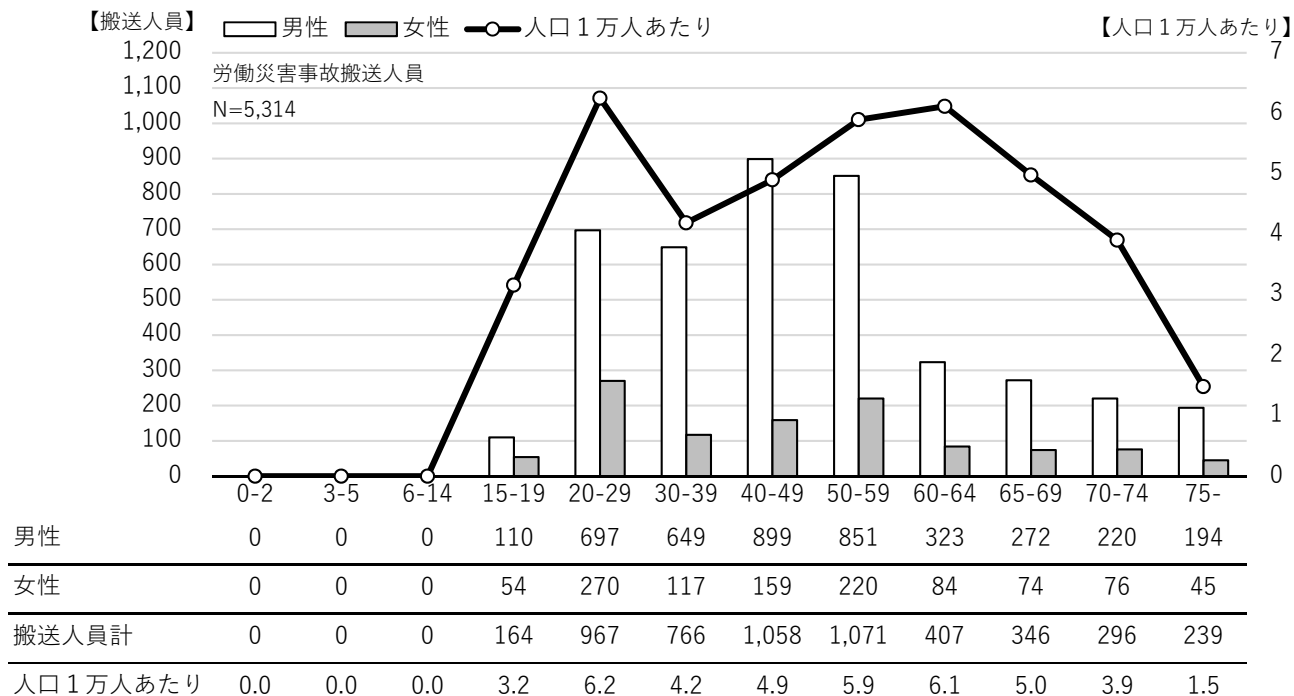
図表 2-4-21 労働災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

労働災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると20歳代から50歳代が多く、各年齢層ともに男性が多くなっています。

図表 2-4-22 労働災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

労働災害事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、転落・滑落による受傷が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-23 労働災害事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	3	40	23	29	26	11	3	5	4	144
	転倒	-	-	-	21	103	83	130	221	117	80	86	59	900
	転落・滑落	-	-	-	15	114	116	215	228	101	95	74	71	1,029
	墜落・飛び降り	-	-	-	8	34	23	34	43	14	20	15	10	201
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	13	136	128	168	140	38	40	34	30	727
	轢かれ・踏まれ	-	-	-	1	13	10	20	21	6	-	5	4	80
	衝突・ぶつかり	-	-	-	11	85	71	115	110	34	34	20	14	494
	殴打・蹴られ	-	-	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	6
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	-	-	2	3	4	2	1	2	1	-	15
	晒まれ・引っ掻き	-	-	-	1	7	5	5	8	1	-	-	1	28
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	-	3	8	5	3	-	1	1	1	22
	飛来物・落下物	-	-	-	6	35	31	48	26	10	7	5	3	171
	その他行動・作用	-	-	-	3	21	33	24	23	2	-	3	4	113
不明	-	-	-	-	5	4	5	8	7	7	4	4	44	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	52	252	136	163	145	42	32	28	23	873
	鈍器物	-	-	-	-	2	5	7	9	1	2	1	1	28
	爆発・破裂物	-	-	-	1	3	3	-	3	-	-	-	-	10
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	5	2	-	1	-	-	-	-	8
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	15	39	25	16	11	3	1	1	1	112
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	1	2	-	1	-	1	-	1	-	6
	有毒固体・燃焼物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	2
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	1	6	3	4	3	2	-	-	-	19
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	3	1	2	2	1	2	1	-	12

事故発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
危険物接触作用・環境暴露	電流・感電	-	-	-	-	2	1	7	1	2	1	-	-	14
	その他危険物	-	-	-	-	1	3	-	1	-	1	-	-	6
窒息・誤飲・異物	異物 (食道・消化器)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	異物 (感覚器官)	-	-	-	-	1	2	1	-	-	1	-	-	5
	その他窒息・異物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
薬物服用・吸入・中毒	その他医薬品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	1	4	1	1	2	2	-	-	-	11
	有機溶剤	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	4
	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	重金属・腐食剤	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	2
	日常生活用品	-	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	4
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	3
その他薬物・中毒	-	-	-	1	1	1	2	1	-	-	1	-	7	
自然環境作用	高温環境	-	-	-	5	38	33	48	31	9	12	7	6	189
	その他自然環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
その他	-	-	-	4	3	2	2	1	1	2	3	2	20	

(5) 外傷形態

労働災害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が39.6%を占めています。

図表 2-4-24 労働災害事故の初診時傷病名別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2,107	39.6%
開放創・離断	1,149	21.6%
骨折	719	13.5%
脱臼・捻挫	164	3.1%
症状・徴候・診断名不明確	157	3.0%
熱傷Ⅱ度以下	145	2.7%
脊椎・髄損傷	45	0.8%
筋・骨格系疾患	44	0.8%
内部・臓器損傷	28	0.5%
その他	756	14.2%
合計	5,314	100.0%

(6) 発生場所

労働災害事故を発生場所別で見ると、工場・製造所・作業場が22.0%を占めています。

図表 2-4-25 労働災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
工場・製造所・作業場	1,171	22.0%
一般道路 (公道・私道・施設内道路)	555	10.4%
一般飲食店	553	10.4%
建築・工事現場	530	10.0%
住宅 (専用・共同・寮・寄宿舎)	477	9.0%
会社・オフィス	409	7.7%
デパート・スーパー・量販店	215	4.0%
一般小売・販売店	160	3.0%
市場・展示場・イベント会場	115	2.2%
小・中・高等・大学等	102	1.9%
その他	1,027	19.3%
合計	5,314	100.0%

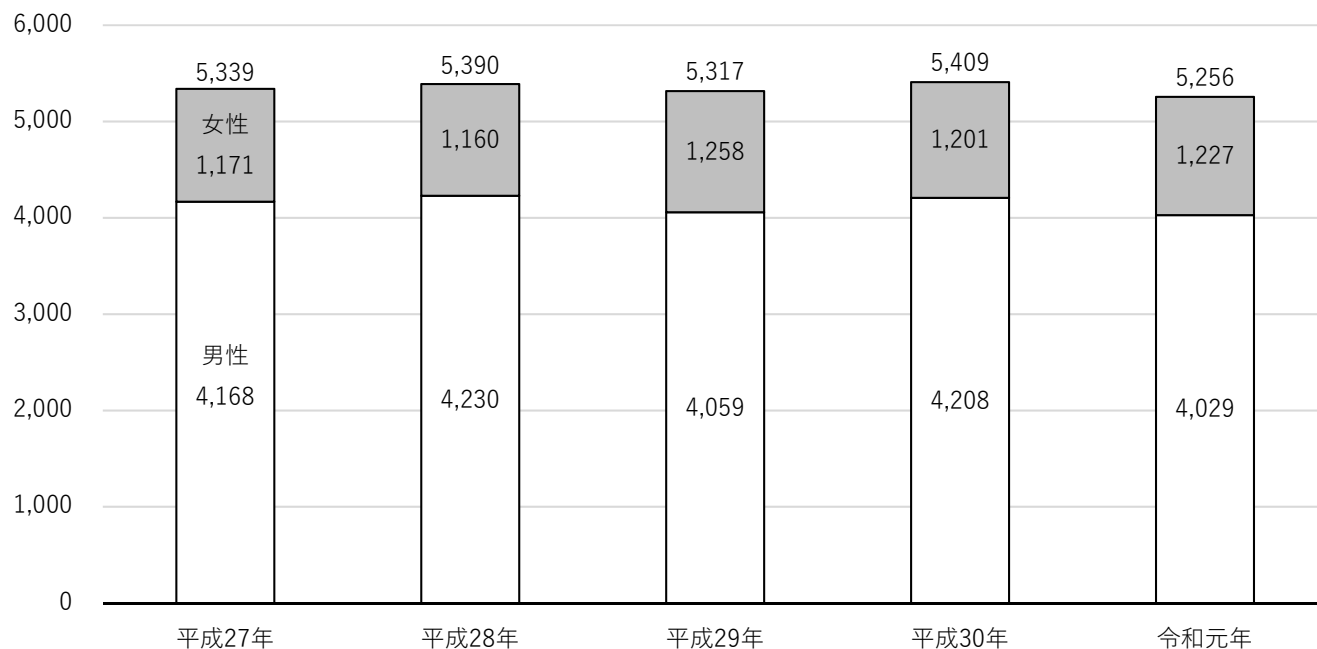
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

6 運動競技事故

(1) 搬送人員推移

運動競技事故（スポーツの実施者や関係者などで、スポーツに関連して受傷した事故）の搬送人員は5,256人で、前年に比べ153人(2.8%)減少しています。

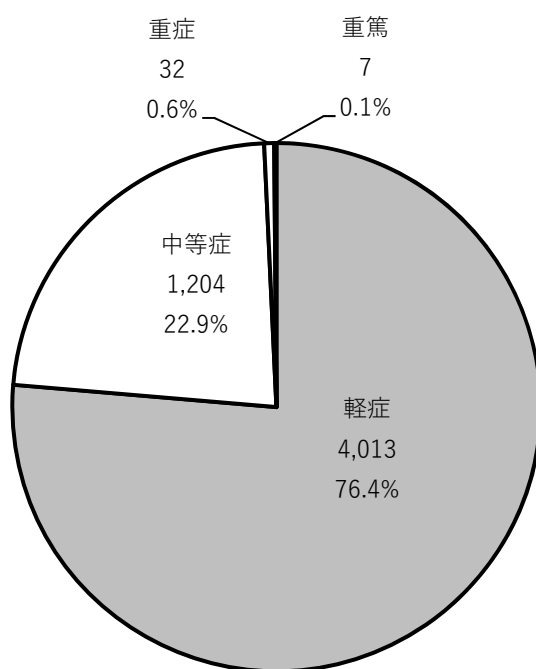
図表 2-4-26 運動競技事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

運動競技事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が76.4%を占めています。

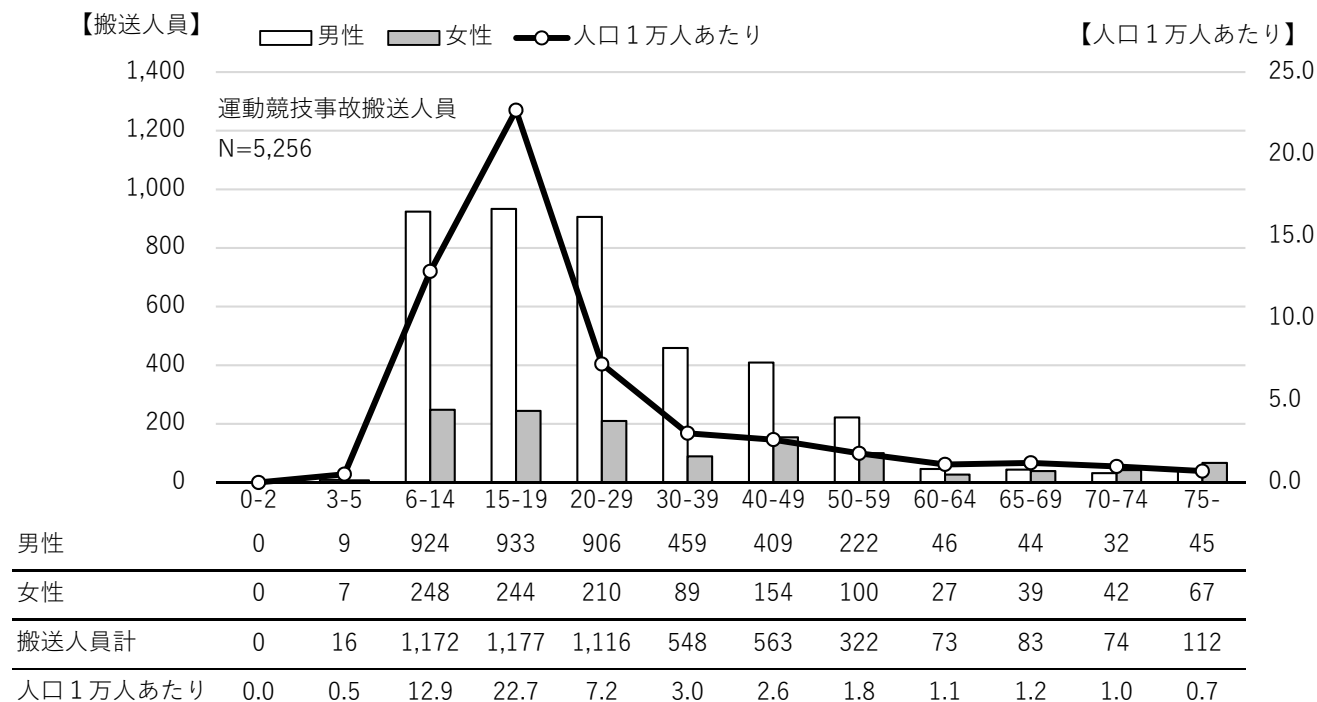
図表 2-4-27 運動競技事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

運動競技事故の搬送人員を年齢層別にみると、6歳以上30歳未満が高い割合を占めています。

図表 2-4-28 運動競技事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

運動競技事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、転倒による受傷が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-29 運動競技事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	1	81	116	161	124	132	83	15	15	12	7	747
	転倒	-	8	471	277	235	121	156	104	30	40	42	84	1,568
	転落・滑落	-	-	53	36	28	18	20	7	-	1	-	-	163
	墜落・飛び降り	-	-	9	8	10	8	7	3	-	-	1	-	46
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	16	24	45	17	11	9	-	1	1	-	124
	轢かれ・踏まれ	-	1	6	5	7	5	3	2	-	-	-	2	31
	衝突・ぶつかり	-	4	347	438	356	94	112	49	14	10	8	7	1,439
	殴打・蹴られ	-	-	19	32	51	28	12	6	2	-	2	1	153
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	4	6	14	10	6	2	-	-	-	-	42
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	埋没・圧迫・押しされ	-	-	2	6	7	8	1	1	-	2	-	-	27
	飛来物・落下物	-	-	51	68	38	12	11	10	3	5	4	1	203
	その他行動・作用	-	2	59	93	126	84	71	33	8	5	2	6	489
不明	-	-	3	2	1	3	5	2	1	-	-	1	18	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	3	1	4	2	2	-	-	-	-	12	
	鈍器物	-	-	1	5	1	-	1	-	-	-	-	8	
窒息・誤飲・異物	溺水・入水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
薬物服用・吸入・中毒	その他薬物・中毒	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
自然環境作用	高温環境	-	-	40	47	25	9	8	7	-	3	1	143	
	低温環境	-	-	-	1	1	4	1	1	-	-	-	8	
その他		-	-	7	9	6	1	4	3	-	1	-	31	

(5) 外傷形態

運動競技事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が37.6%を占めています。

図表 2-4-30 運動競技事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,978	37.6%
骨折	1,084	20.6%
脱臼・捻挫	876	16.7%
症状・徴候・診断名不明確	184	3.5%
開放創・離断	168	3.2%
内部・臓器損傷	61	1.2%
筋・骨格系疾患	55	1.0%
脊椎・髄損傷	39	0.7%
脳血管障害	13	0.2%
その他	798	15.2%
合計	5,256	100.0%

(6) 発生場所

運動競技事故の搬送人員を発生場所別で見ると、野球場・運動場・体育館が41.8%を占めています。

図表 2-4-31 運動競技事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
野球場・運動場・体育館	2,196	41.8%
小・中・高等・大学等	1,565	29.8%
スポーツクラブ・ジム等運動施設	687	13.1%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	183	3.5%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	152	2.9%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	123	2.3%
警察署・交番	55	1.0%
競馬・競輪・競艇場	30	0.6%
その他	265	5.0%
合計	5,256	100.0%

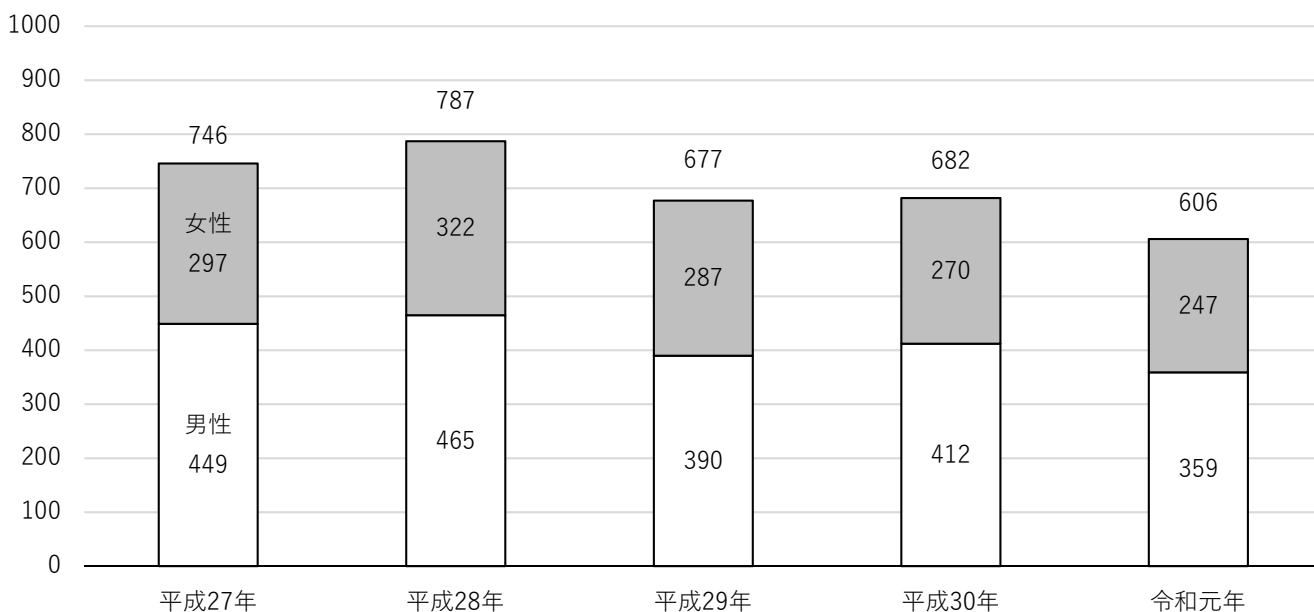
※「発生場所」が不明の場合、「接触場所」で集計しています。

7 火災事故

(1) 搬送人員推移

火災事故（消火活動、救助活動、避難行動中などに受傷した事故や、火災の発生が原因となった事故）の搬送人員は606人で、前年に比べ76人(11.1%)減少しています。

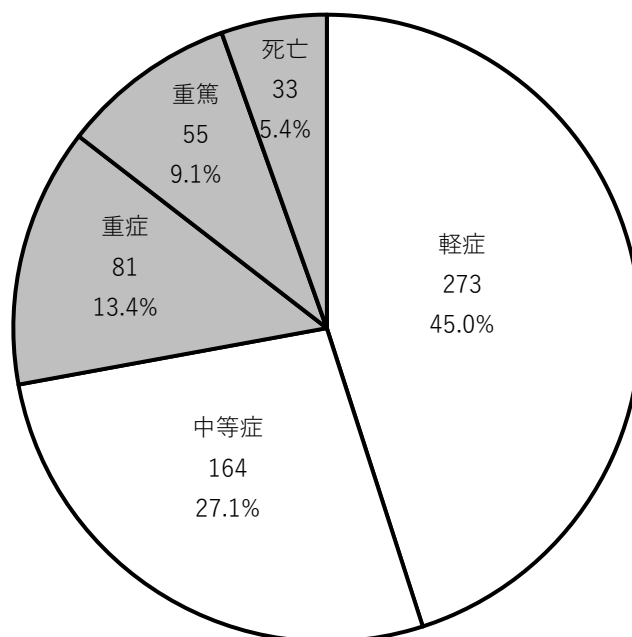
図表 2-4-32 火災事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

火災事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が27.9%占めています。

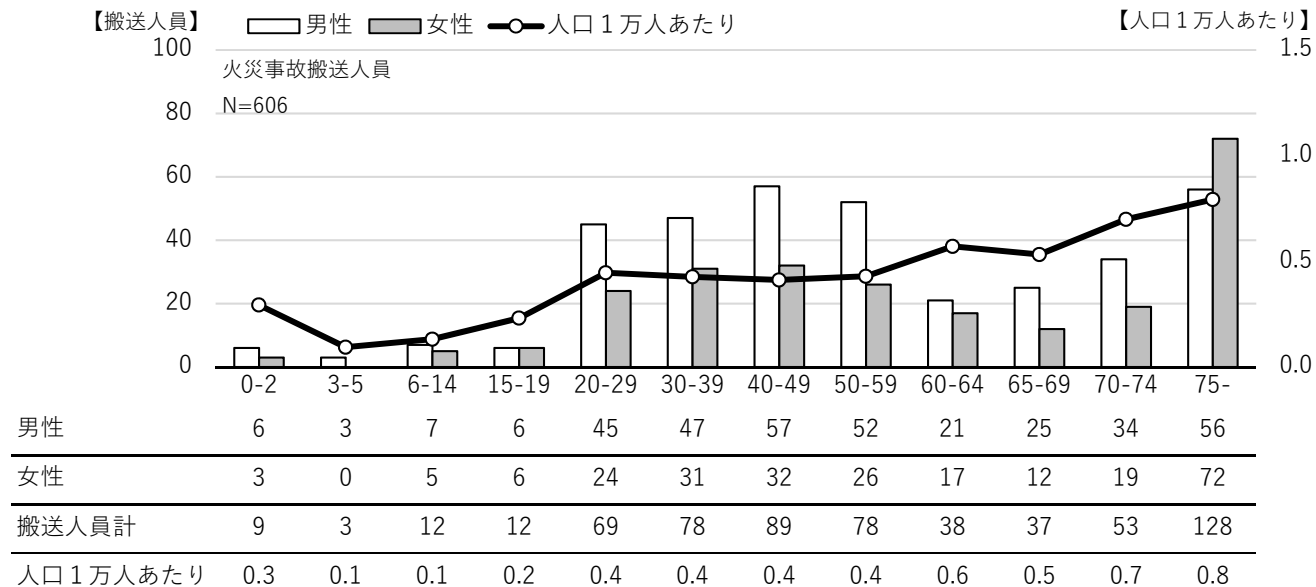
図表 2-4-33 火災事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

火災事故の搬送人員を年齢層別にみると75歳以上の女性が高い割合を占めています。

図表 2-4-34 火災事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

火災事故を事故発症時動作別にみると、高熱気体・燃焼物によるものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-35 火災事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層 (歳)	年齢層 (歳)												合計
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3
	転倒	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	3	6
	転落・滑落	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	2
	衝突・ぶつかり	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	4
	飛来物・落下物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	その他行動・作用	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	4
	不明	-	-	2	-	3	2	8	7	5	4	5	10	46
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	爆発・破裂物	1	-	-	1	3	1	7	-	1	1	-	1	16
	高熱固体・燃焼物	3	1	1	-	10	9	7	13	2	-	11	18	75
	高熱液体・燃焼物	-	-	1	1	4	7	4	3	2	1	2	4	29
	高熱気体・燃焼物	3	2	5	5	30	38	46	44	17	23	27	73	313
	有毒気体・燃焼物	1	-	2	3	4	9	6	4	4	5	3	6	47
	電流・感電	1	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-	-	5
	その他危険物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲 (気道)	-	-	-	-	3	1	-	1	2	-	-	-	7
	異物 (食道・消化器)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	その他窒息・異物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
薬物服用・吸入・中毒	その他医薬品	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	有機溶剤	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	日常生活用品	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	4
自然環境作用					1	1	1	-	-	-	-	4	7	
その他				1	6	4	3	2	3	1	2	4	26	

(5) 外傷形態

火災事故の搬送人員を初診時傷病名別にみると熱傷が54.3%を占めています。

図表 2-4-36 火災事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
熱傷Ⅱ度以下	329	54.3%
熱傷Ⅲ度以上	55	9.1%
症状・徴候・診断名不明確	43	7.1%
中毒	41	6.8%
打撲・血腫・挫傷	14	2.3%
呼吸器系疾患	6	1.0%
脱臼・捻挫	3	0.5%
窒息・異物誤飲	3	0.5%
開放創・離断	2	0.3%
その他	110	18.2%
合計	606	100.0%

(6) 発生場所

火災事故の搬送人員を発生場所別でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）が73.3%を占めています。

図表 2-4-37 火災事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	444	73.3%
一般飲食店	48	7.9%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	42	6.9%
工場・製造所・作業場	16	2.6%
会社・オフィス	8	1.3%
建築・工事現場	7	1.2%
小・中・高等・大学等	4	0.7%
空港	4	0.7%
駐車場・駐輪施設	4	0.7%
その他	29	4.8%
合計	606	100.0%

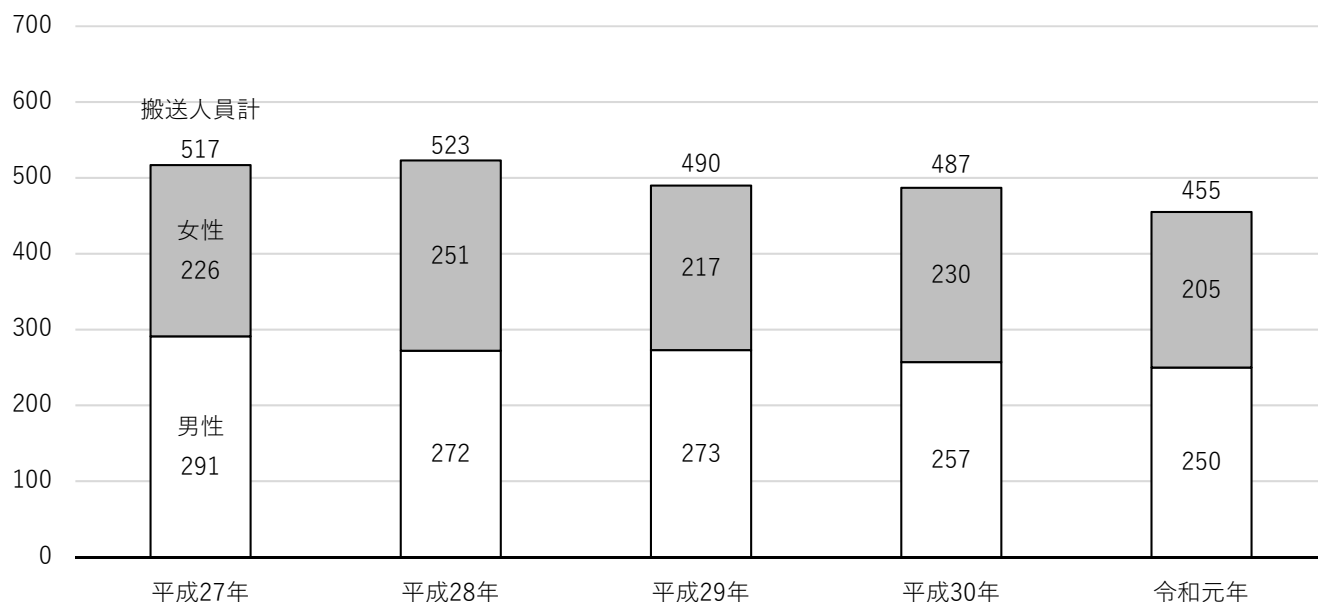
※「発生場所」が不明の場合、「接触場所」で集計しています。

8 水難事故

(1) 搬送人員推移

水難事故（海、河川・池、プールなどで水泳中に溺れたり、水中に転落して発生した溺水事故）の搬送人員は455人で、前年に比べ32人（6.6%）減少しています。

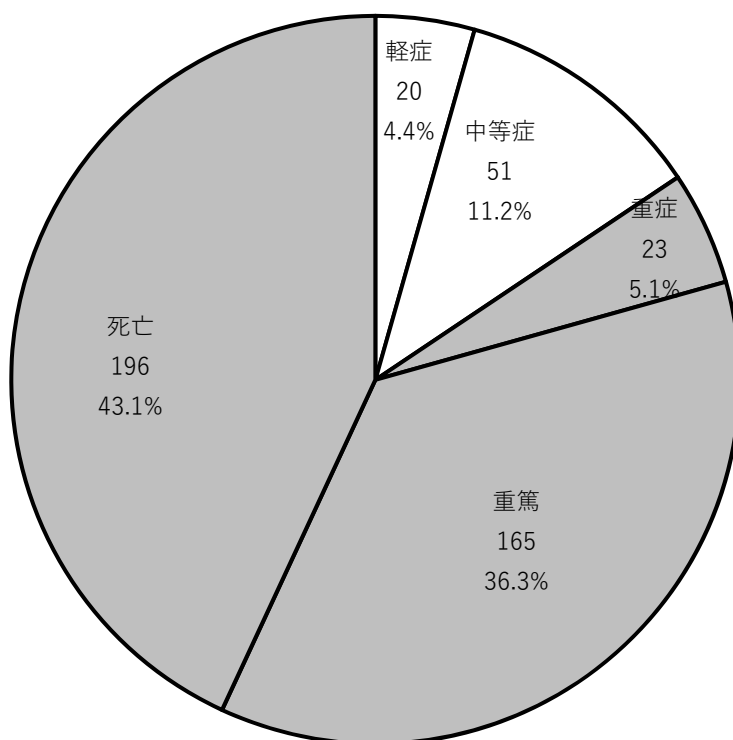
図表 2-4-38 水難事故の搬送人員の推移



(2) 初診時程度

水難事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が84.4%を占めています。

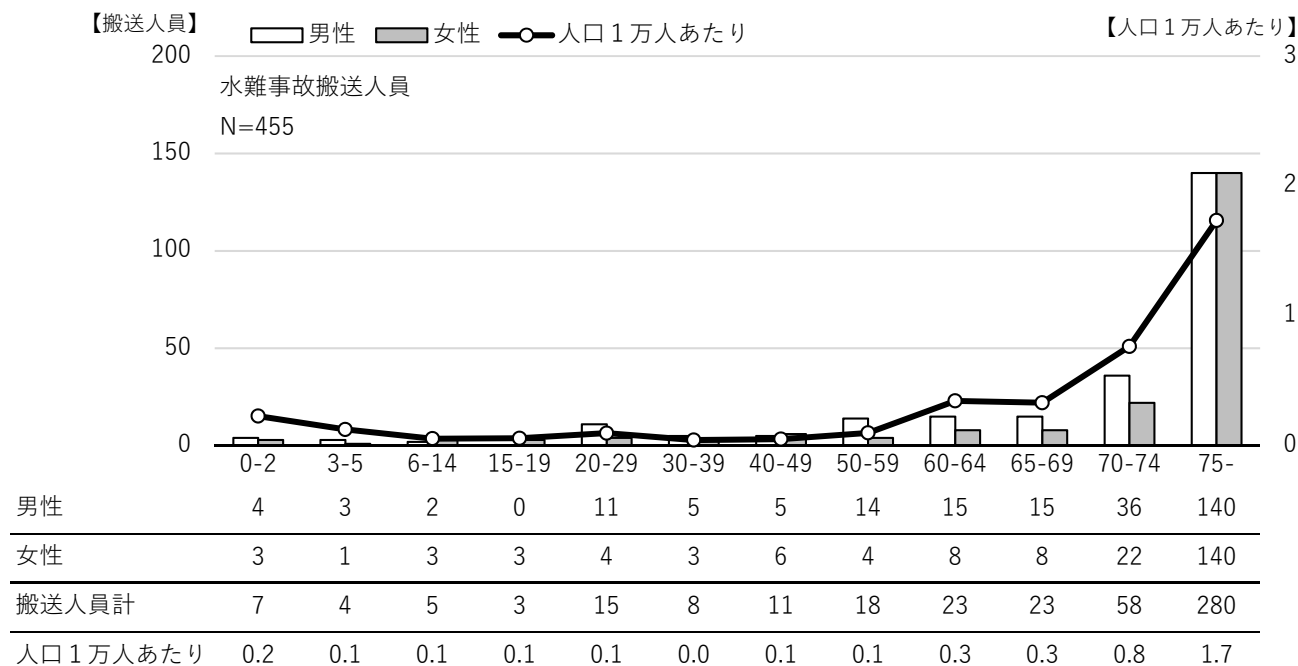
図表 2-4-39 水難事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

水難事故の搬送人員を年齢層別でみると75歳以上が半数以上を占めています。

図表 2-4-40 水難事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

水難事故の搬送人員を事故発症時動作別にみると、溺水・入水によるものが最も多くを占めています。

図表 2-4-41 水難事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)												合計
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	転倒	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	3
	転落・滑落	-	-	-	1	1	-	1	1	1	-	-	2	7
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	3	3	1	-	1	-	-	-	8
	その他行動・作用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	不明	-	-	-	-	-	1	1	3	2	2	5	11	25
危険物接触作用・環境暴露														
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
窒息・誤飲・異物														
	窒息・誤飲 (気道)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	溺水・入水	7	4	5	2	8	3	7	12	18	21	51	261	399
自然環境作用														
	高温環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	低温環境	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	4
	気圧変化 (潜水・高山)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	風水害	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
その他														
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

(5) 外傷形態

水難事故の搬送人員を初診時傷病名別にみると、症状・徴候・診断名不明確が45.5%を占めて居ます。

図表 2-4-42 水難事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	207	45.5%
窒息・異物誤飲	44	9.7%
心・循環器疾患	33	7.3%
その他	171	37.6%
合計	455	100.0%

(6) 発生場所

水難事故の搬送人員を発生場所別でみると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）が68.1%を占めています。

図表 2-4-43 水難事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	310	68.1%
河川・水路	61	13.4%
サウナ・銭湯（単独施設）	38	8.4%
健康ランド・スーパー銭湯	10	2.2%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	8	1.8%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	7	1.5%
高齢者施設・グループホーム等	4	0.9%
プール（単独施設）	3	0.7%
スポーツクラブ・ジム	3	0.7%
海	3	0.7%
その他	8	1.8%
合計	455	100.0%

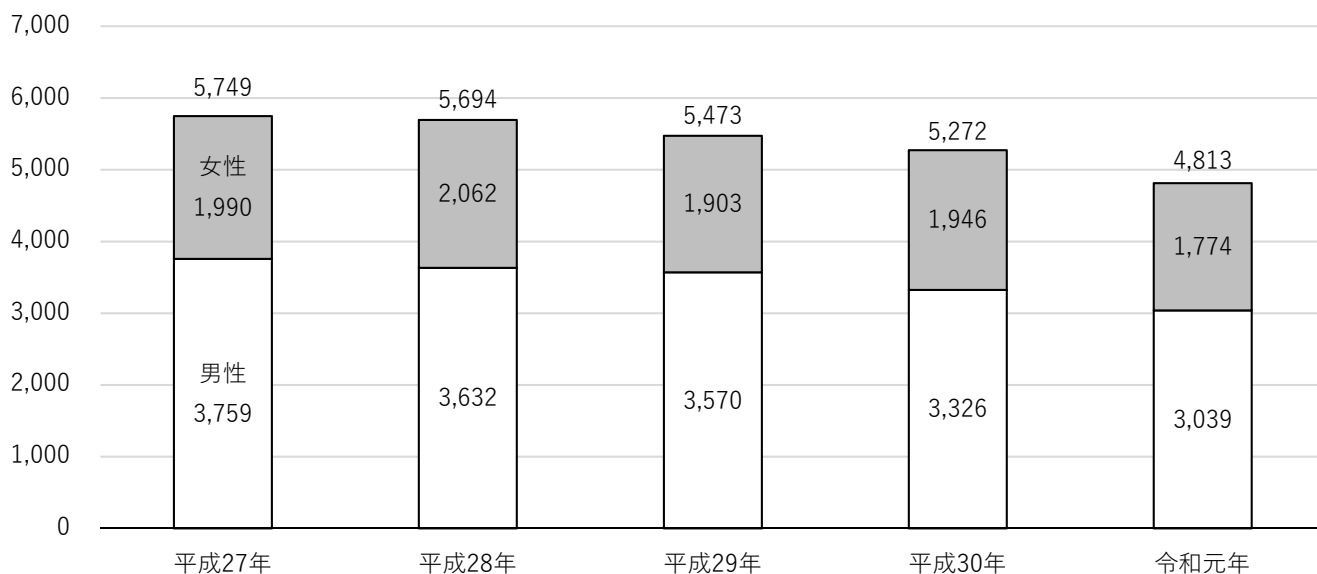
「発生場所」が不明の場合、「接触場所」で集計しています。

9 加害事故

(1) 搬送人員推移

加害事故（故意に他人によって傷害等を加えられた事故）の搬送人員は4,813人で、前年に比べ459人(8.7%)減少しています。

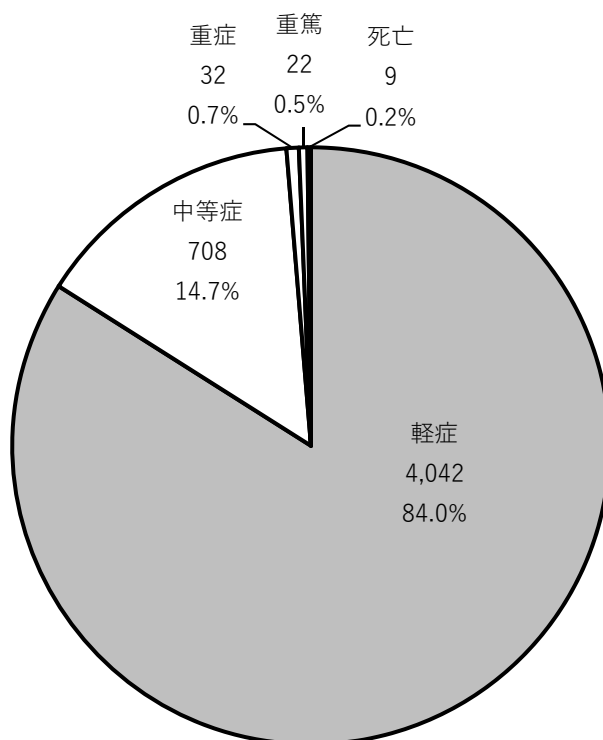
図表 2-4-44 加害事故の搬送人員の推移



(2) 初診時程度

加害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が84.0%を占めています。

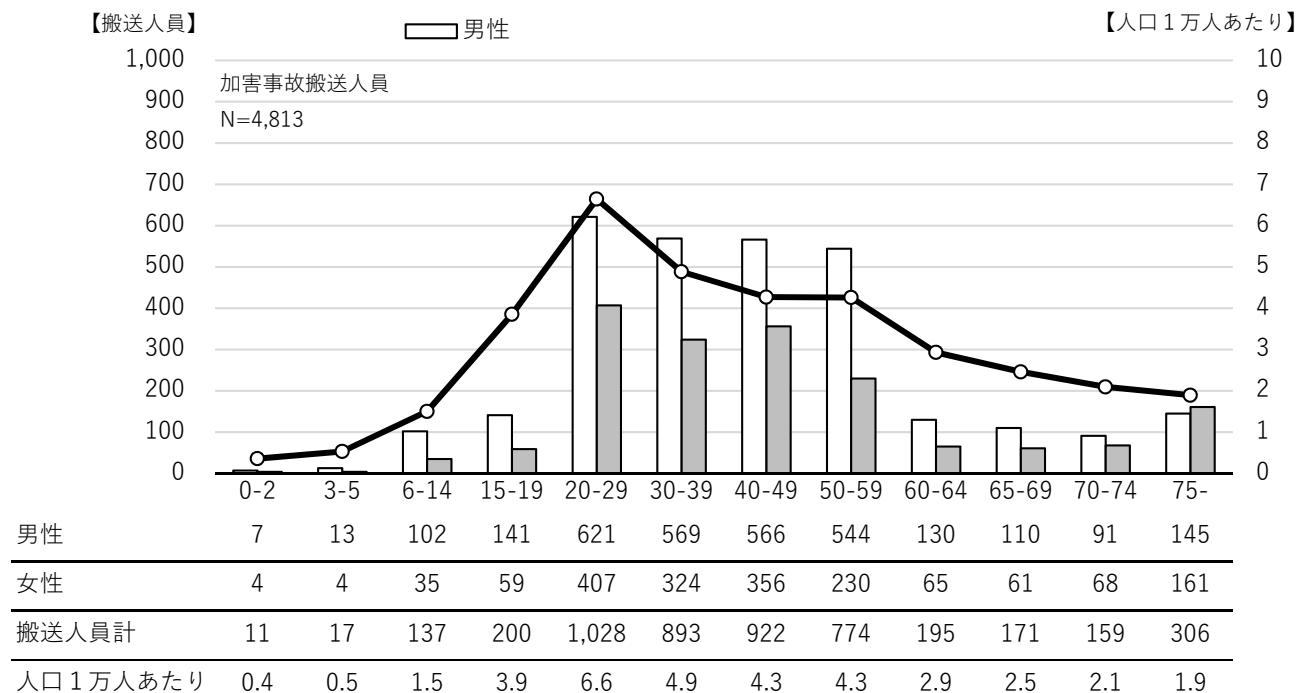
図表 2-4-45 加害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

加害事故の搬送人員を年齢層別でみると20歳代が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-46 加害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

加害事故の搬送人員を事故発症動作別でみると、殴打・蹴られが67.2%を占めています。

図表 2-4-47 加害事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)												合計
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	1	2	2	1	-	-	1	2	9
	転倒	-	-	7	7	22	38	29	55	19	14	18	41	250
	転落・滑落	-	-	-	-	5	6	8	4	3	1	1	3	31
	墜落・飛び降り	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	2	1	6	4	11	9	2	2	-	-	37
	轢かれ・踏まれ	-	-	1	3	6	7	6	4	2	-	-	-	29
	衝突・ぶつかり	-	2	13	8	64	48	68	61	18	18	13	30	343
	殴打・蹴られ	5	12	78	148	768	640	630	492	111	96	91	165	3,236
	ひきずられ・引っ張られ	1	-	4	4	27	26	33	28	3	5	5	7	143
	噛まれ・引っ掻き	-	-	4	1	20	16	13	11	7	3	2	8	85
	埋没・圧迫・押され	2	-	3	3	16	31	31	36	14	11	9	16	172
	飛来物・落下物	-	1	5	4	10	8	18	12	2	3	4	11	78
その他行動・作用	-	-	7	2	22	14	22	16	1	3	5	7	99	
不明	-	-	3	2	11	13	8	9	4	3	3	6	62	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	1	5	10	35	23	29	23	4	9	5	5	149
	鈍器物	-	1	3	-	2	6	7	3	2	2	1	2	29
	銃器・武器	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	-	2	3	1	-	-	-	-	6
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	3
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	その他危険物	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	4
	窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	1	-	1	5	4	3	2	4	-	-	1	1
窒息・誤飲(気道)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
異物(感覚器官)		-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
薬物服用・吸入・中毒	その他医薬品	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	有機溶剤	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	日常生活用品	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	6
その他	1	-	-	-	2	1	-	1	1	-	-	-	6	

(5) 外傷形態

加害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が75.9%を占めています。

図表 2-4-48 加害事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	3,651	75.9%
開放創・離断	316	6.6%
骨折	176	3.7%
脱臼・捻挫	95	2.0%
症状・徴候・診断名不明確	56	1.2%
内部・臓器損傷	12	0.2%
精神系疾患	10	0.2%
熱傷Ⅱ度以下	8	0.2%
窒息・異物誤飲	7	0.1%
その他	482	10.0%
合計	4,813	100.0%

(6) 発生場所

加害事故の搬送人員を発生場所別で見ると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）が31.6%を占めています。

図表 2-4-49 加害事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	1,523	31.6%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	1,465	30.4%
警察署・交番	557	11.6%
駅	373	7.7%
一般飲食店	329	6.8%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	63	1.3%
コンビニエンスストア	57	1.2%
小・中・高等・大学等	48	1.0%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	40	0.8%
その他	358	7.4%
合計	4,813	100.0%

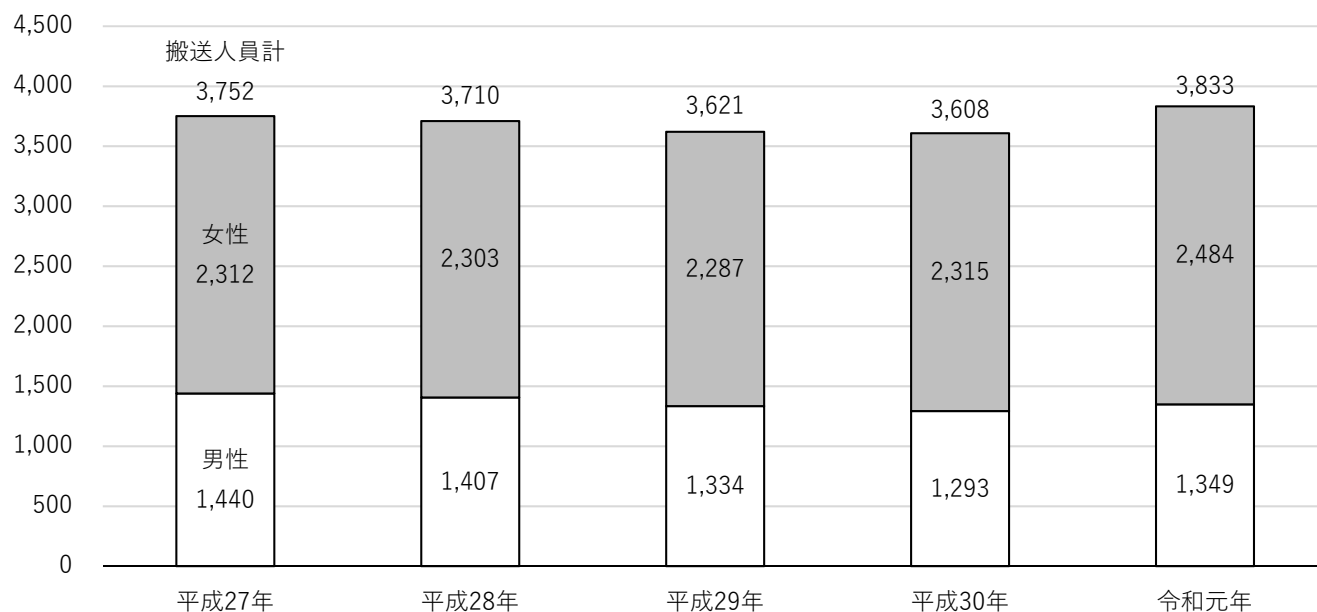
※「発生場所」が不明の場合、「接触場所」で集計しています。

10 自損行為

(1) 搬送人員推移

自損行為（故意に自分自身に傷害を加えた事故）の搬送人員は3,833人で、前年に比べ225人（6.2%）増加しています。また、自損行為は他の事故に比べ男性より女性の割合が多くなっています。

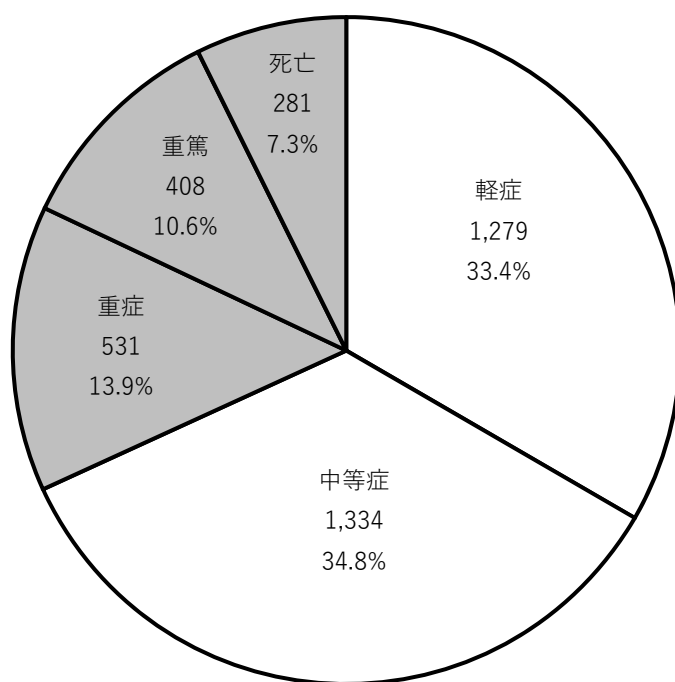
図表 2-4-50 自損行為の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自損行為の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が31.8%を占めています。

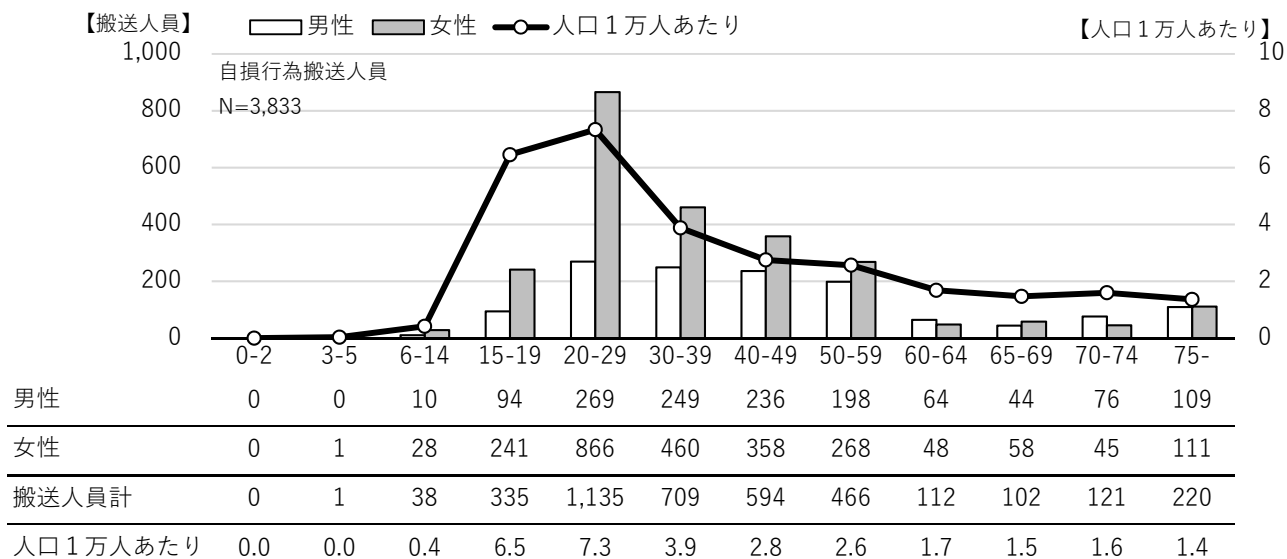
図表 2-4-51 自損行為の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自損行為の搬送人員を年齢層別でみると20歳代の女性が高い割合を占めています。

図表 2-4-52 自損行為の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自損行為の搬送人員を事故発症時動作別でみると、薬物服用・吸入・中毒が高い割合を占めています。

図表 2-4-53 自損行為の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層 (歳)											合計		
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	4
	転倒	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	3
	転落・滑落	-	-	2	2	25	12	10	7	6	2	4	2	72
	墜落・飛び降り	-	-	5	27	59	45	39	35	12	3	17	12	254
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	轢かれ・踏まれ	-	-	-	2	5	4	1	1	-	-	-	-	13
	衝突・ぶつかり	-	-	-	2	8	9	5	4	3	-	-	-	31
	殴打・蹴られ	-	-	-	-	3	3	1	1	-	-	1	1	10
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	1	5	1	1	-	-	-	-	2	10
	その他行動・作用	-	-	1	4	9	6	5	2	1	1	1	3	33
不明	-	-	1	2	9	5	7	-	4	1	1	3	33	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	7	66	253	150	153	132	28	36	27	59	911
	鈍器物	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	3
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	有毒気体・燃焼物	-	1	1	4	14	8	5	4	-	-	-	2	39
	電流・感電	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	3
	その他危険物	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	2
	窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	2	35	98	111	75	89	25	28	38	78
窒息・誤飲 (気道)		-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	4
溺水・入水		-	-	-	4	2	2	1	2	3	-	4	3	21
異物 (食道・消化器)		-	-	-	-	2	-	2	1	-	-	1	1	7
その他窒息・異物		-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	4
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	-	-	10	105	425	256	204	131	17	17	21	43	1229
	その他医薬品	-	-	7	63	155	66	61	32	6	9	2	2	403
	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	3	11	9	9	12	2	1	1	5	53
	有機溶剤	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	-	-	3	3	-	1	1	2	10
	日常生活用品	-	-	-	3	8	7	2	1	1	1	-	-	23
	自然毒・食中毒	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	3
	その他薬物・中毒	-	-	2	7	26	11	7	5	2	-	-	1	61
	自然環境作用	低温環境	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
その他		-	-	-	-	5	1	-	1	-	-	-	-	7

(5) 外傷形態

自損行為の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、中毒が37.3%を占めています。

図表 2-4-54 自損行為の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
中毒	1,430	37.3%
開放創・離断	636	16.6%
症状・徴候・診断名不明確	324	8.5%
打撲・血腫・挫傷	255	6.7%
窒息・異物誤飲	161	4.2%
精神系疾患	99	2.6%
骨折	64	1.7%
心・循環器疾患	26	0.7%
内部・臓器損傷	21	0.5%
その他	817	21.3%
合計	3,833	100.0%

(6) 発生場所

自損事故の搬送人員を発生場所別で見ると、住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）が80.3%を占めています。

図表 2-4-55 自損行為の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	3,078	80.3%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	218	5.7%
警察署・交番	80	2.1%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	57	1.5%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	54	1.4%
駅	52	1.4%
河川・水路	46	1.2%
会社・オフィス	22	0.6%
小・中・高等・大学等	22	0.6%
駐車場・駐輪施設	19	0.5%
その他	185	4.8%
合計	3,833	100.0%

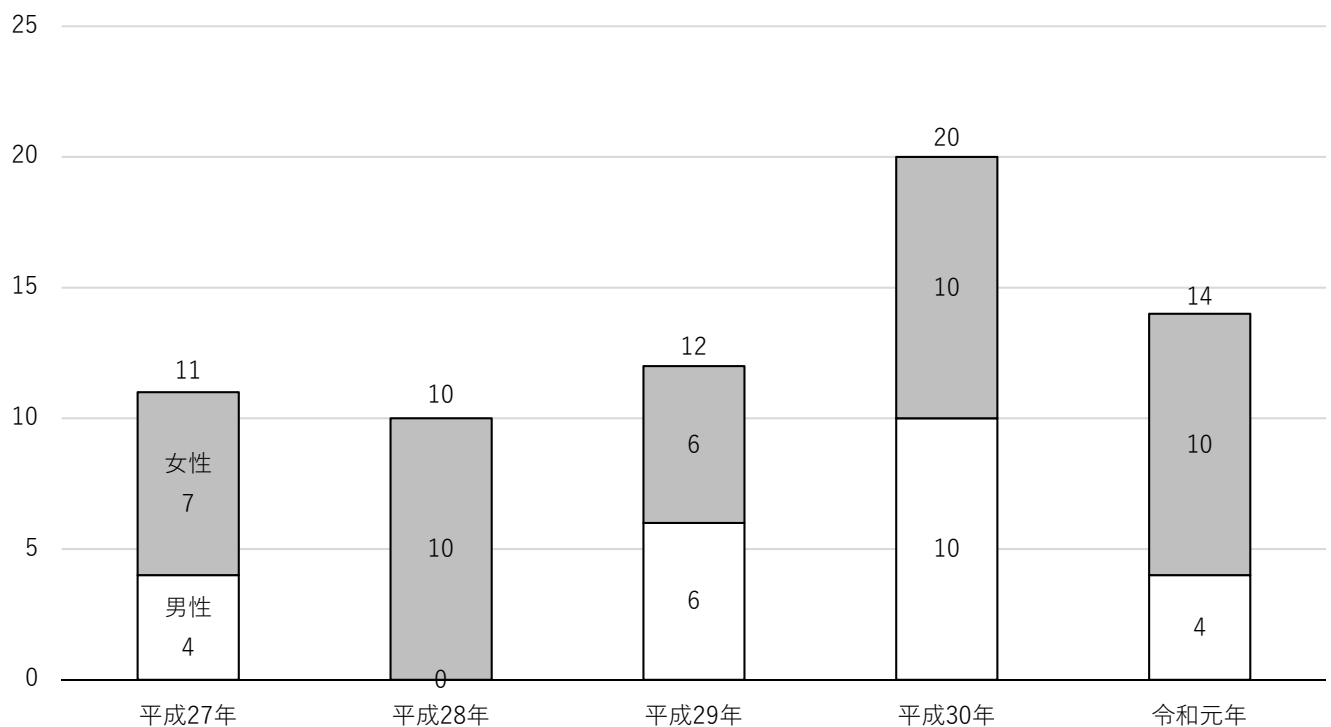
※「発生場所」が不明の場合、「接触場所」で集計しています。

11 自然災害事故

(1) 搬送人員推移

自然災害事故（自然現象に起因する災害による事故）の搬送人員は14人で、前年に比べ6人（30.0%）減少しています。

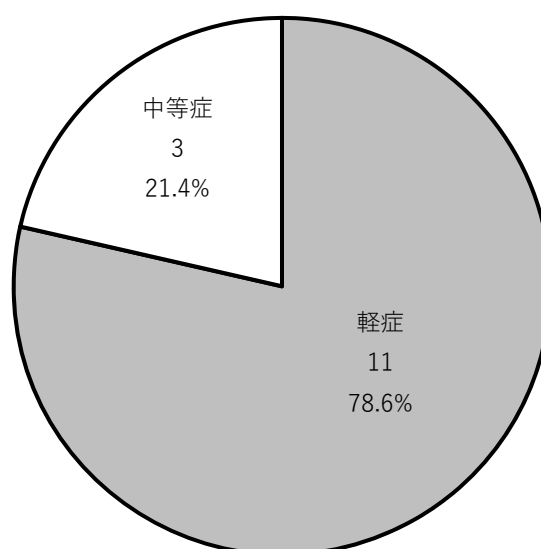
図表 2-4-56 自然災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自然災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が約78.6%を占めています。

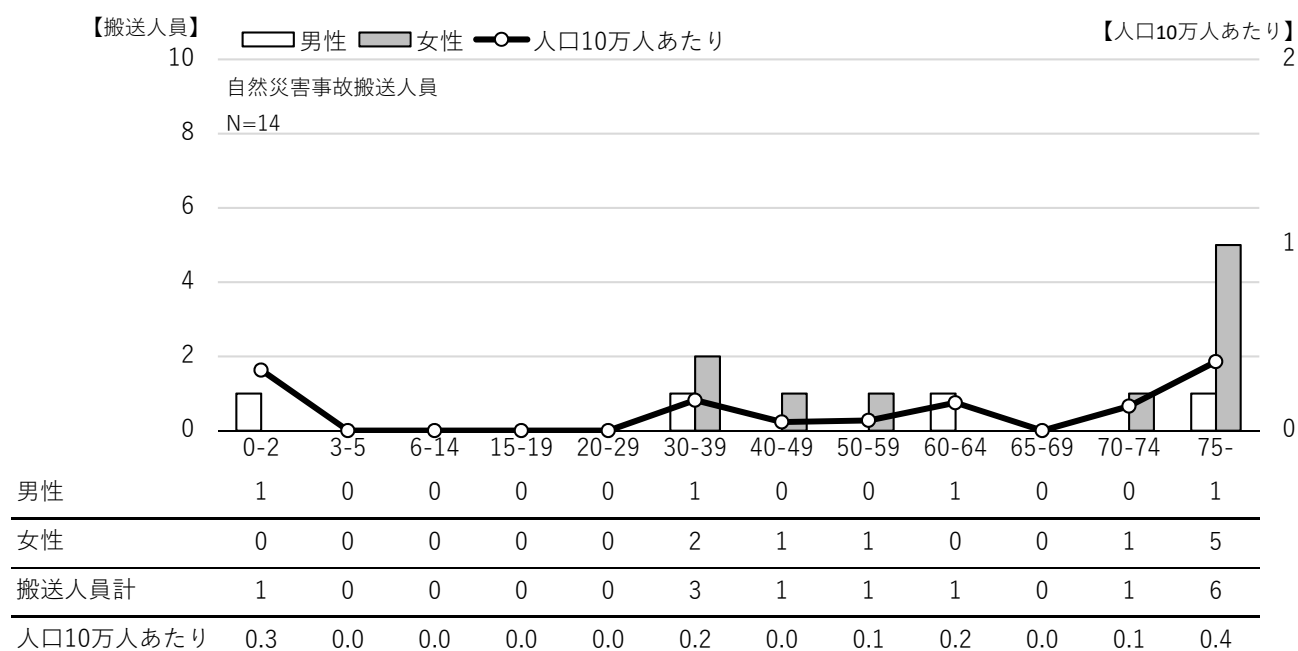
図表 2-4-57 自然災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自然災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると75歳以上が高い割合を占めています。

図表 2-4-58 自然災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自然災害事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、転倒が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-59 自然災害事故の事故発症時動作別搬送人員

発症時動作	年齢層 (歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	転倒	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	1	4
	衝突・ぶつかり	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
	飛来物・落下物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
窒息・誤飲・異物	-												1	
自然環境作用	-												5	

(5) 外傷形態

自然災害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、打撲・血腫・挫傷が85.7%を占めています。

図表 2-4-60 自然災害事故の初診時傷病名別搬送人員

初診時傷病名	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	12	85.7%
開放創・離断	1	7.1%
症状・徴候・診断名不明確	1	7.1%
合計	14	100.0%

(6) 発生場所

自然災害事故の搬送人員を発生場所別で見ると、一般道（公道・私道・施設内道路）が42.9%を占めています。

図表 2-4-61 自然災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	6	42.9%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	4	28.6%
会社・オフィス	2	14.3%
駅	1	7.1%
河川・水路	1	7.1%
合計	14	100.0%

※「発生場所」が不明の場合、「接触場所」で集計しています。

12 転院搬送・転送

(1) 「転院搬送」と「転送」の違い

「転院搬送」とは、医療機関からの要請に応じて、当該医療機関の管理下にある傷病者（外来受診又は入院中の患者等）を、医療上の理由により他の医療機関へ搬送するために救急隊が出場するものです。

「転送」とは、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、一旦医師に引継いだ後、当該救急隊が医療機関を引き揚げる前に、当該医療機関の事情等により、引き続き同一救急隊により他の医療機関に搬送するものです。転送の場合、事故種別はその救急事故の主たる事故種別（急病等）に区分し、統計上は出場件数1件、搬送人員1名として処理します。

(2) 搬送人員

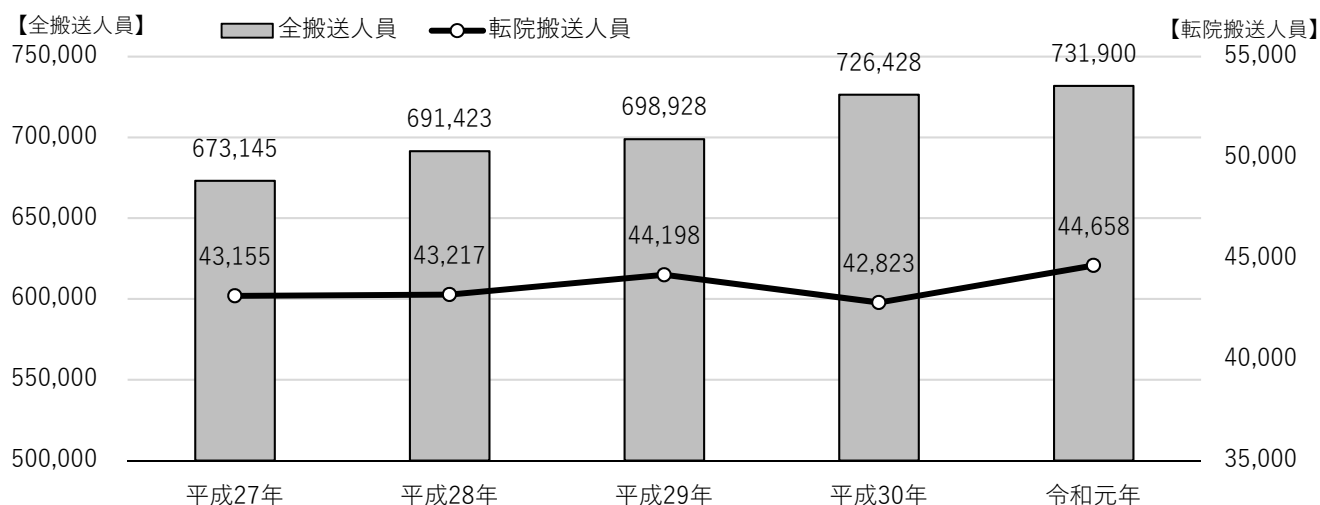
ア 転院搬送推移

転院搬送人員数は、全搬送人員に対して約6%の比率を推移しています。

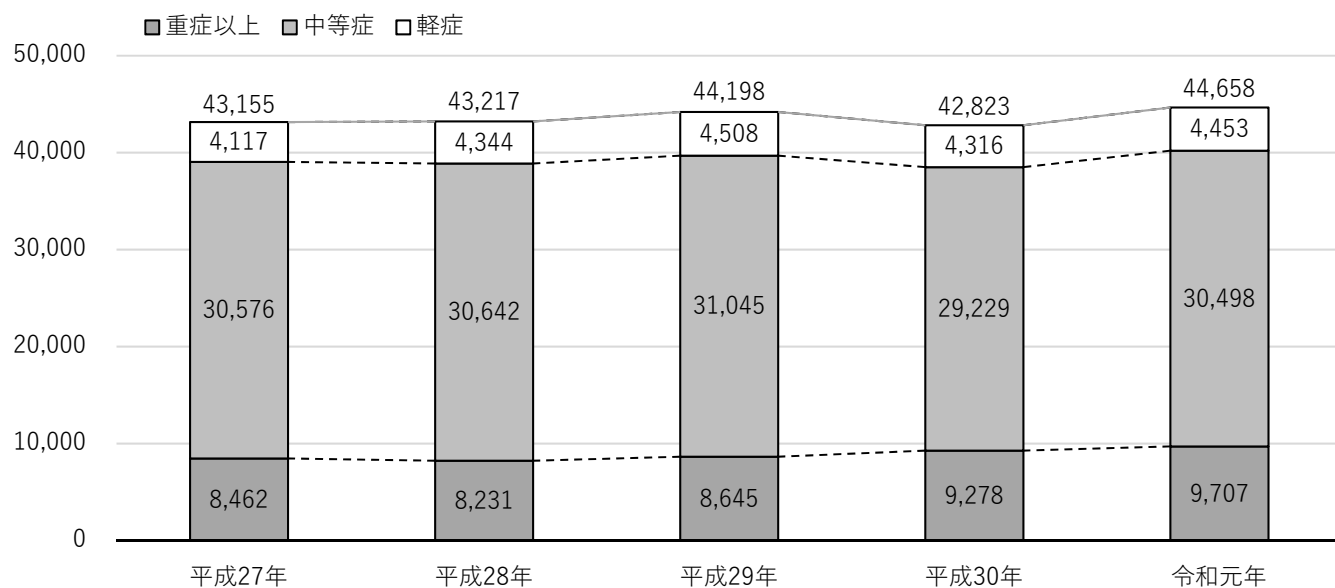
図表 2-4-62 転院搬送人員の対前年比・性別・初診時程度別推移

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全搬送人員		673,145	691,423	698,928	726,428	731,900
転院搬送人員		43,155	43,217	44,198	42,823	44,658
全搬送人員に対する比率		6.4%	6.3%	6.3%	5.9%	6.1%
対前年比		1,364	62	981	-1,375	1,835
		3.3%	0.1%	2.3%	-3.1%	4.3%
性別	男性	22,918	22,898	22,351	22,699	23,766
	女性	20,237	20,319	20,847	20,124	20,892
初診時程度 構成比 (%)	重症以上	8,462	8,231	8,645	9,278	9,707
		19.6%	19.0%	19.6%	21.7%	21.7%
	中等症	30,576	30,642	31,045	29,229	30,498
		70.9%	70.9%	70.2%	68.3%	68.3%
	軽症	4,117	4,344	4,508	4,316	4,453
		9.5%	10.1%	10.2%	10.1%	10.0%

図表 2-4-63 全搬送人員と転院搬送人員の推移



図表 2-4-64 転院搬送の初診時程度別推移



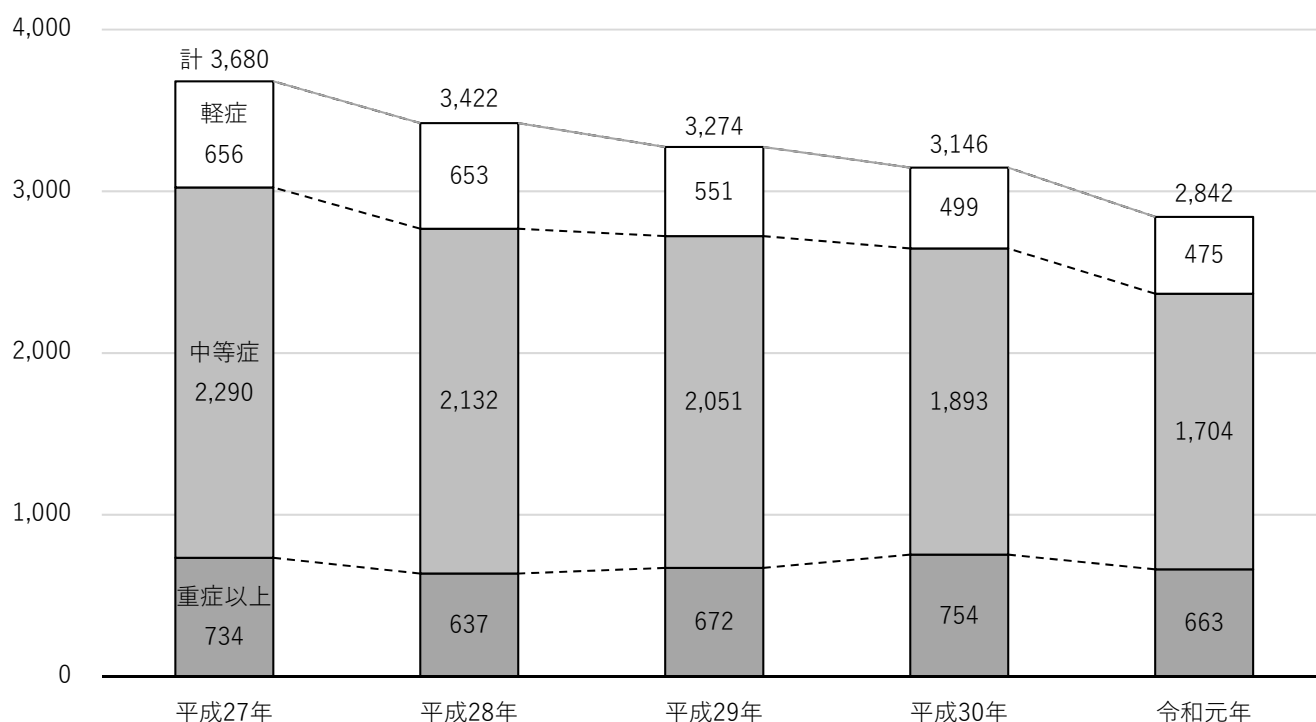
イ 転送推移

転送事案は全搬送人員に対して1%未満の比率を推移しています。

図表 2-4-65 転送人員の対前年比・転送回数・初診時程度別推移

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全搬送人員		673,145	691,423	698,928	726,428	731,900
全転送人員		3,680	3,422	3,274	3,146	2,842
全搬送人員に対する比率		0.5%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%
対前年比		-406	-258	-148	-128	-304
		-2.9%	-7.0%	-4.3%	-3.9%	-9.7%
転送回数	1回	3,649	3,402	3,264	3,134	2,826
	2回	30	20	10	12	16
	3回以上	1	-	-	-	-
初診時程度 構成比(%)	重症以上	734	637	672	754	663
		19.9%	18.6%	20.5%	24.0%	23.3%
	中等症	2,290	2,132	2,051	1,893	1,704
		62.2%	62.3%	62.6%	60.2%	60.0%
	軽症	656	653	551	499	475
		17.8%	19.1%	16.8%	15.9%	16.7%

図表 2-4-66 転送人員の初診時程度別推移



(3) 転院搬送及び転送の理由

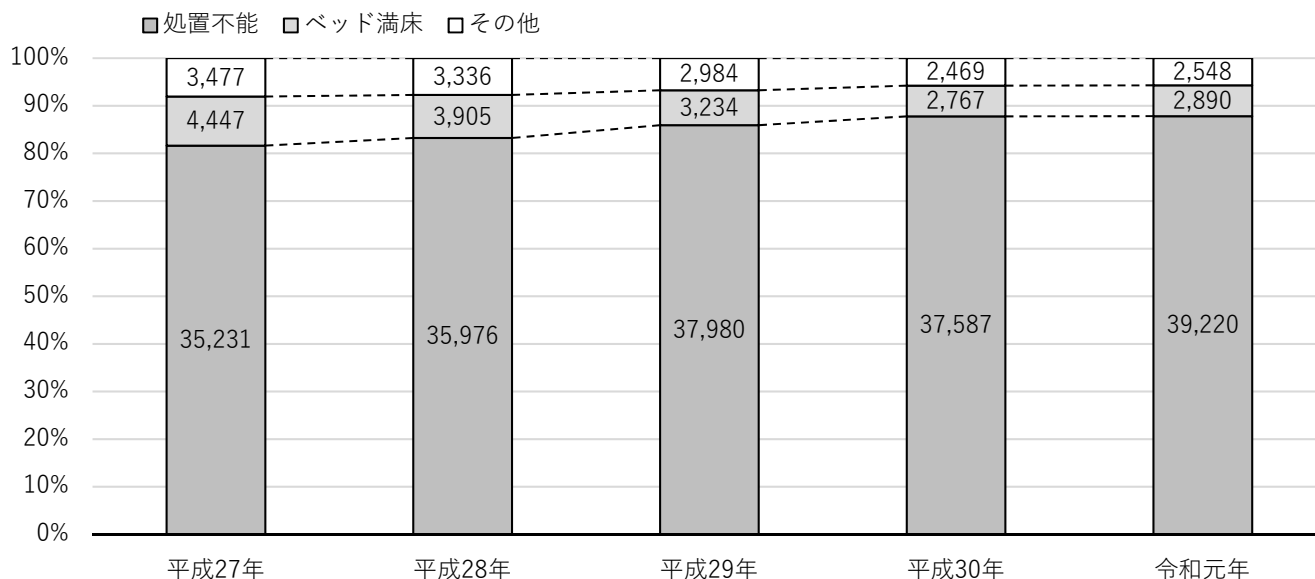
ア 転院搬送

転院搬送要請の理由のうち「処置不能」によるものが毎年8割以上を占めています。

図表 2-4-67 主な転院搬送要請理由別の搬送人員及び対前年比

	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転院搬送人員	43,155	3.3%	43,217	0.1%	44,198	2.3%	42,823	-3.1%	44,658	4.3%	
ベッド満床	搬送人員	4,447	-0.9%	3,905	-12.2%	3,234	-17.2%	2,767	-14.4%	2,890	4.4%
	構成比	10.3%	-0.4%	9.0%	-1.3%	7.3%	-1.7%	6.5%	-0.8%	6.5%	0.0%
処置不能	搬送人員	35,231	4.2%	35,976	2.1%	37,980	5.6%	37,587	-1.0%	39,220	4.3%
	構成比	81.6%	0.7%	83.2%	1.6%	85.9%	2.7%	87.8%	1.9%	87.8%	0.1%
その他	搬送人員	3,477	-0.4%	3,336	-4.1%	2,984	-10.6%	2,469	-17.3%	2,548	3.2%
	構成比	8.1%	-0.3%	7.7%	-0.4%	6.8%	-0.9%	5.8%	-1.0%	5.7%	-0.1%

図表 2-4-68 主な転院搬送要請理由別搬送人員の推移



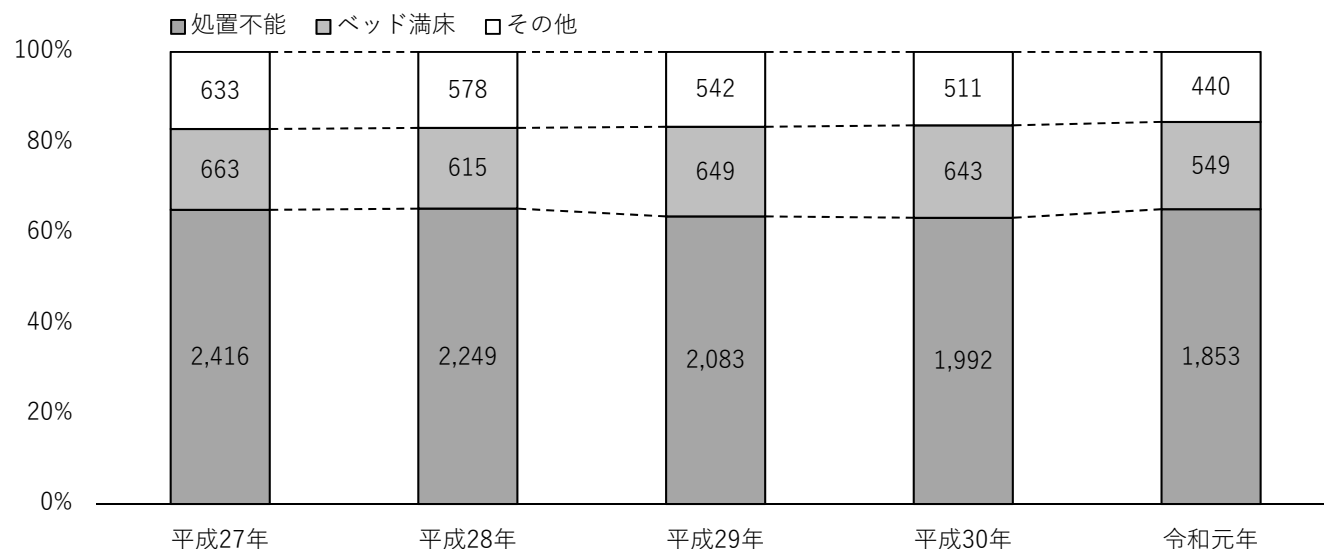
イ 転送

転送の理由のうち「処置不能」によるものが毎年6割以上を占めています。

図表 2-4-69 主な転送理由別の転送回数及び対前年比の推移

	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		
	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	
全転送回数	3,712	-1.4%	3,442	-7.3%	3,274	-4.9%	3,146	-3.9%	2,842	-9.7%	
処置不能	転送回数	2,416	4.1%	2,249	-6.9%	2,083	-7.4%	1,992	-4.4%	1,853	-7.0%
	構成比	65.1%	3.5%	65.3%	0.3%	63.6%	-1.7%	63.3%	-0.3%	65.2%	1.9%
ベッド満床	転送回数	663	-20.6%	615	-7.2%	649	5.5%	643	-0.9%	549	-14.6%
	構成比	17.9%	-4.7%	17.9%	0.0%	19.8%	2.0%	20.4%	0.6%	19.3%	-1.1%
医療機関個別事情	転送回数	51	0.0%	52	2.0%	43	-17%	39	-9.3%	29	-25.6%
	構成比	1.4%	0.0%	1.5%	0.1%	1.3%	-0.2%	1.2%	-0.1%	1.0%	-0.2%
医師他院搬送指示	転送回数	506	9.3%	464	-8.3%	453	-2.4%	425	-6.2%	378	-11.1%
	構成比	13.6%	1.1%	13.5%	-0.2%	13.8%	0.4%	13.5%	-0.3%	13.3%	-0.2%
傷病者個別事情	転送回数	49	-1.4%	38	-22.4%	28	-26.3%	37	32.1%	21	-43.2%
	構成比	1.3%	0.0%	1.1%	-0.2%	0.9%	-0.2%	1.2%	0.3%	0.7%	-0.4%
その他	転送回数	27	7.7%	24	-11.1%	18	-25.0%	10	-44.4%	12	20.0%
	構成比	0.7%	0.1%	0.7%	0.0%	0.5%	-0.1%	0.3%	-0.2%	0.4%	0.1%

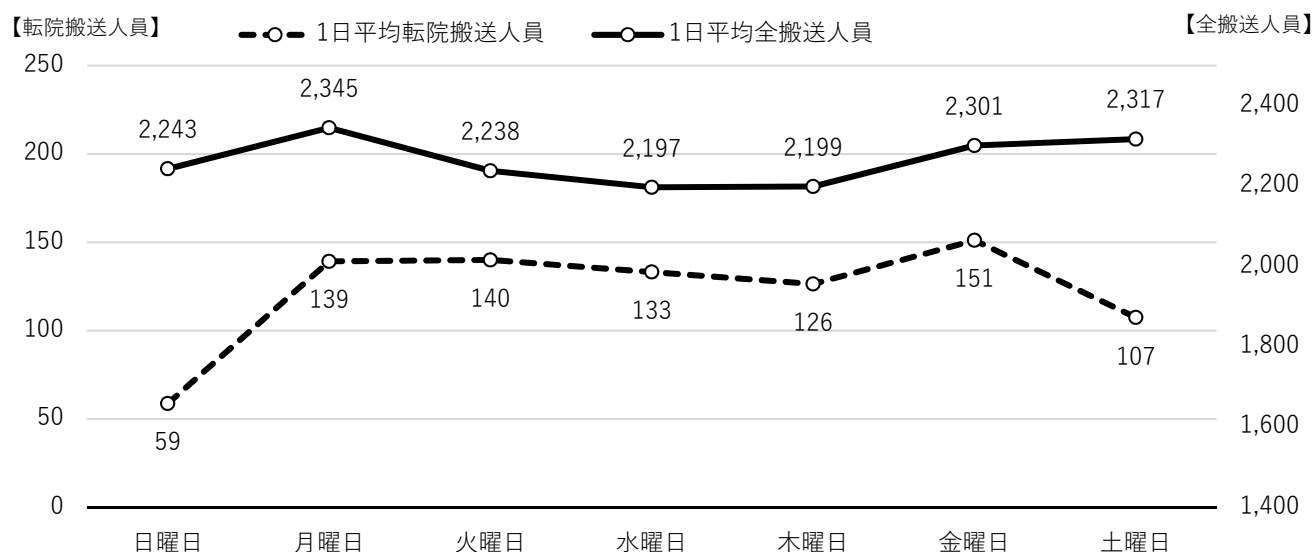
図表 2-4-70 主な転送理由別搬送人員の推移



(4) 曜日別

転院搬送は土曜日、日曜日に要請が少ない傾向となっており、特に日曜日は平日の半数以下となっています。

図表 2-4-71 曜日別 1日平均転院搬送人員

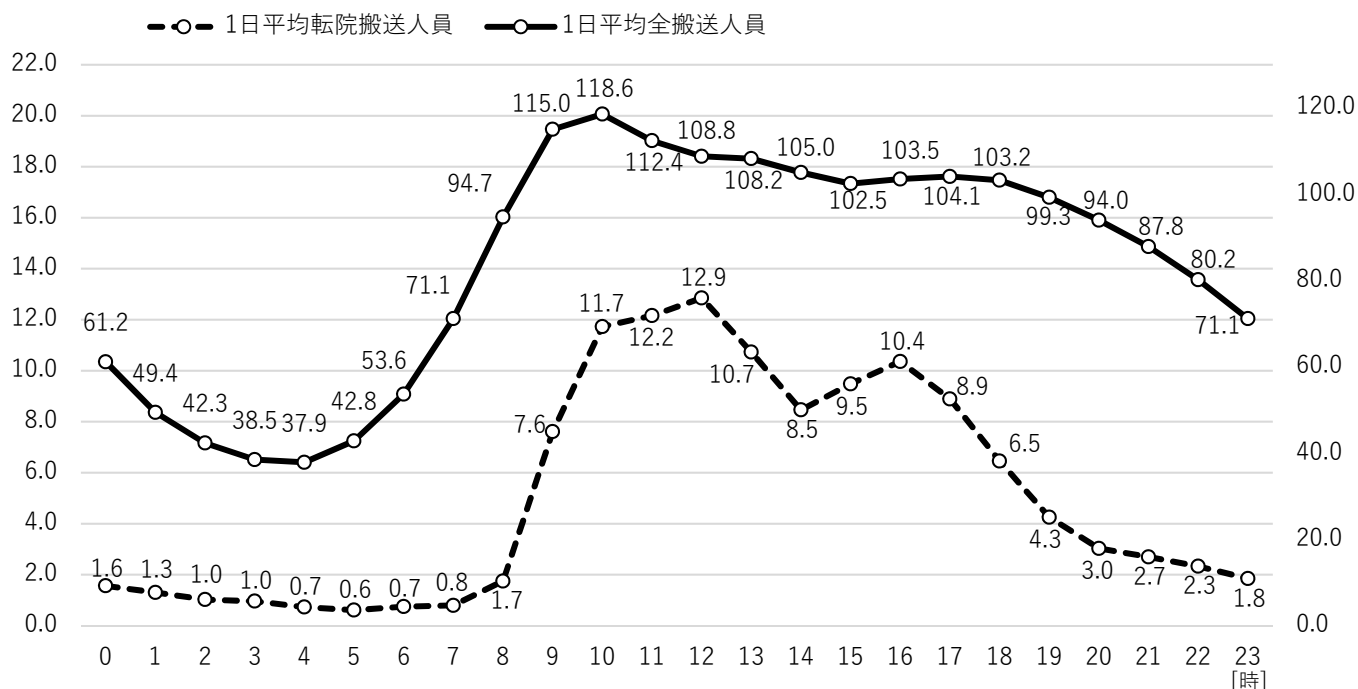


(5) 時間帯別

ア 総数

転院搬送は、10時から13時をピークとして、医療機関の通常の診療時間帯に搬送人員が多いことがわかります。

図表 2-4-72 時間帯別 1日平均転院搬送人員

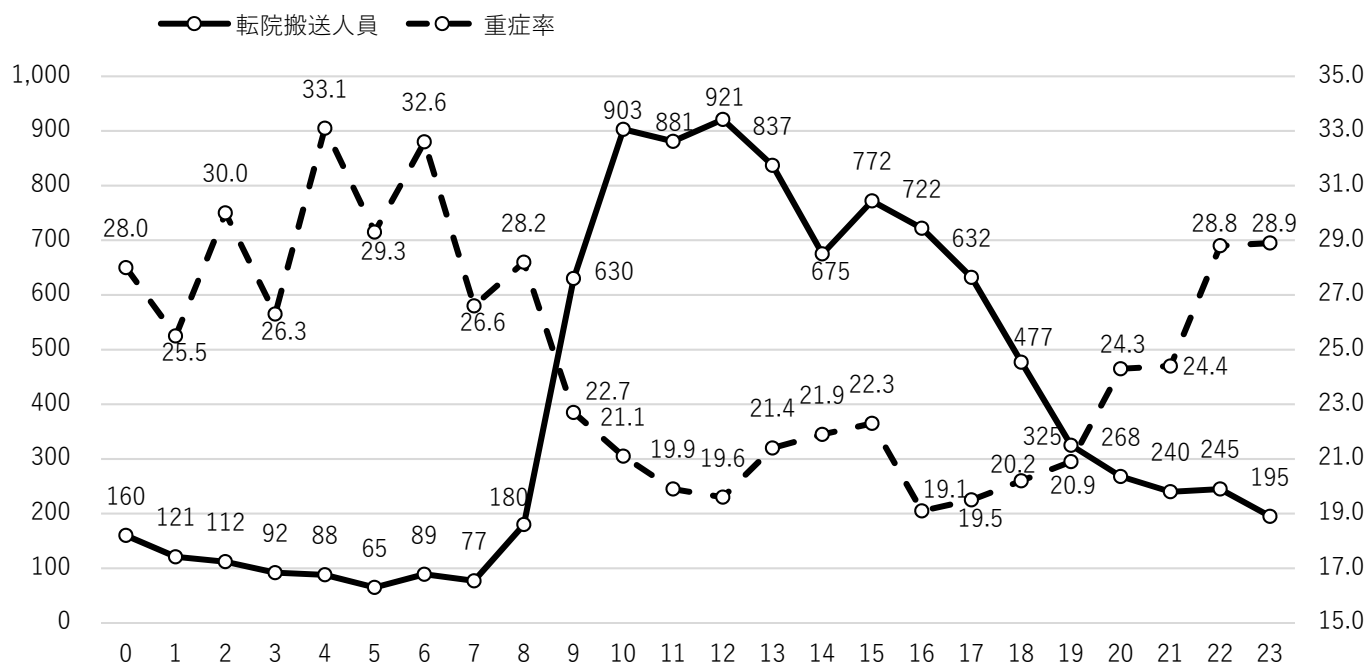


イ 時間帯別、初診時程度別の比率

各時間帯の搬送人員を初診時程度別の構成比で見ると、重症以上の傷病者の比率は、深夜帯の方が日中の時間帯より高いことが伺えます。

これは、全体的には、転院搬送は医療機関の通常の診療時間帯に行われているのに対して、重症以上の傷病者は、緊急的な医療上の理由等により、時間帯を問わず転院搬送されていることを示唆していると言えます。

図表 2-4-73 時間帯別転院搬送人員の重症比率

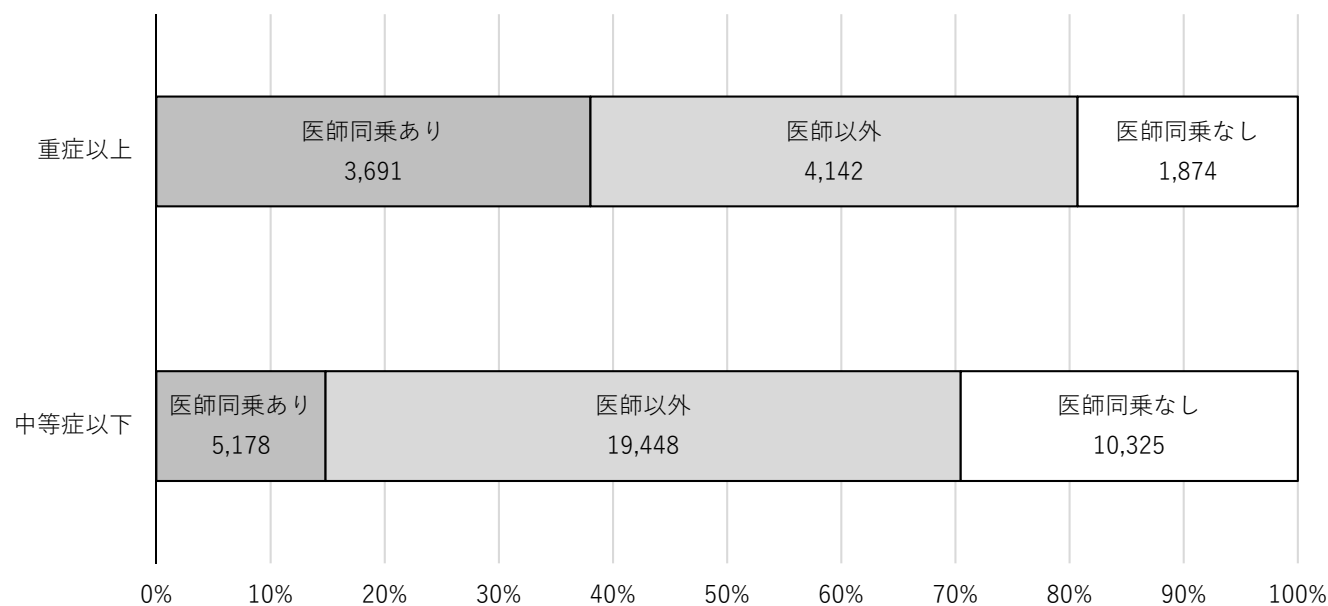


(6) 同乗者等（医師等）

東京消防庁救急業務等に関する規程第43条第2項において、「転院搬送を行う場合は、当該医療機関の医師を同乗させるものとする。ただし、医師が同乗による病状管理の必要がないと認め、かつ、搬送途上における相当な措置を講じた場合は、この限りではない。」としています。

病状管理が必要となる目安として、傷病者の初診時程度が重症以上及び中等症以下の場合にデータを区分し、医師の同乗比率を分析した結果は次のとおりで、重症以上の3割強に医師が同乗していることがわかります。

図表 2-4-74 転院搬送の医師等同乗比率



13 医師搬送・資器材等輸送

(1) 統計上の処理

ア 医師搬送

医師搬送とは、救急現場において傷病者に医師による医療行為が必要となった場合等に、救急隊により医師を救急現場に搬送することを指します。

イ 資器材等輸送

資器材等輸送とは、医薬品、医療用資器材、救急資器材等を救急隊により医療機関等に搬送することを指します。

資器材等の他に傷病者を搬送している場合は、資器材輸送には該当せず、当該傷病者の救急事故に応じた事故種別の出場件数、救護人員等に計上されます。

また、助産所からの要請により、保育器と同時に周産期医療施設等の医師を搬送する場合は、資器材等輸送（保育器）に計上しています。

(2) 推移

平成27年から令和元年の医師搬送・救急資器材等輸送件数は次のとおりです。

図表 2-4-75 医師搬送・資器材等輸送件数の推移

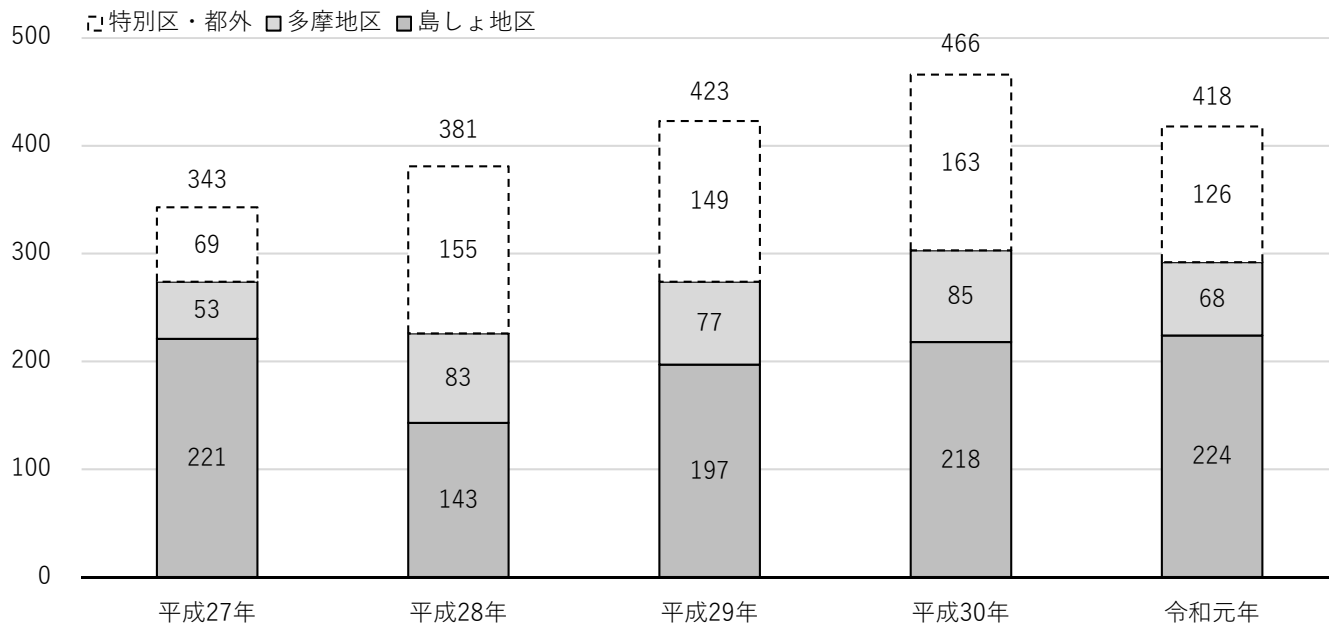
	医師搬送	資器材等輸送							
		資器材計	保育器	救急隊員	切断肢	臓器	医療機器	医薬品等	その他
平成27年	217	534	480	38	3	7	2	-	4
平成28年	229	504	489	1	5	5	2	-	2
平成29年	190	542	503	21	2	11	3	-	2
平成30年	210	546	495	36	-	10	1	1	3
令和元年	211	556	501	38	2	10	-	-	5

14 回転翼航空機による救急活動

回転翼航空機による救急出場件数及び初診時程度別搬送人員の推移は次のとおりです。初診時程度別では重症以上が約83.1%を占めています。

図表 2-4-76 回転翼航空機の救急出場件数の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
鳥しょ地区	221	143	197	218	224
多摩地区	53	83	77	85	68
特別区・都外	69	155	149	163	126
合計	343	381	423	466	418



図表 2-4-77 回転翼航空機の初診時程度別搬送人員の推移

初診時程度	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
軽症	7	3	4	11	1
中等症	101	113	74	77	41
重症	122	123	131	144	124
重篤	32	37	41	30	7
死亡	1	6	3	2	75
合計	263	282	253	264	248
搬送人員※	92	111	100	100	86

※ ヘリが最終的に病院へ搬送した人員

